

令和 8 年度第 2 回狛江市市民福祉推進委員会権利擁護小委員会
兼狛江市権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会 アジェンダ

◇開催日時・場所

令和 8 年 6 月 23 日（火）午後 6 時 30 分から 8 時 00 分まで
ハイブリッド形式で開催（会場：防災センター 4 階会議室）

◇参加者

構成員：狛江市市民福祉推進委員会 権利擁護小委員会委員
事務局：福祉政策課福祉政策係

◇目的

- ・ 狛江市第 1 次地域共生社会推進基本計画 実施計画（以下「実施計画」という。）の権利擁護小委員会における評価について審議する。
- ・ 市民意識調査報告書（案）～クロス集計結果～について報告する。
- ・ 中核機関の委託について審議する。

◇議題内容・進行予定

（狛江市市民福祉推進委員会権利擁護小委員会）

議題	項目	ポイント・成果	手法・資料	割当時間
1	審議 実施計画の権利擁護小委員会における評価について	実施計画の権利擁護小委員会における各委員からの評価を報告し、小委員会での評価について審議する。	【資料 1-1】 P 3 【資料 1-2】 P 18	15 分
2	報告 市民意識調査報告書（案）～クロス集計結果～について	市民意識調査報告書（案）～クロス集計結果～について報告する。	【資料 2】 P 21	5 分
3	審議 成年後見制度利用促進基本計画の内容について	成年後見制度利用促進基本計画の改定（案）について審議する。	【資料 3】 P 127	20 分
4	その他	次回の会議について確認する。	【資料 4】 P 130	5 分

(狛江市権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会)

1	審議 地域権利擁護相談支援センター（中核機関）の委託内容（案）について	令和9年度から中核機関を狛江市社会福祉協議会へ委託する内容（案）について、審議する。	【資料5】 P131	45 分
---	---	--	-----------------------	------

◇資料一覧

【アジェンダ】 令和8年度狛江市市民福祉推進委員会第2回権利擁護小委員会

【資料1-1】 狛江市第1次地域共生社会推進基本計画実施計画（狛江市市民福祉推進委員会による進捗状況評価） P 3

【資料1-2】 委員会等の意見の次期実施計画への反映について P 18

【資料2】 福祉に関する調査 集計結果報告書（案） P 21

【資料3】 成年後見制度利用促進基本計画の改定（案） P 127

【資料4】 令和8年度権利擁護小委員会兼権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会全体工程表 P 130

【資料5】 地域権利擁護相談支援センター（中核機関）を委託するためのロードマップ（案） P 131

年度		令和7(2025)									
(A) 基本目標		(B) 施策		(C) 重点取組及び事業（取組）内容			(D) -1 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議における評価	(D) -2 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議における意見	(D) -3 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議からの意見について担当課からの回答	(E) 狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する市民福祉推進委員会等からの評価及び次年度に向けた意見	
目的		手段 目的		手段							
				重点取組	事業（取組）内容	担当課による進捗状況評価（当初）					
1	一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制の構築	1-3	判断能力に支援が必要な方の自己決定権を尊重した意思決定支援を推進します。	1-3-1	支援・検討会議における必要な権利擁護支援の検討を通じた多様な主体への意思決定支援の推進	支援・検討会議の実施（試行含む）によるサポートの実施	A：進捗している	A：進捗している	①目標値：「1 回以上」に対し実績値：「1 回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）目標（値）に設定している1回以上は実施しており、令和6年度は0回だったところ、令和7年度は権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会にて支援・検討会議を試行実施し、実際に支援につなぐことができたため、「A：進捗している」と評価した。	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
				1-3-2	市内権利擁護業務担当者の勉強会等による定期的な意思決定支援に関する研修の実施	アドバイザースタッフ会議等を活用した権利擁護支援・意思決定支援の実施	A：進捗している	A：進捗している	①目標値：「1 回以上」に対し実績値：「1 回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）目標（値）に設定している1回以上は実施しており、権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会にて助言を受ける支援・検討会議を試行実施し、実際に支援につなぐことができたため、「A：進捗している」と評価した。	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
				1-3-3	市内権利擁護業務担当者の勉強会等による定期的な意思決定支援に関する研修の実施	市内権利擁護業務担当者勉強会の開催	B：現状維持	B：現状維持			②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
2	「つながり」を実感できる地域づくり	2-4	地域住民が権利擁護支援の担い手として地域社会で活躍できる体制を推進します。	2-4-1	地域住民が意思決定支援を含め権利擁護支援に対して正しい理解の促進を図るための普及啓発の推進	（再掲）市内権利擁護業務担当者勉強会の開催 地域住民に対するセミナー等の開催	B：現状維持	B：現状維持			②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
				2-4-2	市民後見人、生活支援員のみならず、多様な権利擁護支援の担い手の育成・養成	あんしん狛江、多摩南部成年後見センターで候補者推薦、後見人等として選任されるまでの支援の実施 （再掲）地域住民に対するセミナー等の開催	B：現状維持	B：現状維持			③推進会議の評価と異なる評価とする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
				2-4-3	市民後見人の活躍支援	市民後見人の市内権利擁護業務担当者勉強会への参加	B：現状維持	C：あまり進捗していない	①目標値：「1 人以上」に対し実績値：「0 人」のため、C評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）【進捗状況評価】を「C：あまり進捗していない」に修正	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
3	社会参加を促す仕組みづくり	3-3	権利擁護支援に必要な市民が尊厳のある本人らしい生活を継続し、地域社会に参加できる環境整備を推進します。	3-3-1	権利擁護支援チームと重層的支援体制整備事業（参加支援事業）との連携を図り、身寄りのない本人等への権利擁護支援及び地域への参加の支援等の仕組みづくりの推進	「狛江市単身高齢者等支援事業」の実施 あんしん狛江の職員が重層的支援会議等に参加	B：現状維持	B：現状維持	①「あんしん狛江」の職員が重層的支援会議等に参加」の方は実績0回のため、C評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）権利擁護支援に関する内容が無かったことによる参加の実績無しのため、「B：現状維持」と評価した。	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
4	総合的で切れ目のない生活支援システムづくり	4-1	身寄りのない市民等への支援体制の整備を推進します。	4-1-2	身寄りのない市民等への支援体制の強化	身元保証を代替する支援の実施	A：進捗している	A：進捗している	①狛江市単身高齢者等支援事業について、身寄りのない単身者は増加しているため、今後相談件数が増加していくと考える。		②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
						死後事務に関する支援の実施					
		4-4	多様な福祉人材の確保・育成に向けた支援体制を充実させます	4-4-2	（再掲）市民後見人・生活支援員のみならず、多様な権利擁護支援の担い手の育成・養成	日常生活支援の実施 （再掲）地域住民に対するセミナー等の開催	B：現状維持	B：現状維持			②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
		4-5	権利擁護支援の必要性を判断・検討し、成年後見制度の利用が必要な場合に適切な候補者を推薦する仕組みの整備を推進します。	4-5-1	支援・検討会議での権利擁護支援の必要性の判断・検討、適切な成年後見人等の候補者の受任調整の仕組みの構築	支援・検討会議の実施（試行も含む）	A：進捗している	A：進捗している	①目標値：「1 回以上」に対し実績値：「1 回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）目標（値）に設定している1回以上は実施しており、令和6年度は0回だったところ、令和7年度は権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会にて支援・検討会議を試行実施し、実際に支援につなぐことができたため、「A：進捗している」と評価した。	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】
				4-5-2	専門職団体との連携の推進	（再掲）市内権利擁護業務担当者勉強会の開催 専門職団体との連絡会への出席	B：現状維持	B：現状維持			③推進会議の評価と異なる評価とする。（意見については（イ）のとおり。） 【権利擁護小委員会】

年度		令和7(2025)									
(A) 基本目標		(B) 施策		(C) 重点取組及び事業（取組）内容			(D) -1 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議における評価	(D) -2 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議における意見	(D) -3 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議からの意見について担当課からの回答	(E) 狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する市民福祉推進委員会等からの評価及び次年度に向けた意見	
目的		手段 目的		手段							
				重点取組	事業（取組）内容	担当課による進捗状況評価（当初）					
5	多機関で協働して支援に当たる体制の構築	5-2	権利擁護支援の地域連携ネットワーク関係者が連携して、権利擁護支援が必要な市民をチームで支援する体制整備を推進します。	5-2-1	中核機関による権利擁護支援チームの形成の支援体制の構築	社協による中核機関の運営	C：あまり進捗していない	C：あまり進捗していない		②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	①7 ②2 ③0
				5-2-2	中核機関による成年後見人等の選任後の権利擁護支援チームへの支援体制の構築	《再掲》社協による中核機関の運営 本人や対象者、成年後見人等へのモニタリング・バックアップ体制の構築の検討	C：あまり進捗していない	C：あまり進捗していない			
		5-3	中核機関のコーディネート機能を強化し、包括的・多層的な権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築を効果的に推進します。	5-3-1	社協に中核機関の運営を委託し、権利擁護支援が円滑に行われる多機関協働のネットワークの形成を支援	《再掲》社協による中核機関の運営 狛江市権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会の実施	B：現状維持	B：現状維持		②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	①8 ②1 ③0
				5-3-2	包括的・多層的な権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築の推進	《再掲》社協による中核機関の運営 包括的・多層的な権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築	B：現状維持	B：現状維持	①担当課に子ども家庭課を入れても良いのではないかと懸う。		
				5-3-3	複雑かつ複合的な権利擁護支援に係る課題について重層的支援体制整備事業との連携の推進	《再掲》あんしん狛江の職員が重層的支援会議等に参加	B：現状維持	B：現状維持	①（福祉政策課）令和8年度実施計画の策定の際に修正する方向で検討する。		
		5-4	権利擁護支援の地域連携ネットワークを活用し、権利侵害を防止する体制の構築を推進します。	5-4-1	権利擁護支援の地域連携ネットワークを活用した権利侵害の防止体制の構築の推進	支援・検討会議と既存会議の連携体制の構築	A：進捗している	A：進捗している	①（福祉政策課）権利擁護支援に関する内容が無かったことによる参加の実績無しのため、「B：現状維持」と評価した。	①推進会議の評価のとおりとする。（権利擁護小委員会）	①9 ②0 ③0
				5-4-2	地域包括支援センター及び基幹相談支援センターによる権利擁護支援及び事業所間の連携強化の推進	《再掲》市内権利擁護業務担当者勉強会の開催	B：現状維持	B：現状維持			
										①推進会議の評価のとおりとする。（権利擁護小委員会）	①9 ②0 ③0

(イ) 市の実施計画の評価結果に対する意見等
 選択 権利擁護小委員会

基本目標 1：一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制の構築

No.	施策	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する	
		委員会等からの評価	委員会等からの意見
1	1-3-1	②推進会議の評価のとおりとする。(意見については(イ)のとおり。)(権利擁護小委員会)	令和8年度、令和9年度とも、1回以上の目標値では、社会情勢に対応できるとはいえない。既存の会議を活用して、実施目標値をあげる必要があると考えます。
2			開催回数はもう少し増やせると考えます。
3			令和8年度以降は定例開催を前提とした目標設定が必要であると考えます。
4	1-3-2	②推進会議の評価のとおりとする。(意見については(イ)のとおり。)(権利擁護小委員会)	東京都のアドバイザリースタッフ会議の活用ではなく、権利擁護小委員会委員の活用、委員の中には東京都権利擁護センターのアドバイザー、制度に精通した弁護士、精神科医師がおりますので、狛江市独自の体制で実施できると考えます。
5	1-3-3	②推進会議の評価のとおりとする。(意見については(イ)のとおり。)(権利擁護小委員会)	勉強会の内容や運営方法について、より工夫が必要と考えます。

基本目標２：「つながり」を実感できる地域づくり

No.	施策	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する	
		委員会等からの評価	委員会等からの意見
1	2-4-1	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	実施回数だけではかれるものではないので、今後はフィードバックについての情報も踏まえた計画の策定が必要ではないでしょうか。
2	2-4-2	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	今後、民法や社会福祉法等の改正が進む中で、市民後見人へ期待される役割も同様に変化していく。ブラッシュアップできる研修を望みたい。
3			事業内容が「地域住民に対する～」となっているので、つなぎ役である民生・児童委員への研修は趣旨が違いうように感じました。
4			法改正等の動向もふまえ、権利擁護支援に関する人材育成は、今後益々重要となるため、積極的な取り組みが期待されると考えます。
5		③推進会議の評価と異なる評価とする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	あんしん狛江の相談内容では、後見人からの相談に多く対応している実績があります。その内容の精査は必要ですが、評価はAではないでしょうか。
6	2-4-3	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	市民後見人の活躍支援は、何も勉強会への参加だけではなく、後見人以外の地域での権利擁護支援活動への参加だと思いますので、活躍の場面を増やす取り組みも求められると考えます。
7			市民後見人の養成とフォローアップは、多摩南部成年後見センターが主催しているため、市民後見人は狛江市による権利擁護業務担当者勉強会等へ参加する意識を持ちにくいかもしれない。多摩南部成年後見センターへ狛江市の取り組みの周知と、同センターと連携した市民後見人への広報のあり方を更に検討されたい。
8			開催する時間や勉強会のテーマなどを、市民後見人が参加しやすいものにしてはどうでしょうか。他の専門職と交流することは意義があることだと考えます。
9			狛江市の市民後見人登録者を対象とした勉強会等の実施が期待されます。

基本目標３：社会参加を進めるシステムづくり

No.	施策	粕江市地域共生社会推進会議における評価に対する	
		委員会等からの評価	委員会等からの意見
1	3-3-1	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	異なる指標がひとつのカテゴリーで評価基準になっていると思います。総合すればBということかと思いません。それでいいのでしょうか。
2			「令和８年度以降の取組や方針」のところになりますが、既に相談につながっている利用者なので「潜在的」ニーズとまで表現してよいか気になりました。

基本目標4：総合的で切れ目のない生活支援システムづくり

No.	施策	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する	
		委員会等からの評価	委員会等からの意見
1	4-1-2	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	狛江市単身高齢者等支援事業の周知により、関心を持った市民が、利用希望を表明したり、相談に来所する前段階において、メールやAIの活用等で気軽に問い合わせできる体制がとれないものでしょうか。
2			「令和8年度以降の取組や方針」のところになるのですが、既に相談につながっている利用者なので「潜在的な」ニーズとまで表現してよいか気になりました。
3	4-4-2	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	今後、民法や社会福祉法等の改正が進む中で、市民後見人へ期待される役割も同様に変化していく。ブラッシュアップできる研修を望みたい。
4			事業内容が「地域住民に対する～」となっているので、つなぎ役である民生・児童委員への研修は趣旨が違ってしまうように感じました。
5	4-5-1	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	この会議体を定着させ、回数を増やしていくことが国の基本計画にも合致します。そのためには関係者への周知啓発が必要ではないでしょうか。
6			中核機関が法制化されるなか、今後、より積極的に取り組む必要があると考えます。
7	4-5-2	③推進会議の評価と異なる評価とする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	評価基準が異なるかもしれませんが、非常に連携がとれているので、現状維持ではありながらも進捗しているとして評価はAではないかと考えます。

基本目標5：多機関で協働して支援に当たる体制の構築

No.	施策	粕江市地域共生社会推進会議における評価に対する	
		委員会等からの評価	委員会等からの意見
1	5-2-1	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
2			今後の中核機関の設置は重要だが、推進機関として実施していることは評価できると考えます。
3	5-2-2	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
4			課題の整理はできていないのかもしれませんが、バックアップ体制はできている部分もあると思います。
5	5-3-1	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
6	5-3-2	②推進会議の評価のとおりとする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
7	5-3-3	③推進会議の評価と異なる評価とする。（意見については（イ）のとおり。）（権利擁護小委員会）	権利擁護に関する内容がなかったので参加なし、とのことですが、権利擁護に関する内容がないことを、誰がどの時点で判断しているのでしょうか。他地域では、そのような判断は事前に行わず、会議に参加するなかで、権利擁護の課題に気づく、ということが一般的ですので、この考え方を見直していただきたく、（評価と考えます。

粕江市第1次地域共生社会推進基本計画実施計画に関する
市民福祉推進委員会、高齢小委員会、障がい小委員会及び権利擁護小委員会による
進捗状況評価
令和7年度 報告書（案）

令和8年〇月

2 評価について

(1) 評価方法

狛江市地域共生社会推進基本計画 実施計画では、狛江市地域共生社会推進基本計画（以下「基本計画」）の事業のうち重点施策の関連事業を評価しています。

この関連事業の進捗結果を各事業の担当課がとりまとめ、地域共生社会推進会議にて、【市の実施計画の評価】として評価を行いました。

その後、当評価を市民福祉推進委員会等において評価をし、出された意見をまとめました。

(2) 評価の視点

実施計画の年次目標に記載されている各項目における令和7年度の実施状況を確認したうえで、事業全体を俯瞰した観点から総合的な評価を行いました。評価の結果は、以下のとおりとなります。

評価	評価基準	評価結果（件数）
A	進捗している。（目標（値）に対し80%以上達成）	○
B	現状維持（目標（値）に対し50%以上80%未満達成）	○
C	あまり進捗していない。（目標（値）に対し50%未満達成）	○
D	全く進捗していない。	○

(3) 総評

A評価が○件、B評価が○件、C評価が○件、D評価が○件として、地域共生社会の実現に資する取組が進められました。

(4) 委員会等における実施計画の評価結果に対する評価及び意見等

市民福祉推進委員会等において、市が行った実施計画の評価結果を各(ア)のとおり評価しました。なお、②③と評価したものについての意見等は各(イ)のとおりです。

エ 権利擁護小委員会

(ア) 市の実施計画の評価結果の評価

①推進会議の評価のとおりとする。	5-4-1、5-4-2
②推進会議の評価のとおりとする。 (意見についてはエ(イ)のとおり。)	1-3-1、1-3-2、1-3-3、2-4-1、2-4-3、 3-3-1、4-1-2、4-4-2、4-5-1、5-2-1、 5-2-2、5-3-1、5-3-2
③推進会議の評価と異なる評価とする。(意見についてはエ(イ)のとおり。)	2-4-2、4-5-2、5-3-3

(イ) 市の実施計画の評価結果に対する意見等

No.	取組No.	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する 委員会等からの意見
1	1-3-1	令和8年度、令和9年度とも、1回以上の目標値では、社会情勢に対応できるとはいえない。既存の会議を活用して、実施目標値を上げる必要があると考えます。
2		開催回数はもう少し増やせると考えます。
3		令和8年度以降は定例開催を前提とした目標設定が必要であると考えます。
4	1-3-2	東京都のアドバイザリースタッフ会議の活用ではなく、権利擁護小委員会委員の活用、委員の中には東京都権利擁護センターのアドバイザー、制度に精通した弁護士、精神科医師がおりますので、狛江市独自の体制で実施できると考えます。
5	1-3-3	勉強会の内容や運営方法について、より工夫が必要と考えます。

No.	取組No.	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する 委員会等からの意見
6	2-4-1	実施回数だけではかれるものではないので、今後はフィードバックについての情報も踏まえた計画の策定が必要ではないでしょうか。
7	2-4-2	今後、民法や社会福祉法等の改正が進む中で、市民後見人へ期待される役割も同様に変化していく。ブラッシュアップできる研修を望みたい。
8		事業内容が「地域住民に対する～」となっているので、つなぎ役である民生・児童委員への研修は趣旨が違っているように感じました。
9		法改正等の動向もふまえ、権利擁護支援に関する人材育成は、今後益々重要となるため、積極的な取り組みが期待されると考えます。
10		あんしん狛江の相談内容では、後見人からの相談に多く対応している実績があります。その内容の精査は必要ですが、評価はAではないでしょうか。
11	2-4-3	市民後見人の活躍支援は、何も勉強会への参加だけではなく、後見人以外の地域での権利擁護支援活動への参加だと思いますので、活躍の場面を増やす取り組みも求められると考えます。
12		市民後見人の養成とフォローアップは、多摩南部成年後見センターが主催しているため、市民後見人は狛江市による権利擁護業務担当者勉強会等へ参加する意識を持ちにくいかもしれない。多摩南部成年後見センターへ狛江市の取り組みの周知と、同センターと連携した市民後見人への広報のあり方を更に検討されたい。
13		開催する時間や勉強会のテーマなどを、市民後見人が参加しやすいものにしてはどうでしょうか。他の専門職と交流することは意義があることだと考えます。
14		狛江市の市民後見人登録者を対象とした勉強会等の実施が期待されます。

No.	取組No.	粕江市地域共生社会推進会議における評価に対する 委員会等からの意見
15	3-3-1	異なる指標がひとつのカテゴリーで評価基準になっていると思います。総合すればBということかと思 います。それでいいのでしょうか。
16		「令和8年度以降の取組や方針」のところになりますが、既に相談につながっている利用者なので 「潜在的な」ニーズとまで表現してよいか気になりました。

No.	取組No.	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する 委員会等からの意見
17	4-1-2	狛江市単身高齢者等支援事業の周知により、関心を持った市民が、利用希望を表明したり、相談に来所する前段階において、メールやAIの活用等で気軽に問い合わせできる体制がとれないものでしょうか。
18		「令和8年度以降の取組や方針」のところになるのですが、既に相談につながっている利用者なので「潜在的な」ニーズとまで表現してよいか気になりました。
19	4-4-2	今後、民法や社会福祉法等の改正が進む中で、市民後見人へ期待される役割も同様に変化していく。ブラッシュアップできる研修を望みたい。
20		事業内容が「地域住民に対する～」となっているので、つなぎ役である民生・児童委員への研修は趣旨が違ってしまうように感じました。
21	4-5-1	この会議体を定着させ、回数を増やしていくことが国の基本計画にも合致します。そのためには関係者への周知啓発が必要ではないでしょうか。
22		中核機関が法制化されるなか、今後、より積極的に取り組む必要があると考えます。
23	4-5-2	評価基準が異なるかもしれませんが、非常に連携がとれているので、現状維持ではありながらも進捗しているとして評価はAではないかと考えます。

No.	取組No.	粕江市地域共生社会推進会議における評価に対する 委員会等からの意見
24	5-2-1	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
25		今後の中核機関の設置は重要だが、推進機関として実施していることは評価できると考えます。
26	5-2-2	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
27		課題の整理はできていないのかもしれませんが、バックアップ体制はできている部分もあると思います。
28	5-3-1	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
29	5-3-2	中核機関を社協へ運営委託するためのロードマップ作成は急がれる。
30	5-3-3	権利擁護に関する内容がなかったので参加なし、とのことですが、権利擁護に関する内容がないことを、誰がどの時点で判断しているのでしょうか。他地域では、そのような判断は事前に行わず、会議に参加するなかで、権利擁護の課題に気づく、ということが一般的ですので、この考え方を見直していただきたく、C評価と考えます。

委員会等の意見の次期実施計画への反映について

粕江市第1次地域共生社会推進基本計画 実施計画(令和8年版)(以下「次期実施計画」と言います。)の策定にあたり、地域共生社会推進会議及び全ての委員会・小委員会(以下「委員会等」と言います。)からの評価結果の評価が終わった段階で、次ページ以降のように、各担当課において委員会等からの意見のとりまとめ結果を参考にして、次期実施計画の作成を行います。

1. 担当課評価結果

取組No.	1-1-1	重点取組	福祉のつなぐシート登録システムの民間事業者等への拡大の推進													
担当課	福祉政策課		大施策	包括的な支援に関すること				構成計画	地	●	後		高		障	
区分	拡充															
①事業概要																
福祉のつなぐシート登録システムを活用してつなぎの重層化を図ることにより、一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制を構築します。 切れ目のない相談支援体制を構築するため、福祉のつなぐシート登録システムの利用者を庁内窓口のみならず、庁外の民間事業者にまで広く拡大します。																
②施策に関する具体的な事業や取組																
事業（取組）内容		成果(活動)指標		R 7			R 8			R 9						
福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等の拡大 担当課：福祉政策課		市内登録事業者数（累積）	③目標(値)	25事業者以上			30事業者以上			35事業者以上						
			④実績(値)	69事業者												
			⑤進捗状況評価	A：進捗している												
「評価」の理由		学童保育所支援員会議や郵便局長会議等、数多くの関係者が集まる会議体を通じて「福祉のつなぐシート」について説明をし、児童福祉施設や金融機関等へ導入いただけたことから、目標値を44事業者上回る福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等（以下、「市内登録事業者」という。）を確保できた（69事業者（前年度比+41事業者）のうち、新規は41事業者（前年度比+24事業者））。また、9つの「つなぎ」のうち活用民間事業者等から5件の「つなぎ」を実現できたため。														
課題等		活用民間事業者等を増やすことができたが、つながった案件が少なかった。														
令和8年度以降の取組や方針		幅広い市内登録事業者に活用いただけるよう、使用感に対するヒアリングを行い、より利活用しやすいシステム構築を検討する。														

2. 推進会議評価結果及び委員会等からの意見

(D) - 1 主な重点取組に対する 狛江市地域共生社会推進会議に おける評価	(D) - 2 主な重点取組に対する 狛江市地域共生社会推進会議における 意見	(D) - 3 主な重点取組に対する 狛江市地域共生社会推進会議からの意見に ついて 担当課からの回答	(E) 狛江市地域共生社会推進会議における評 価に対する 市民福祉推進委員会等からの評価及び 次年度に向けた意見
A：進捗している	〇〇〇	△△△	<u>②推進会議の評価のとおりとする。（意見に ついては（イ）のとおり。）（〇〇委員会）</u>



(例)

(イ)市の実施計画の評価結果に対する意見等

No.	取組No.	委員会等からの意見
1	1-1-1	実績（値）ですでに目標（値）を大きく達成しているので、成果指標を登録事業者数ではなく活用案件数にした方がよいのではないか。

3-1. 地域共生社会推進基本計画 実施計画(令和7年9月)

取組No.	1-1-1	重点取組	福祉のつなぐシート登録システムの民間事業者等への拡大の推進													
担当課	福祉政策課		大施策	包括的な支援に関すること				構成計画	地	●	後		高		障	
区分	拡充															
①事業概要																
福祉のつなぐシート登録システムを活用してつなぎの重層化を図ることにより、一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制を構築します。切れ目のない相談支援体制を構築するため、福祉のつなぐシート登録システムの利用者を庁内窓口のみならず、庁外の民間事業者にもまで広く拡大します。																
②施策に関する具体的な事業や取組																
事業（取組）内容		成果(活動)指標	R 7				R 8				R 9					
福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等の拡大		市内登録事業者数（累積）	③目標(値)	25事業者以上				30事業者以上				35事業者以上				
担当課：福祉政策課																

(例)



3-2. 地域共生社会推進基本計画 実施計画(令和8年9月)

取組No.	1-1-1	重点取組	福祉のつなぐシート登録システムの民間事業者等への拡大の推進													
担当課	福祉政策課		大施策	包括的な支援に関すること				構成計画	地	●	後		高		障	
区分	拡充															
①事業概要																
福祉のつなぐシート登録システムを活用してつなぎの重層化を図ることにより、一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制を構築します。切れ目のない相談支援体制を構築するため、福祉のつなぐシート登録システムの利用者を庁内窓口のみならず、庁外の民間事業者にもまで広く拡大します。																
②施策に関する具体的な事業や取組																
事業（取組）内容		成果(活動)指標	R 8				R 9				R 10					
福祉のつなぐシート登録システムの民間事業者等による活用の拡大 担当課：福祉政策課		登録事業者による活用 案件数	③目標(値)		10件以上		15件以上				20件以上					

狛江市の福祉に関する調査
集計結果報告書

(案)

令和8年〇月

狛江市

目 次

第1章 調査の目的と構成

1 調査の目的.....	3
2 調査の概要.....	3
3 報告書を読むにあたっての留意点.....	4

第2章 市民一般調査

調査結果概要.....	7
調査結果.....	10
1 本人の基本情報.....	10
2 社会とのつながり・社会的孤立について.....	27
3 外出（ひきこもり）の状況について.....	65
4 避難行動要支援者支援について.....	69
5 単身高齢者等支援について.....	78
6 重層的支援体制整備について.....	83
7 手話について.....	86
8 地域の支え合いについて.....	88
まとめ.....	102



第 1 章 調査の目的と構成

1 調査の目的

本調査は、「狛江市第1次地域共生社会推進基本計画」（令和6年度～令和11年度）等の中間見直しの検討や福祉に関する市の計画である「狛江市第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画」（令和9年度～令和11年度）、「狛江市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」（令和9年度～令和11年度）の策定を進めるにあたり、生活状況やサービスの利用状況等をうかがい、サービスの不足や課題の把握と今後の施策の検討と高齢者福祉施策を推進していくための基礎資料とするため実施したものです。

2 調査の概要

郵送法及びWEBによる5種類のアンケート調査を実施しました。

市民一般調査	
調査対象者	令和7年11月1日時点で満16歳以上の市民 72,255人
調査方法	WEBによる調査
調査期間	令和7年12月1日（月）から令和8年1月5日（月）まで
回収数（回収率）	1,557票（2.2％）
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	
調査対象者	65歳以上の市民の方の中から無作為に抽出した 900人
調査方法	郵送による調査
調査期間	令和7年12月1日（月）から12月22日（月）まで
回収数（回収率）	646票（71.8％）
在宅介護実態調査	
調査対象者	要介護認定を受けている方（ただし、医療機関・施設等へ入所されている方を除く）のうち、介護保険要介護認定更新申請等に伴う認定を、令和6年10月から令和7年10月までの間に受けた方 600人
調査方法	郵送による調査
調査期間	令和7年12月1日（月）から12月22日（月）まで
回収数（回収率）	410票（68.3％）

障がいのある方・難病のある方（18歳以上）調査

調査対象者

障害者総合支援法に基づくサービスを利用している方、難病や自立支援の医療助成を受けている方などの中から無作為に抽出した 700 人

調査方法

郵送による調査

調査期間

令和 7 年 12 月 1 日（月）から 12 月 22 日（月）まで

回収数（回収率）

338 票（48.3%）

周囲の理解と支援の必要な方・障がいのある方等（18歳未満）調査

調査対象者

児童福祉法に基づくサービスを利用している方、医療助成を受けている方などの中から無作為抽出した 300 人

調査方法

郵送による調査

調査期間

令和 7 年 12 月 1 日（月）から 12 月 22 日（月）まで

回収数（回収率）

142 票（47.3%）

3 報告書を読むにあたっての留意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数第2位以下を四捨五入し、小数第1位までを表記します。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は、回答者が皆無であることを表します。
- クロス集計の結果、項目の順位が全体集計と変わることがあります。
- 図表の記載にあたり調査票の設問文、グラフ及び文章中の選択肢を一部簡略化している場合があります。
- クロス集計グラフでは、見やすさを優先し「0.0%」や1%未満の数値表示を省略しているものがあります。



第2章 市民一般調査

調査結果概要

■本人の基本情報について

- 回答者は女性が約6割、男性が約4割で、年齢層は50～70歳代が中心で、特に60歳代が最多で前回調査より高齢層の割合が増加。【問1 問2】
- 持ち家率が高く、一戸建てが約半数。居住歴は「30年以上」が4割超。【問4 問11】
- 既婚者（配偶者あり）は約7割だが、前回調査より減少。同居者は「配偶者」「子ども」が中心で、ひとり暮らし世帯は約2割で前回調査より増加。【問5 問6】
- 学歴は大学卒が半数を占め、就業状況は「正規雇用」が最多だが、「仕事をしていない」層も約4分の1。【問9 問10】
- 世帯年収は比較的幅広いが、中間～高所得層も一定数存在し、高齢層ほど低所得傾向、若中年層ほど高所得傾向がみられる。【問12】
- コミュニケーションに使用する情報通信機器は携帯電話・スマートフォンが99%。【問13】

■社会とのつながり・社会的孤立について

- 別居家族や友人とは直接の会話、電話は「月1回未満」が多い一方、SNSや電子メールは「週4～5回以上」が最多。【問14】
- 同居家族との直接の会話は、「週4～5回以上」が7割超。SNSや電子メールでも「週4～5回以上」が約4割で最多。【問15】
- 「重要な事柄の相談」や「感情の共有」では7～8割が頼れる人がいる一方、「介護」「お金の援助」「保証人」などでは「頼れる人がいない」層も一定数存在する。また、すべての事柄で頼れる相手は「家族・親族」が最多【問16】
- 行政やNPOなどの支援を受けていない人が約9割で、その理由の大半は「支援が必要ないため」。一方、支援を受けている人は、行政機関からの「相談支援」「経済支援」が中心。【問17 問17-1 問17-2 問17-3】
- 孤独感を「感じない」と「あまり感じない」の合計は約75%。ただし約2割は孤独感を感じている。特にひとり暮らし、未婚、社会的孤立該当者、所得の低い層で孤独感が高い傾向。また、孤立死を「身近な問題」と感じる人は過半数。特に若年層、ひとり暮らし世帯、未婚の層で孤独死への不安感が高い傾向。【問20 問21】
- 会やグループへの参加状況は、参加町会・自治会、ボランティア、地域サロンなどは「参加する予定はない」が多数の一方、趣味活動や同じ学校出身のグループは「1年以上前から参加」が約3割。年齢が高くなるほど地域活動の参加率が高い傾向。【問19】

■外出（ひきこもり）の状況について

- 約13%が「身近にひきこもり状態の人がいる」【問22】
- 対象は家族・親族が多数で、年齢は20歳未満から50代まで。【問23 問24】
- 交流の状況は「家族以外との交流がない」が最多。【問26】
- 半数は、「決まった目的のときだけ外出」し、その状況が5年以上継続しているケースが半数以上。【問26 問27】
- その状態になった要因は多い順に「疾病や障がい（精神的なもの）」、「不登校（中学校）」、「学校や職場でのいじめや疎外感」、「不登校（小学校）」だが、約2割は「きっかけがわからない」。【問28】

■避難行動要支援者支援について

- 災害時の情報収集ツールは「スマートフォン・携帯電話」が約9割、「テレビ」が約8割。【問29】
- 約7割が災害発生の際に安否確認や避難支援してくれる人がおり、その支援者は主に同居・近居親族。ただし、ひとり暮らし、未婚、社会的孤立該当者の層では支援者が「いない」が多数。【問30 問30-1】
- 防災ラジオは「無償なら希望」が最多だが、約3割「希望しない」。【問31】
- 避難のきっかけは多い順に、「市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ」、「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」【問32】
- 災害時には地域のためにできる協力は多い順に、「安否確認」、「安全な場所への避難の手助け」、「災害状況や避難情報の伝達」【問33】
- 協力できない人のその理由は多い順に、「近所付き合いがあまりない」、「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない」、「避難行動要支援者がどこにいるかわからない」【問33-1】
- 避難行動要支援者の対策として行政への期待することは、「地域での協力体制づくり」が最多【問34】

■単身高齢者等支援について

- 万一の時に頼れるのは、「別居の家族・親族」、「同居の家族・親族」が約6割【問35】
- 頼れる人がいない場合にあれば安心な支援は、約5～6割は「病院への通院の付き添いや、入退院時の手伝いをしてくれるサービス」、「生活費等の金銭管理や日常のちょっとした困りごとの手伝いや見守りをしてくれるサービス」、「施設に入所するなど住むことに関するサービスについて相談できる窓口」で、月に3,000円までの自己負担なら利用したい人が3割超だが、所得の低い層では「費用がかかるなら利用しない」が多数。【問36 問37】
- あんしん未来事業（単身高齢者等支援事業）の認知度は6.1%【問38】

■重層的支援体制整備について

- 重層的支援体制整備事業の推進に向けて特に力を入れるべき取り組みは多い順に、「だれもが必要とした時に、社会とのつながりを持つことができるようにするための支援」、「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」、「複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなぐ仕組み」、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」【問39】
- 社会福祉サービスを充実させるには「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」が約6割【問40】

■手話について

- 手話の認知度は95%と非常に高く、「手話は言語」である認識も9割超。【問41 問42】
- 手話を「ぜひ覚えてみたい」、「機会があれば学びたい」が約7割。【問43】

■地域の支え合いについて

- 住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が「必要」と思う人が約7割。【問45】
- 近所づきあいは「会えばあいさつする程度」が約4割、「助け合うまではいかないが、親しく話をしている人がいる」が約2割、「つきあいはほとんどない」は約1割で緩やかな関係性が中心となっている。【問44】
- 地域住民の有志の活動に企画・運営（お世話役）としての参加意向は、半数は「わからない」、「参加したい」は約3割。【問46】
- 地域活動・ボランティア活動等の意向は、「機会があれば、取り組んでもよい」が約4割。【問47】

調査結果

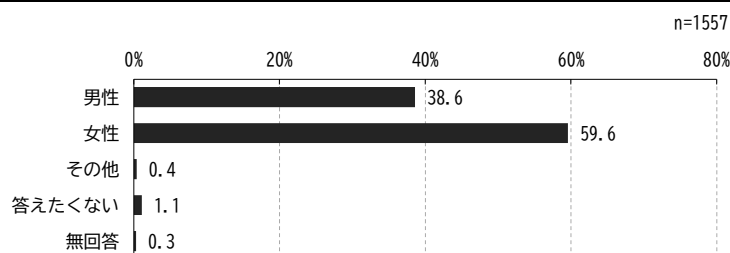
1 本人の基本情報

問1 あなたの性別をお答えください。

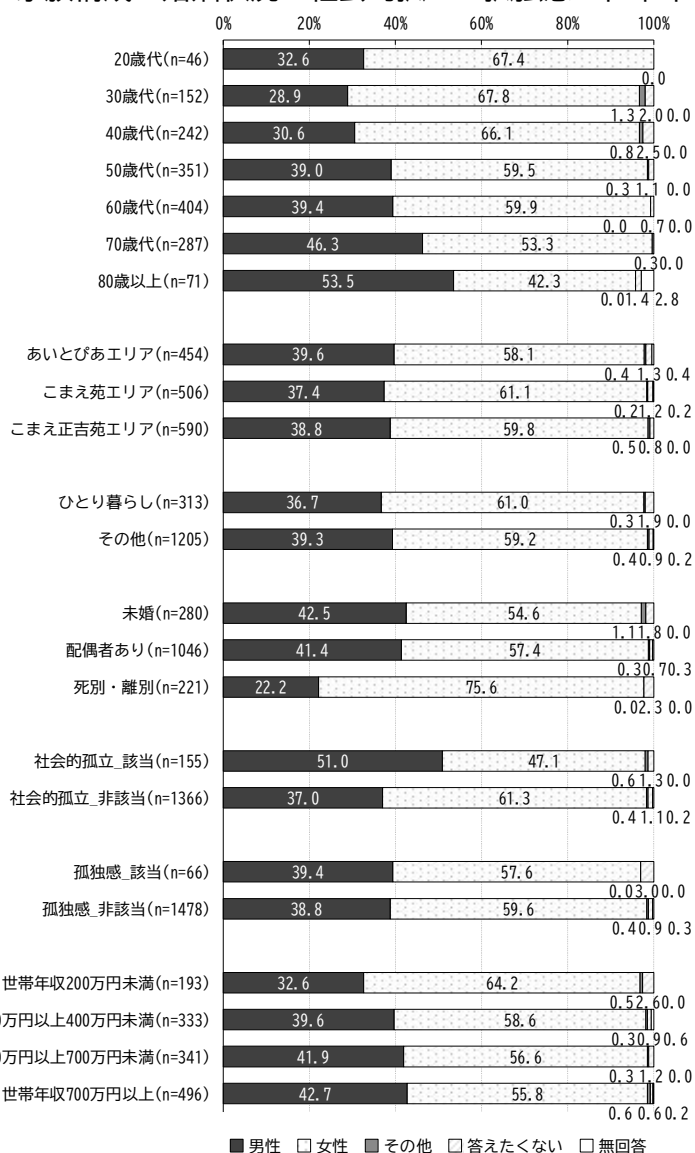
「女性」が59.6%と最も多く、次いで「男性」が38.6%、「答えたくない」が1.1%、「その他」が0.4%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「男性」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別では、死別・離別で「女性」の割合が高く、社会的孤立別では、該当で「男性」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「男性」の割合が高くなっています。



<年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



■ 男性 □ 女性 ■ その他 □ 答えたくない □ 無回答

問2 令和7年11月1日現在のあなたの年齢をお答えください。

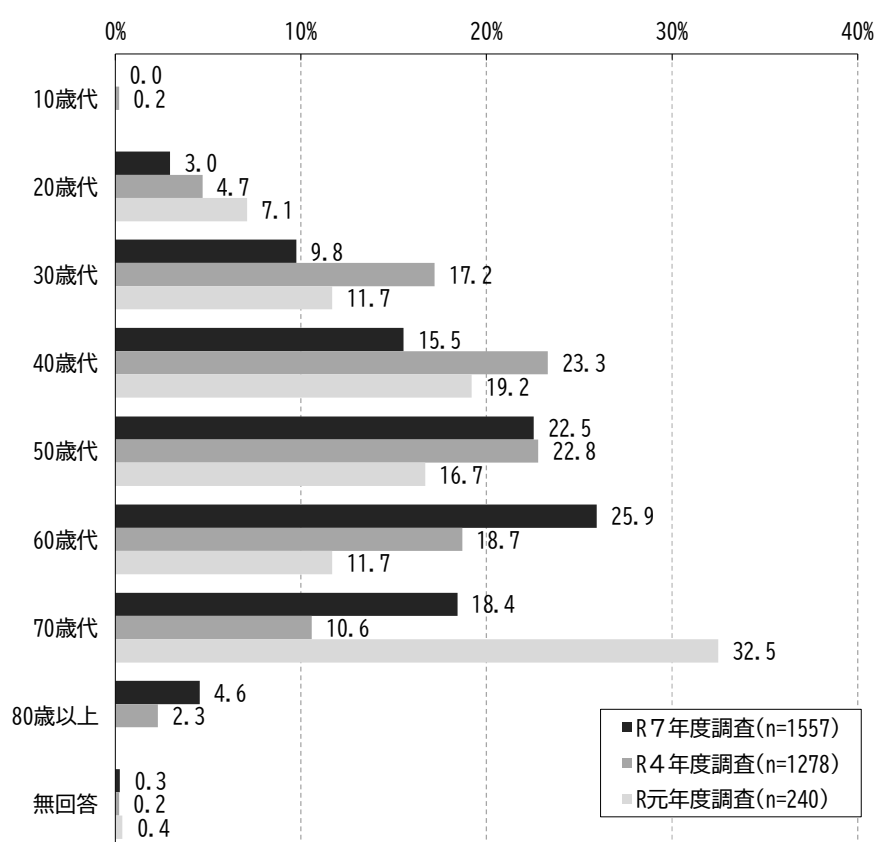
「60 歳代」が 25.9%と最も多く、次いで「50 歳代」が 22.5%、「70 歳代」が 18.4%、「40 歳代」が 15.5%、「30 歳代」が 9.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「30 歳代」が 7.4 ポイント、「40 歳代」が 7.8 ポイント少なく、「60 歳代」が 7.2 ポイント、「70 歳代」が 7.8 ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、居住エリア別では、あいとぴあエリアで「20 歳代」「30 歳代」の割合が高く、こまえ正吉苑エリアで「60 歳代」「70 歳代」の割合が高くなっています。

婚姻状況別では、未婚で「20 歳代」「30 歳代」の割合が高く、死別・離別では「60 歳代」から「80 歳代」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、400 万円以上で「30 歳代」から「50 歳代」の割合が高く、400 万円未満で「60 歳代」から「80 歳代」の割合が高くなっています。



※令和元年は「70歳以上」

<性別・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



問3 あなたがお住まいの地域はどちらですか。

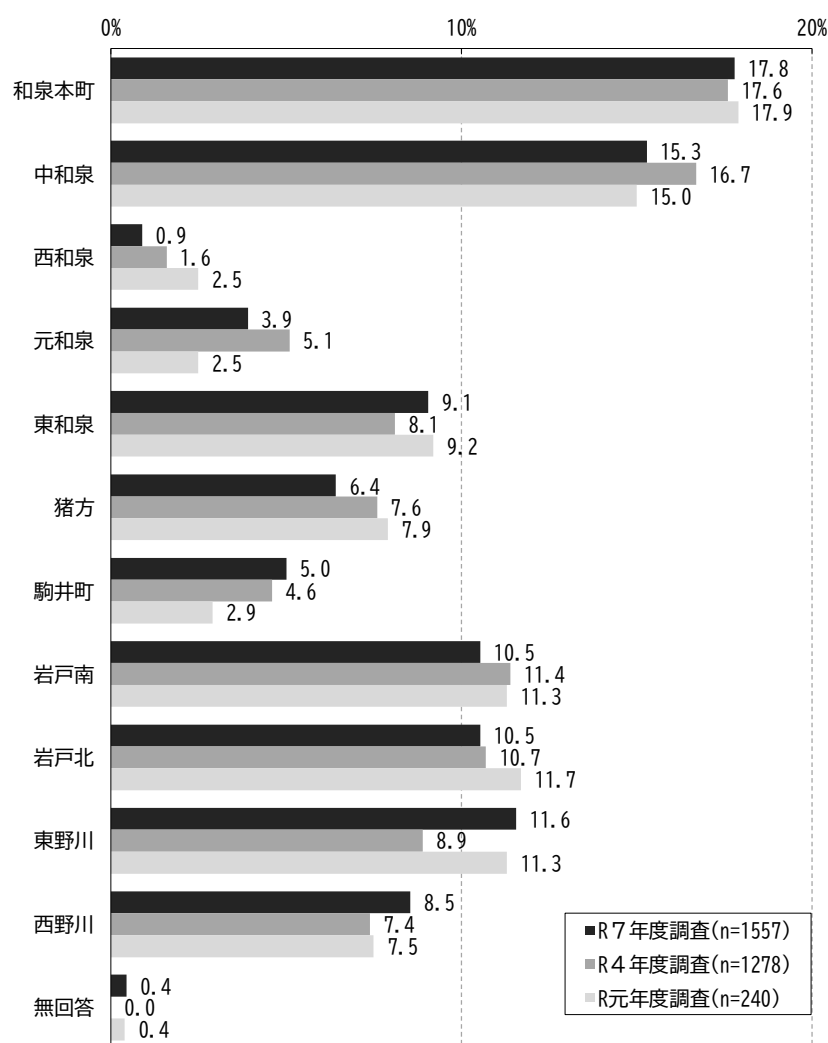
「和泉本町」が17.8%と最も多く、次いで「中和泉」が15.3%、「東野川」が11.6%、「岩戸南」及び「岩戸北」が10.5%となっています。

居住エリア別では、「こまえ正吉苑エリア」が37.9%、「こまえ苑エリア」が32.5%、「あいとぴあエリア」が29.2%となっています。

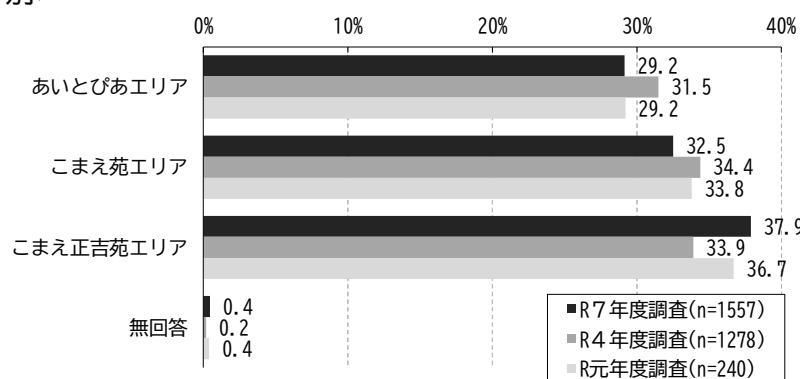
居住エリア別結果を前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「こまえ正吉苑エリア」は4.0ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代、30歳代は「あいとぴあエリア」の割合が高く、70歳代、80歳代は「こまえ正吉苑エリア」の割合が高くなっています。

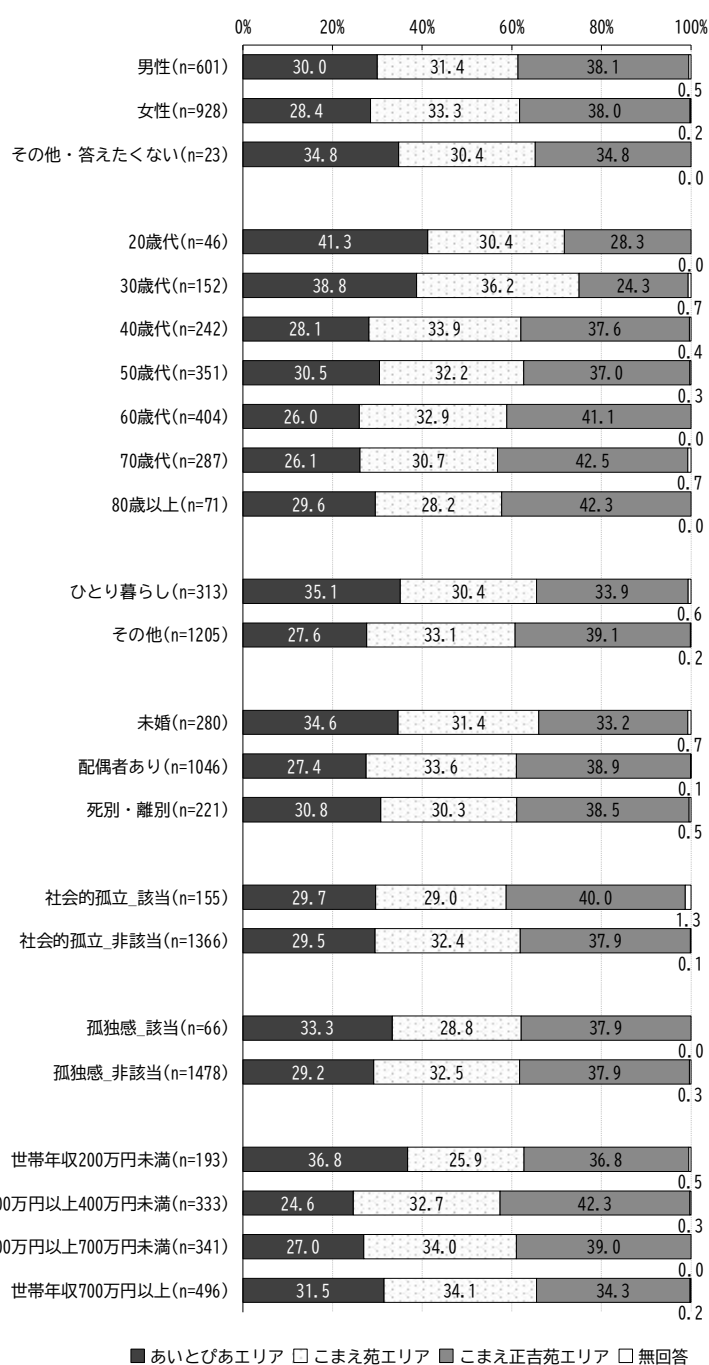
家族構成別では、ひとり暮らしは「あいとぴあエリア」の割合が高く、その他は「こまえ正吉苑エリア」の割合が高くなっています。



<居住エリア別>



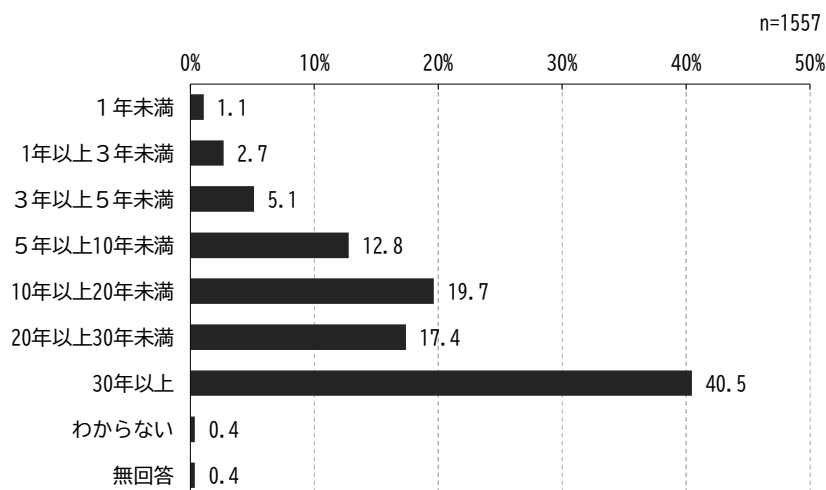
<性別・年齢・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



問4 あなたは狛江市に住み始めて何年目ですか。

「30年以上」が40.5%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が19.7%、「20年以上30年未満」が17.4%、「5年以上10年未満」が12.8%、「3年以上5年未満」が5.1%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「30年以上」の割合が高く、世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「10年以上30年未満」の割合が高く「30年以上」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	わからない	無回答
男性(n=601)	0.8	2.5	3.5	11.6	20.6	17.5	42.9	0.3	0.2
女性(n=928)	1.3	2.8	6.0	13.4	19.1	17.7	39.0	0.4	0.3
その他・答えたくない(n=23)	0.0	4.3	8.7	21.7	17.4	8.7	39.1	0.0	0.0
20歳代(n=46)	10.9	26.1	21.7	13.0	6.5	21.7	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=152)	3.3	9.2	17.8	31.6	20.4	3.3	13.8	0.0	0.7
40歳代(n=242)	0.8	2.9	8.7	24.4	39.7	8.7	14.0	0.8	0.0
50歳代(n=351)	0.3	1.7	2.8	8.0	22.2	33.3	31.3	0.3	0.0
60歳代(n=404)	1.0	0.2	1.7	8.7	13.4	18.3	55.9	0.7	0.0
70歳代(n=287)	0.0	0.7	1.0	7.3	12.5	13.6	64.5	0.0	0.3
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	2.8	2.8	8.5	7.0	76.1	0.0	2.8
あいとびあエリア(n=454)	1.5	3.1	5.9	14.8	20.0	16.3	37.9	0.4	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	1.2	2.2	5.9	13.2	17.4	18.4	40.7	0.6	0.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.7	2.9	3.9	10.8	21.5	17.5	42.4	0.2	0.2
ひとり暮らし(n=313)	2.2	2.9	6.4	20.1	20.4	10.2	36.7	0.3	0.6
その他(n=1205)	0.7	2.7	4.6	11.0	19.6	19.6	41.2	0.4	0.1
未婚(n=280)	1.8	2.9	6.1	18.2	17.9	13.6	38.9	0.7	0.0
配偶者あり(n=1046)	0.9	2.9	5.1	11.6	21.1	19.5	38.5	0.4	0.1
死別・離別(n=221)	1.4	1.8	4.5	11.3	15.4	12.7	52.0	0.0	0.9
社会的孤立 該当(n=155)	1.9	1.3	3.9	18.7	24.5	14.2	34.8	0.0	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	1.0	2.9	5.3	12.1	19.3	17.9	40.8	0.4	0.1
孤独感 該当(n=66)	1.5	6.1	10.6	12.1	15.2	13.6	37.9	1.5	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	1.0	2.6	4.9	12.9	19.8	17.7	40.7	0.3	0.2
世帯年収200万円未満(n=193)	2.1	1.6	4.1	13.0	18.7	14.0	45.6	1.0	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.3	1.5	5.1	10.5	14.4	12.6	54.7	0.6	0.3
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	1.5	2.1	5.3	14.7	15.8	17.3	43.1	0.0	0.3
世帯年収700万円以上(n=496)	0.8	4.2	6.0	14.3	25.8	22.0	26.4	0.2	0.2

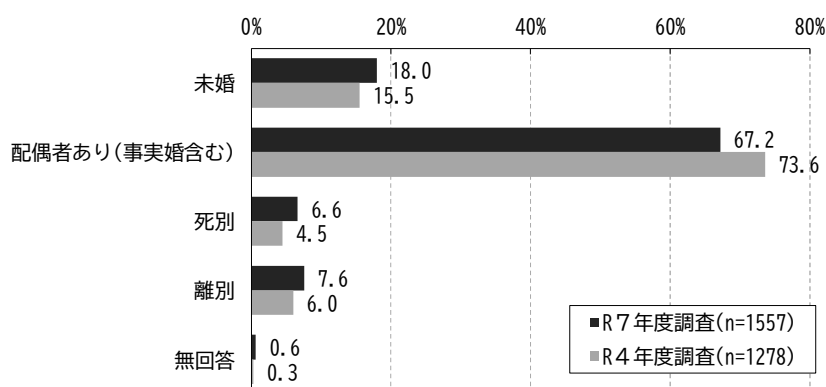
問5 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。

「配偶者あり（事実婚含む）」が67.2%と最も多く、次いで「未婚」が18.0%、「離別」が7.6%、「死別」が6.6%となっています。

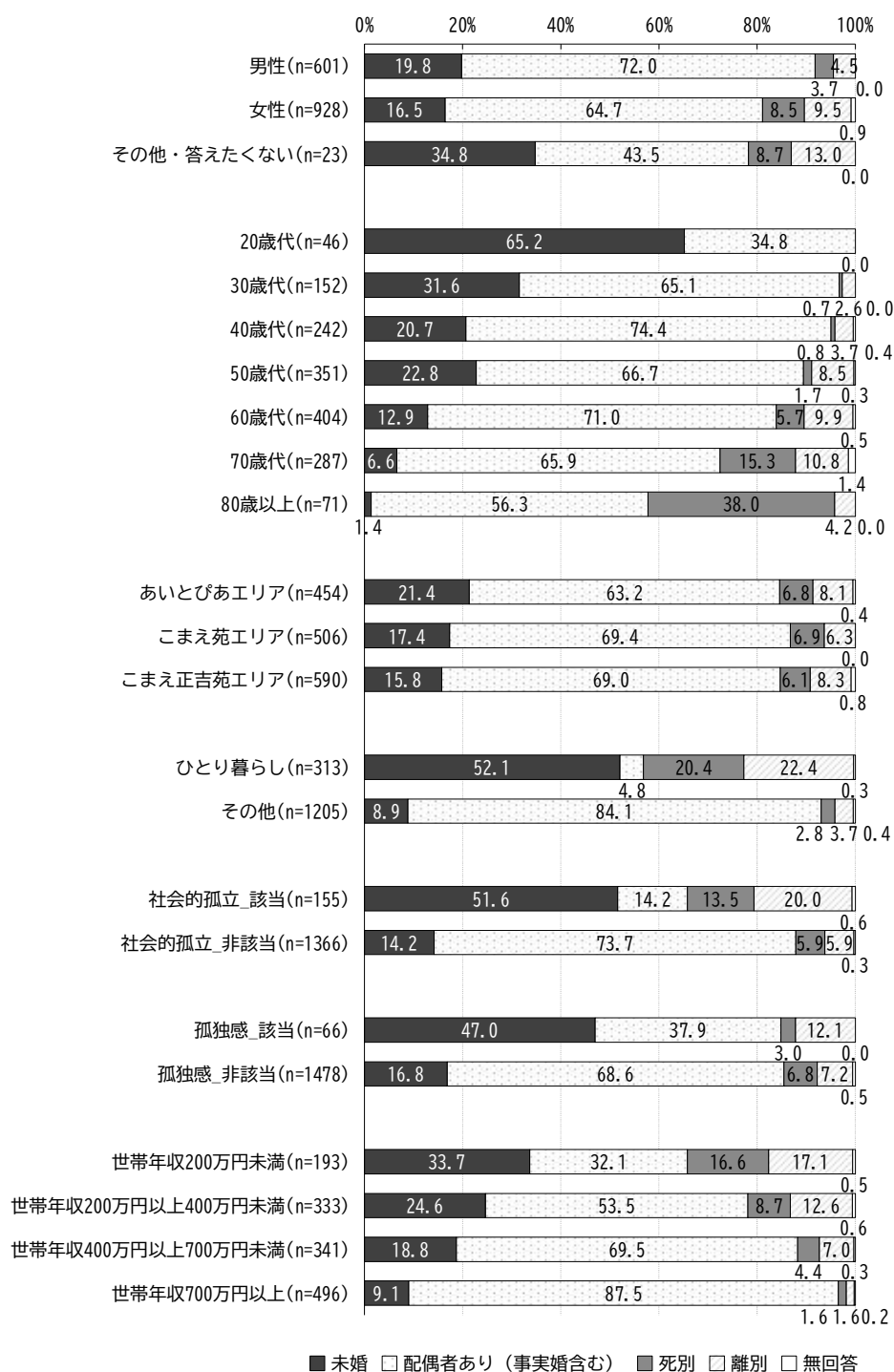
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「配偶者あり（事実婚含む）」は6.4ポイント低くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「未婚」の割合が低くなっています。また、家族構成のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「未婚」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「配偶者あり（事実婚含む）」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



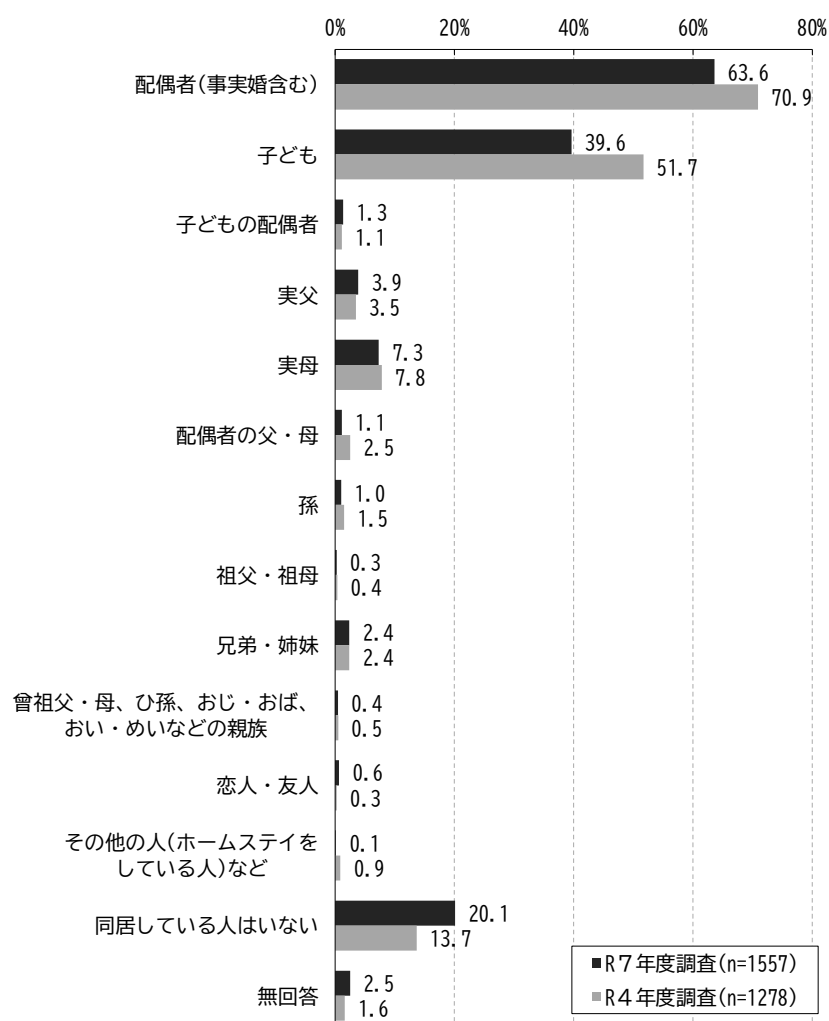
問6 現在あなたと同居している人はどなたですか。(複数回答)

「配偶者(事実婚含む)」が63.6%と最も多く、次いで「子ども」が39.6%、「同居している人はいない」が20.1%、「実母」が7.3%、「実父」が3.9%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「配偶者(事実婚含む)」が7.3ポイント、「子ども」が12.1ポイント少なく、「同居している人はいない」が12.1ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代、80歳代で「同居している人はいない」の割合が高くなっています。また、社会的孤立別の該当で「同居している人はいない」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「同居している人はいない」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	配偶者（事 実婚含む）	子ども	子どもの配 偶者	実父	実母	配偶者の 父・母	孫
男性(n=601)	69.6	37.8	1.3	3.3	6.2	0.5	1.0
女性(n=928)	60.5	41.1	1.4	4.2	7.9	1.5	1.1
その他・答えたくない(n=23)	39.1	39.1	0.0	4.3	17.4	0.0	0.0
20歳代(n=46)	34.8	13.0	0.0	21.7	28.3	0.0	0.0
30歳代(n=152)	63.8	54.6	0.7	7.9	10.5	2.0	0.0
40歳代(n=242)	72.3	64.5	0.8	4.1	6.6	1.2	0.0
50歳代(n=351)	63.2	48.7	0.6	6.6	11.7	2.0	0.3
60歳代(n=404)	66.3	31.4	1.7	1.2	5.9	0.7	1.0
70歳代(n=287)	61.3	22.6	2.1	0.0	1.4	0.3	2.8
80歳以上(n=71)	49.3	12.7	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2
あいとびあエリア(n=454)	59.3	37.4	2.0	4.2	6.8	1.8	2.0
こまえ苑エリア(n=506)	65.6	39.5	0.8	4.5	9.1	0.8	0.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	65.8	41.9	1.4	3.1	6.3	0.8	0.7
未婚(n=280)	0.0	2.5	0.0	16.4	28.9	0.4	0.0
配偶者あり(n=1046)	94.3	51.9	1.4	0.7	1.6	1.5	1.0
死別・離別(n=221)	0.5	29.0	2.7	3.2	7.2	0.0	2.7
社会的孤立 該当(n=155)	9.7	7.7	1.3	0.6	1.3	0.6	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	70.5	44.0	1.4	4.3	8.2	1.2	1.2
孤独感 該当(n=66)	33.3	24.2	0.0	4.5	15.2	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	65.3	40.5	1.4	3.9	7.0	1.1	1.1
世帯年収200万円未満(n=193)	28.0	20.2	1.6	3.1	9.3	1.0	1.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	49.5	21.9	0.6	2.1	6.3	0.0	1.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	64.8	36.4	0.9	5.6	9.1	1.5	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	86.1	58.3	1.0	3.0	5.2	1.4	0.2

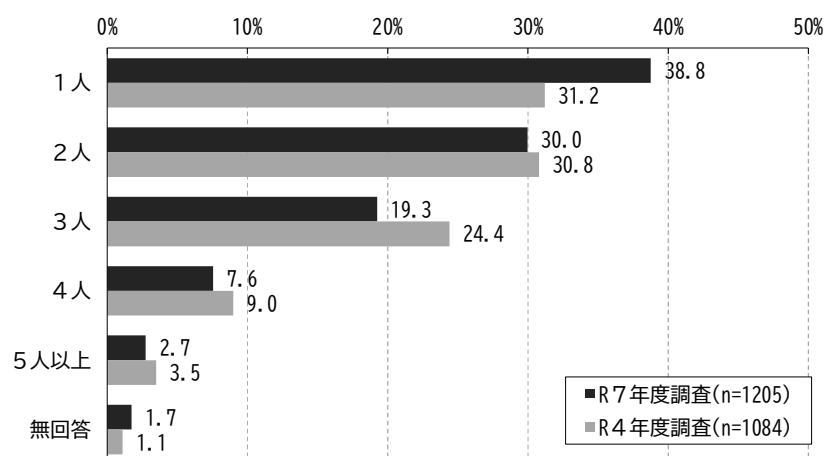
	祖父・祖母	兄弟・姉妹	曾祖父・ 母、ひ孫、 おじ・お ば、おい・ めいなどの 親族	恋人・友人	その他の人 (ホームス テイをして いる人) 等	同居してい る人はいな い	無回答
男性(n=601)	0.2	3.0	0.2	0.5	0.3	19.1	2.0
女性(n=928)	0.3	1.8	0.5	0.8	0.0	20.6	2.6
その他・答えたくない(n=23)	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0	30.4	0.0
20歳代(n=46)	6.5	6.5	0.0	0.0	0.0	32.6	2.2
30歳代(n=152)	0.7	3.9	1.3	1.3	0.0	19.7	1.3
40歳代(n=242)	0.0	2.1	0.0	1.2	0.0	13.6	1.2
50歳代(n=351)	0.0	4.0	0.9	0.3	0.0	14.5	0.9
60歳代(n=404)	0.0	0.7	0.2	0.5	0.0	20.5	3.0
70歳代(n=287)	0.0	2.1	0.3	0.7	0.3	25.1	4.2
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	40.8	4.2
あいとびあエリア(n=454)	0.2	2.9	0.4	0.4	0.0	24.2	2.4
こまえ苑エリア(n=506)	0.4	2.6	0.6	0.4	0.2	18.8	2.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.2	1.9	0.3	0.8	0.2	18.0	2.2
未婚(n=280)	1.4	9.3	1.1	2.9	0.0	58.2	3.6
配偶者あり(n=1046)	0.0	0.6	0.3	0.0	0.2	1.4	1.6
死別・離別(n=221)	0.0	2.3	0.5	0.5	0.0	60.6	3.6
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	1.3	0.6	0.0	0.0	84.5	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	0.3	2.4	0.4	0.7	0.1	13.1	1.4
孤独感 該当(n=66)	0.0	3.0	1.5	0.0	1.5	37.9	4.5
孤独感 非該当(n=1478)	0.3	2.4	0.4	0.7	0.1	19.4	2.0
世帯年収200万円未満(n=193)	0.5	1.6	2.6	2.6	0.0	44.0	4.7
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.3	2.4	0.0	0.6	0.3	33.0	3.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	0.0	3.2	0.3	0.9	0.0	16.4	2.9
世帯年収700万円以上(n=496)	0.2	1.4	0.2	0.0	0.0	7.5	0.2

【問6で「1」～「12」（同居している人がいる）と回答した方】

問7 あなたと同居している人は合計で何人ですか。あなた以外の人数をお答えください。

「1人」が38.8%と最も多く、次いで「2人」が30.0%、「3人」が19.3%、「4人」が7.6%、「5人以上」が2.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「1人」が7.6ポイント多く、「3人」が5.1ポイント少なくなっています。

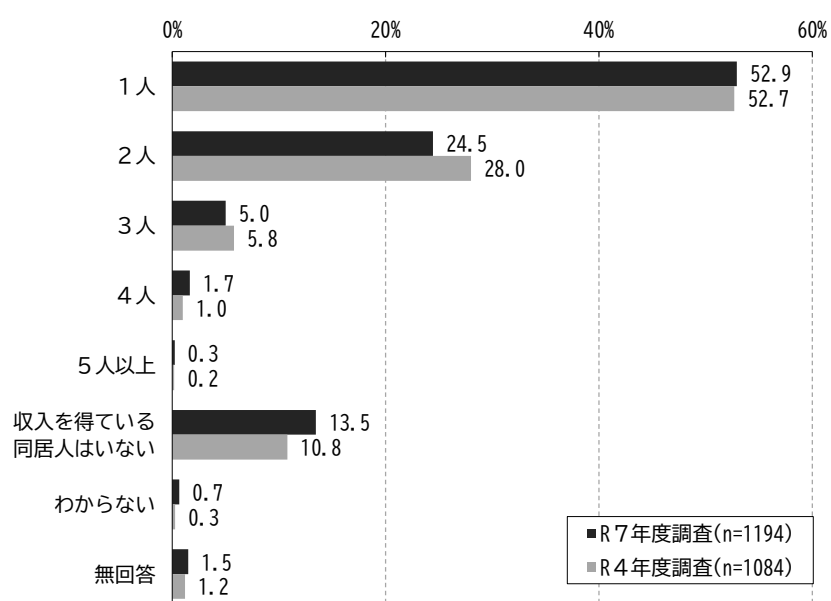


【問6で「1」～「10」（同居している親族がいる）と回答した方】

問8 あなたと同居している人のうち、収入を得ている人は合計で何人ですか。あなた以外の人数をお答えください。

「1人」が52.9%と最も多く、次いで「2人」が24.5%、「収入を得ている同居人はいない」が13.5%、「3人」が5.0%、「4人」が1.7%となっています。

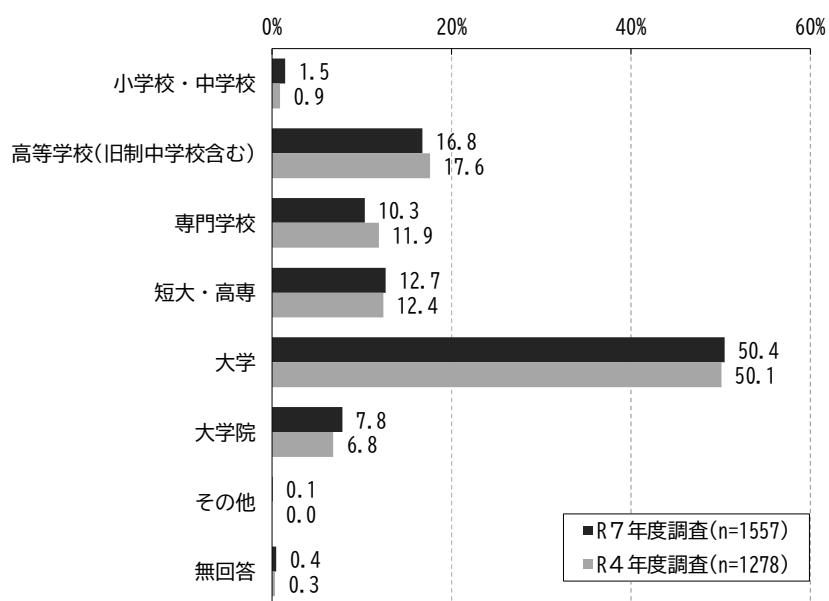
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「2人」が3.5ポイント少なく、「収入を得ている同居人はいない」が2.7ポイント少なくなっています。



問9 あなたが最後に卒業した学校又は現在、在学している学校をお答えください。

「大学」が50.4%と最も多く、次いで「高等学校（旧制中学校含む）」が16.8%、「短大・高専」が12.7%、「専門学校」が10.3%、「大学院」が7.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。



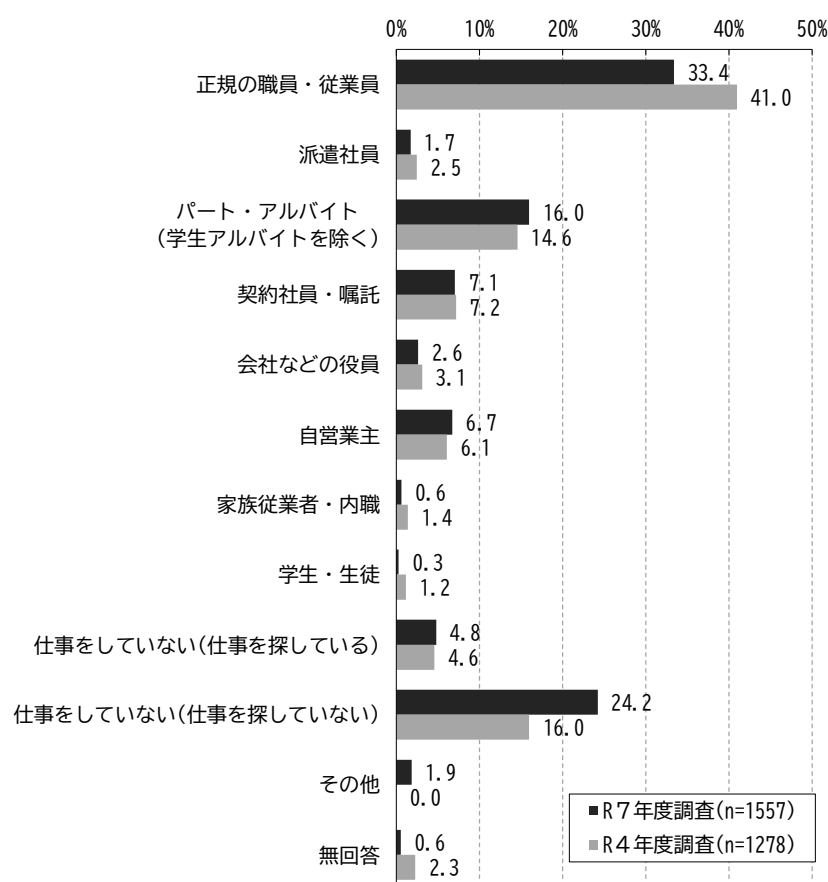
問 10 あなたの現在の仕事をお答えください。

「正規の職員・従業員」が33.4%と最も多く、次いで「仕事をしていない(仕事を探していない)」が24.2%、「パート・アルバイト(学生アルバイトを除く)」が16.0%、「契約社員・嘱託」が7.1%、「自営業主」が6.7%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「正規の職員・従業員」が7.6ポイント少なく、「仕事をしていない(仕事を探していない)」が8.2ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「正規の職員・従業員」の割合が低く、「仕事をしていない(仕事を探していない)」の割合が高くなっています。また、60歳代までは年齢が上がるにつれ「パート・アルバイト(学生アルバイトを除く)」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「正規の職員・従業員」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	正規の職 員・従業員	派遣社員	パート・ア ルバイト (学生アル バイトを除 く)	契約社員・ 嘱託	会社などの 役員	自営業主
男性(n=601)	40.1	0.8	6.7	7.2	4.3	9.5
女性(n=928)	29.1	2.3	22.4	7.1	1.5	4.6
その他・答えたくない(n=23)	39.1	4.3	0.0	4.3	4.3	21.7
20歳代(n=46)	78.3	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2
30歳代(n=152)	74.3	0.7	10.5	4.6	0.7	3.3
40歳代(n=242)	56.2	3.3	15.7	3.7	0.8	7.0
50歳代(n=351)	49.9	2.6	17.9	6.8	3.1	6.6
60歳代(n=404)	14.6	1.7	23.0	13.1	4.5	7.7
70歳代(n=287)	0.3	0.7	12.9	5.9	3.1	8.7
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
あいとびあエリア(n=454)	33.0	1.3	16.1	9.3	3.1	7.3
こまえ苑エリア(n=506)	34.4	2.0	17.8	6.5	2.4	7.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	32.9	1.9	14.6	5.9	2.5	5.8
ひとり暮らし(n=313)	31.3	1.0	12.8	6.7	1.6	7.3
その他(n=1205)	34.5	1.9	16.9	7.4	3.0	6.5
未婚(n=280)	48.9	1.8	10.7	7.5	1.1	7.1
配偶者あり(n=1046)	33.2	2.0	17.6	6.9	3.2	6.5
死別・離別(n=221)	15.8	0.5	15.8	7.2	2.3	7.7
社会的孤立 該当(n=155)	29.7	1.9	18.1	4.5	1.9	9.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	34.2	1.7	15.5	7.4	2.8	6.5
孤独感 該当(n=66)	34.8	1.5	15.2	7.6	0.0	3.0
孤独感 非該当(n=1478)	33.4	1.7	16.0	7.1	2.8	6.8
世帯年収200万円未満(n=193)	3.6	1.0	24.4	3.6	1.0	9.3
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	17.7	1.8	15.0	11.1	0.6	7.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	39.9	2.1	14.7	10.0	2.6	5.9
世帯年収700万円以上(n=496)	56.9	1.8	11.7	4.6	4.8	6.5

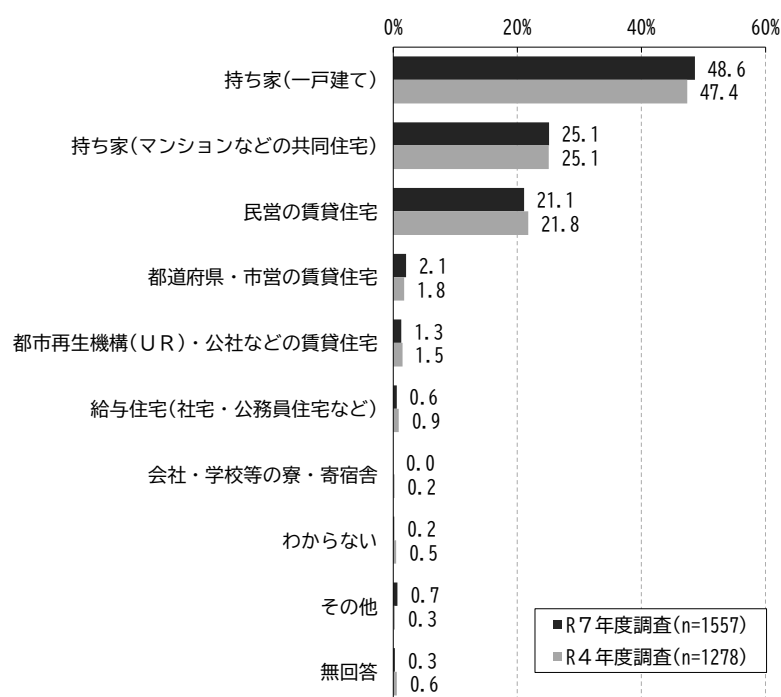
	家族従業 者・内職	学生・生徒	仕事をし ていない(仕 事を探して いる)	仕事をし ていない(仕 事を探して いない)	その他	無回答
男性(n=601)	0.0	0.7	4.7	24.3	1.3	0.5
女性(n=928)	1.0	0.1	5.0	24.5	2.0	0.4
その他・答えたくない(n=23)	4.3	0.0	4.3	13.0	4.3	0.0
20歳代(n=46)	0.0	8.7	6.5	2.2	0.0	0.0
30歳代(n=152)	0.0	0.0	0.7	4.6	0.7	0.0
40歳代(n=242)	1.2	0.0	2.5	8.7	0.4	0.4
50歳代(n=351)	1.1	0.3	4.3	6.6	0.6	0.3
60歳代(n=404)	0.5	0.0	7.4	25.2	1.7	0.5
70歳代(n=287)	0.3	0.0	6.6	55.4	4.9	1.0
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	1.4	88.7	5.6	0.0
あいとびあエリア(n=454)	0.9	0.7	6.6	19.2	2.2	0.4
こまえ苑エリア(n=506)	0.4	0.0	3.6	23.7	1.6	0.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.7	0.3	4.6	28.6	1.9	0.3
ひとり暮らし(n=313)	0.0	0.6	4.8	31.9	1.9	0.0
その他(n=1205)	0.8	0.2	4.6	21.8	1.7	0.5
未婚(n=280)	0.0	1.4	6.8	13.6	1.1	0.0
配偶者あり(n=1046)	0.8	0.1	3.8	23.6	1.9	0.5
死別・離別(n=221)	0.9	0.0	5.9	40.7	2.7	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	7.1	27.1	0.6	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	0.7	0.4	4.5	23.9	2.0	0.4
孤独感 該当(n=66)	1.5	1.5	9.1	22.7	3.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	0.6	0.3	4.6	24.4	1.8	0.5
世帯年収200万円未満(n=193)	0.5	1.6	13.5	37.8	3.6	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.0	0.0	5.4	37.8	2.7	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	0.3	0.3	3.2	19.6	1.2	0.3
世帯年収700万円以上(n=496)	1.0	0.0	1.2	9.9	1.0	0.6

問 11 あなたのお住まいは、次のどれですか。

「持ち家（一戸建て）」が 48.6% と最も多く、次いで「持ち家（マンションなどの共同住宅）」が 25.1%、「民営の賃貸住宅」が 21.1%、「都道府県・市営の賃貸住宅」が 2.1%、「都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅」が 1.3% となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「持ち家」の割合が高くなっています。また、家族構成のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当では「民営の賃貸住宅」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

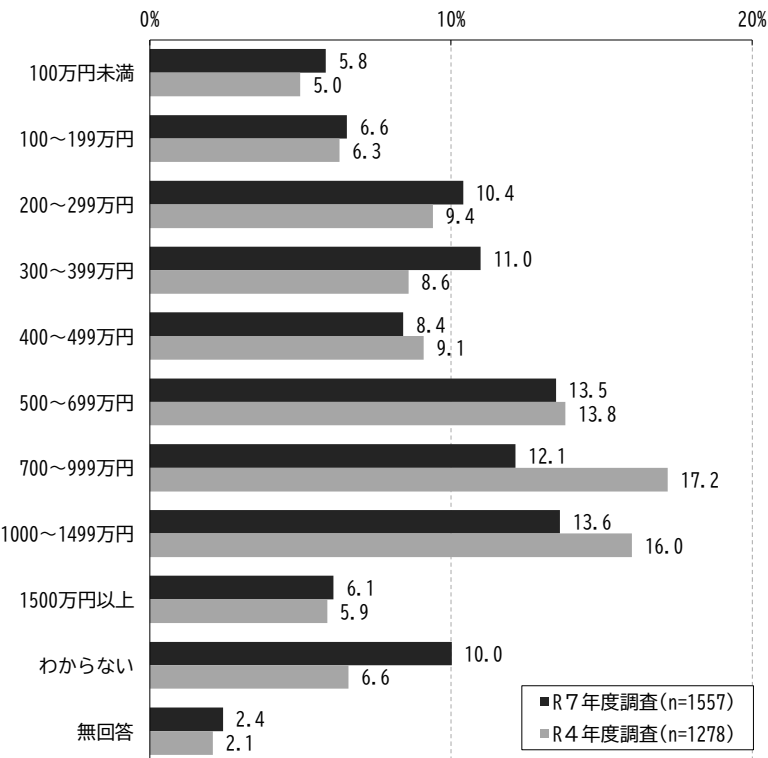
	持ち家（一戸建て）	持ち家（マンションなどの共同住宅）	民営の賃貸住宅	都道府県・市営の賃貸住宅	都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅	給与住宅（社宅・公務員住宅など）	会社・学校等の寮・寄宿舎	わからない	その他	無回答
男性(n=601)	51.6	23.5	19.8	2.7	1.5	0.3	0.0	0.0	0.5	0.2
女性(n=928)	46.8	26.5	21.7	1.7	1.3	0.8	0.0	0.2	0.9	0.2
その他・答えたくない(n=23)	52.2	17.4	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0
20歳代(n=46)	21.7	10.9	65.2	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=152)	39.5	15.1	40.1	0.7	0.0	2.0	0.0	1.3	0.7	0.7
40歳代(n=242)	42.6	20.2	33.9	0.8	0.4	0.8	0.0	0.4	0.8	0.0
50歳代(n=351)	48.7	27.6	18.2	2.3	0.9	0.6	0.0	0.0	1.7	0.0
60歳代(n=404)	51.5	30.0	14.1	1.7	2.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
70歳代(n=287)	57.5	27.5	9.4	3.5	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
80歳以上(n=71)	54.9	23.9	9.9	5.6	4.2	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
あいとびあエリア(n=454)	48.0	18.3	28.9	0.7	2.4	1.1	0.0	0.2	0.4	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	53.2	26.1	19.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.2	0.4	0.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	45.4	29.8	16.8	4.6	1.7	0.2	0.0	0.2	1.2	0.2
ひとり暮らし(n=313)	24.9	20.8	44.1	5.4	2.9	0.3	0.0	0.0	1.6	0.0
その他(n=1205)	55.3	25.9	15.2	1.2	1.0	0.7	0.0	0.2	0.5	0.1
未婚(n=280)	27.9	18.9	42.9	3.9	2.5	0.4	0.0	1.1	2.1	0.4
配偶者あり(n=1046)	56.1	27.0	14.6	0.5	0.8	0.8	0.0	0.0	0.3	0.0
死別・離別(n=221)	39.8	24.9	24.0	7.2	2.7	0.0	0.0	0.0	0.9	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	24.5	23.9	38.1	6.5	4.5	0.6	0.0	0.6	1.3	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	51.4	25.3	19.3	1.5	1.0	0.6	0.0	0.1	0.7	0.1
孤独感 該当(n=66)	27.3	18.2	42.4	1.5	3.0	1.5	0.0	0.0	4.5	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	49.8	25.5	20.0	2.1	1.3	0.5	0.0	0.2	0.5	0.1
世帯年収200万円未満(n=193)	31.1	26.4	28.0	6.2	4.1	0.0	0.0	0.5	2.6	1.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	42.3	24.3	26.4	4.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	49.6	24.0	23.2	0.9	1.2	0.3	0.0	0.3	0.6	0.0
世帯年収700万円以上(n=496)	55.0	28.0	14.5	0.0	0.4	1.6	0.0	0.0	0.4	0.0

問 12 あなたの世帯の 2024（令和 6）年における年間収入（税・社会保険料込み）をお答えください。

「1000～1499 万円」が 13.6%と最も多く、次いで「500～699 万円」が 13.5%、「700～999 万円」が 12.1%、「300～399 万円」が 11.0%、「200～299 万円」が 10.4%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「700～999 万円」が 5.1 ポイント、「1000～1499 万円」が 2.4 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ世帯年数も高くなる傾向がみられます。また、家族構成のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当では 299 万円以下の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感別クロス集計>

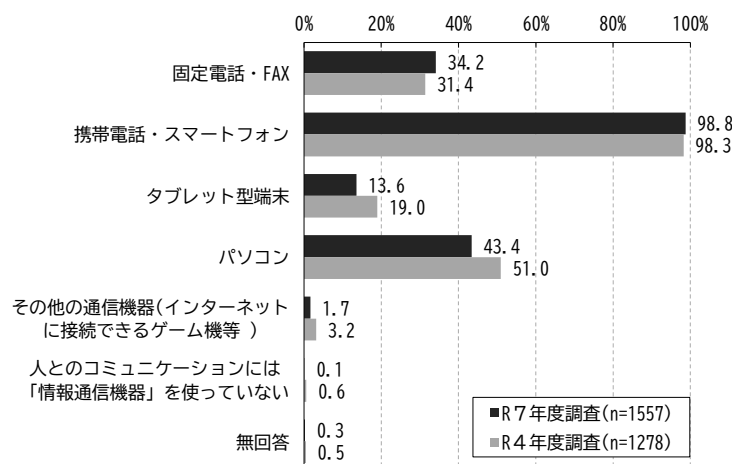
	100万円未満	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500～699万円	700～999万円	1000～1499万円	1500万円以上	わからない	無回答
男性(n=601)	5.8	4.7	12.0	10.0	9.2	14.6	13.3	14.0	8.0	6.5	2.0
女性(n=928)	5.6	7.8	9.6	11.4	8.0	12.8	11.6	13.3	5.0	12.4	2.6
その他・答えたくない(n=23)	17.4	8.7	4.3	13.0	8.7	13.0	4.3	17.4	4.3	8.7	0.0
20歳代(n=46)	8.7	6.5	4.3	8.7	17.4	13.0	15.2	13.0	2.2	10.9	0.0
30歳代(n=152)	5.9	0.7	6.6	8.6	10.5	16.4	14.5	23.7	3.3	8.6	1.3
40歳代(n=242)	6.2	1.7	4.5	5.0	5.8	14.0	19.4	19.8	11.6	11.2	0.8
50歳代(n=351)	4.6	6.0	5.4	6.0	5.4	13.7	13.7	22.8	10.5	10.8	1.1
60歳代(n=404)	7.4	4.2	10.9	15.6	9.7	14.6	12.4	7.7	4.7	10.4	2.5
70歳代(n=287)	4.2	15.0	21.3	15.0	8.7	11.8	4.9	3.1	1.7	8.4	5.9
80歳以上(n=71)	7.0	16.9	21.1	21.1	14.1	5.6	1.4	1.4	0.0	9.9	1.4
あいとびあエリア(n=454)	7.5	8.1	9.0	9.0	8.6	11.7	12.6	15.6	6.2	9.3	2.4
こまえ苑エリア(n=506)	6.3	3.6	9.5	12.1	8.9	14.0	12.6	14.0	6.7	9.9	2.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	4.1	8.0	12.4	11.5	8.0	14.6	11.4	11.9	5.6	10.8	1.9
ひとり暮らし(n=313)	12.8	14.4	21.7	13.4	9.9	8.0	8.0	3.5	0.3	5.4	2.6
その他(n=1205)	4.0	4.2	7.3	10.4	7.9	14.9	13.5	16.7	7.8	11.3	2.0
未婚(n=280)	15.4	7.9	17.9	11.4	11.1	11.8	10.7	4.6	0.7	7.9	0.7
配偶者あり(n=1046)	2.7	3.3	6.9	10.1	8.1	14.5	14.2	18.5	8.7	10.8	2.1
死別・離別(n=221)	8.6	20.8	17.2	14.9	6.3	11.3	4.5	1.8	0.9	8.6	5.0
社会的孤立 該当(n=155)	16.8	12.9	19.4	11.6	9.0	9.0	7.7	5.8	0.0	5.8	1.9
社会的孤立 非該当(n=1366)	4.5	5.9	9.2	10.8	8.4	14.1	12.8	14.7	6.9	10.5	2.2
孤独感 該当(n=66)	18.2	7.6	21.2	12.1	7.6	15.2	4.5	0.0	1.5	12.1	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	5.3	6.5	9.8	10.9	8.5	13.5	12.6	14.2	6.4	10.0	2.4

問 13 あなたがコミュニケーション（連絡）をとる際にお使いの情報通信機器をお答えください。（複数回答）

「携帯電話・スマートフォン」が98.8%と最も多く、次いで「パソコン」が43.4%、「固定電話・FAX」が34.2%、「タブレット型端末」が13.6%、「その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機等）」が1.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「パソコン」が7.6ポイント、「タブレット型端末」が5.4ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「固定電話・FAX」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	固定電話・FAX	携帯電話・スマートフォン	タブレット型端末	パソコン	その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機等）	人とのコミュニケーションには「情報通信機器」を使っていない	無回答
男性(n=601)	34.9	98.7	16.3	56.6	1.7	0.2	0.2
女性(n=928)	33.8	99.1	11.4	34.9	1.7	0.1	0.2
その他・答えたくない(n=23)	30.4	91.3	30.4	47.8	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=46)	8.7	100.0	8.7	52.2	4.3	0.0	0.0
30歳代(n=152)	3.9	99.3	15.1	35.5	2.6	0.7	0.0
40歳代(n=242)	12.0	99.6	16.1	39.3	5.0	0.0	0.0
50歳代(n=351)	31.6	99.1	13.1	41.0	0.3	0.0	0.3
60歳代(n=404)	43.6	98.8	15.3	45.0	1.2	0.2	0.0
70歳代(n=287)	55.4	97.6	11.8	48.4	0.3	0.0	0.7
80歳以上(n=71)	64.8	98.6	5.6	52.1	1.4	0.0	0.0
あいとびあエリア(n=454)	31.7	99.3	13.0	43.0	0.9	0.0	0.2
こまえ苑エリア(n=506)	33.4	99.0	15.0	42.7	2.4	0.2	0.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	36.9	98.5	12.9	44.4	1.7	0.2	0.2
ひとり暮らし(n=313)	27.2	97.8	10.9	39.0	1.0	0.6	0.0
その他(n=1205)	35.9	99.4	14.4	45.0	1.8	0.0	0.2
未婚(n=280)	23.6	98.2	13.6	42.5	1.1	0.4	0.0
配偶者あり(n=1046)	36.1	99.2	15.3	46.4	1.9	0.0	0.1
死別・離別(n=221)	38.5	98.2	6.3	31.2	1.4	0.5	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	23.9	96.1	7.7	43.2	0.0	1.3	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	35.4	99.3	14.4	43.8	1.9	0.0	0.1
孤独感 該当(n=66)	19.7	97.0	7.6	27.3	0.0	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	34.8	99.0	14.0	44.2	1.8	0.1	0.1
世帯年収200万円未満(n=193)	32.1	97.4	10.4	31.6	1.0	0.5	0.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	39.0	99.1	10.8	39.9	1.5	0.3	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	35.2	99.4	11.1	48.1	1.5	0.0	0.0
世帯年収700万円以上(n=496)	30.0	99.4	19.8	51.2	2.0	0.0	0.2

2 社会とのつながり・社会的孤立について

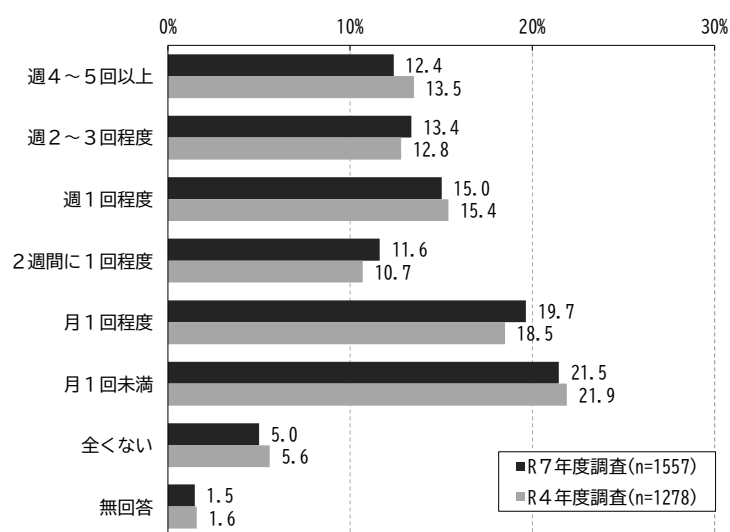
問 14 あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、①～④ごとにそれぞれお答えください。

①直接会って話す

「月1回未満」が21.5%と最も多く、次いで「月1回程度」が19.7%、「週1回程度」が15.0%、「週2～3回程度」が13.4%、「週4～5回以上」が12.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

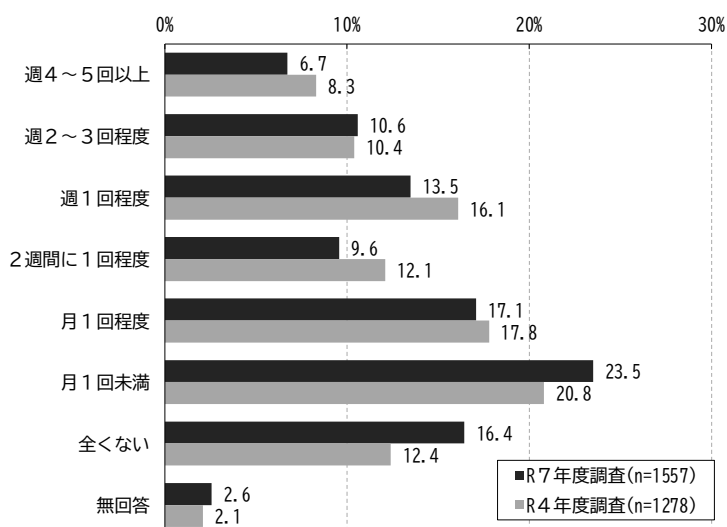
	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	9.0	11.8	16.0	11.1	18.8	25.0	6.7	1.7
女性(n=928)	14.5	14.4	14.9	12.0	19.9	19.0	4.0	1.3
その他・答えたくない(n=23)	17.4	4.3	0.0	13.0	30.4	30.4	4.3	0.0
20歳代(n=46)	19.6	17.4	17.4	8.7	19.6	13.0	4.3	0.0
30歳代(n=152)	10.5	10.5	13.2	16.4	21.7	19.1	8.6	0.0
40歳代(n=242)	12.8	11.2	11.6	9.1	20.7	29.8	4.1	0.8
50歳代(n=351)	11.7	8.0	16.0	10.8	21.7	24.8	5.7	1.4
60歳代(n=404)	12.6	12.4	16.1	12.4	21.0	19.1	4.7	1.7
70歳代(n=287)	12.2	19.5	15.3	11.5	15.3	19.5	4.5	2.1
80歳以上(n=71)	14.1	32.4	18.3	12.7	11.3	7.0	1.4	2.8
あいとびあエリア(n=454)	14.1	13.7	14.8	12.1	17.4	21.4	5.9	0.7
こまえ苑エリア(n=506)	10.5	13.4	14.0	12.1	21.7	22.7	4.2	1.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	12.9	13.2	16.3	11.0	19.3	20.5	5.1	1.7
ひとり暮らし(n=313)	13.4	15.0	13.4	11.2	17.9	21.4	7.0	0.6
その他(n=1205)	12.3	12.9	15.3	11.9	20.3	21.3	4.5	1.5
未婚(n=280)	9.6	12.1	13.6	7.9	20.0	26.8	8.6	1.4
配偶者あり(n=1046)	13.0	13.2	15.5	12.0	20.2	21.4	3.3	1.3
死別・離別(n=221)	13.6	15.8	14.5	14.5	16.3	15.4	8.6	1.4
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	9.7	12.9	23.9	36.1	17.4	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	14.1	15.2	15.9	11.6	19.0	19.4	3.7	1.2
孤独感 該当(n=66)	6.1	10.6	15.2	9.1	18.2	22.7	18.2	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	12.7	13.5	15.1	11.6	19.8	21.6	4.3	1.3
世帯年収200万円未満(n=193)	12.4	15.5	16.1	9.8	15.0	18.7	10.9	1.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	9.6	15.3	14.7	13.8	16.8	23.1	5.1	1.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	12.0	13.2	13.5	13.2	18.8	24.0	3.8	1.5
世帯年収700万円以上(n=496)	14.5	11.7	14.3	10.1	22.6	22.2	3.8	0.8

②電話（ビデオ通話を含む）

「月1回未満」が23.5%と最も多く、次いで「月1回程度」が17.1%、「全くない」が16.4%、「週1回程度」が13.5%、「週2～3回程度」が10.6%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「月1回未満」が2.7ポイント、「全くない」が4.0ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「週1回以上」の頻度が増える傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

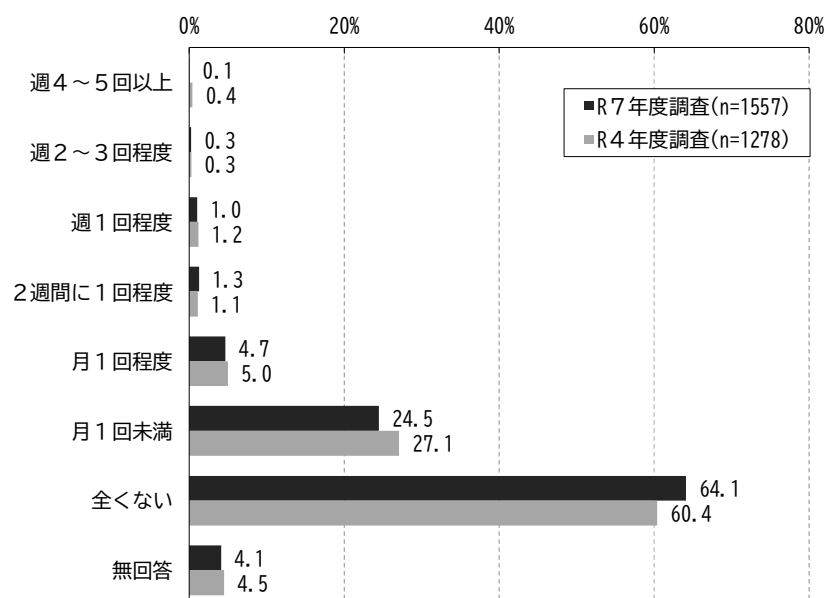
	週4～5回 以上	週2～3回 程度	週1回程度	2週間に1 回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	4.5	9.0	12.6	9.5	17.1	25.3	19.8	2.2
女性(n=928)	8.1	11.6	14.0	9.7	17.1	22.6	14.0	2.8
その他・答えたくない(n=23)	8.7	13.0	17.4	4.3	8.7	17.4	30.4	0.0
20歳代(n=46)	2.2	13.0	15.2	6.5	23.9	15.2	21.7	2.2
30歳代(n=152)	3.3	8.6	8.6	10.5	17.8	23.0	27.6	0.7
40歳代(n=242)	5.0	7.4	9.9	12.8	14.5	33.9	16.1	0.4
50歳代(n=351)	5.1	8.8	12.0	8.5	17.1	28.2	18.2	2.0
60歳代(n=404)	8.4	6.9	13.6	7.9	20.5	20.5	17.8	4.2
70歳代(n=287)	9.1	15.0	18.1	11.1	14.6	18.8	9.8	3.5
80歳以上(n=71)	12.7	36.6	23.9	7.0	8.5	7.0	1.4	2.8
あいとびあエリア(n=454)	5.9	12.8	11.5	10.1	16.7	26.0	15.9	1.1
こまえ苑エリア(n=506)	7.5	8.7	15.4	8.7	18.0	24.5	14.0	3.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	6.8	10.7	13.6	10.0	16.3	20.7	19.2	2.9
ひとり暮らし(n=313)	10.5	12.1	16.3	4.8	16.0	20.8	17.3	2.2
その他(n=1205)	5.6	10.0	12.9	11.0	17.7	23.9	16.7	2.3
未婚(n=280)	6.8	10.4	8.2	4.3	16.4	27.1	24.6	2.1
配偶者あり(n=1046)	6.2	10.8	13.5	10.9	18.0	23.2	15.0	2.4
死別・離別(n=221)	9.5	10.4	19.5	10.0	14.0	20.8	12.7	3.2
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	11.0	5.8	18.1	34.2	29.7	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	7.7	12.1	14.0	10.2	17.3	21.5	15.2	2.1
孤独感 該当(n=66)	6.1	13.6	12.1	4.5	13.6	24.2	25.8	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	6.8	10.5	13.7	9.8	17.3	23.5	16.0	2.4
世帯年収200万円未満(n=193)	9.8	14.5	15.0	5.7	10.4	25.9	16.1	2.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	5.7	11.1	14.4	7.2	18.0	21.3	18.9	3.3
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	6.7	12.6	11.7	9.1	18.2	23.5	15.5	2.6
世帯年収700万円以上(n=496)	5.0	8.1	13.3	11.5	20.4	25.0	15.7	1.0

③郵便や FAX

「全くない」が64.1%と最も多く、次いで「月1回未満」が24.5%、「月1回程度」が4.7%、「2週間に1回程度」が1.3%、「週1回程度」が1.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「全くない」が3.7ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、80歳代で「週1回程度」、「月1回程度」の割合が高く、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

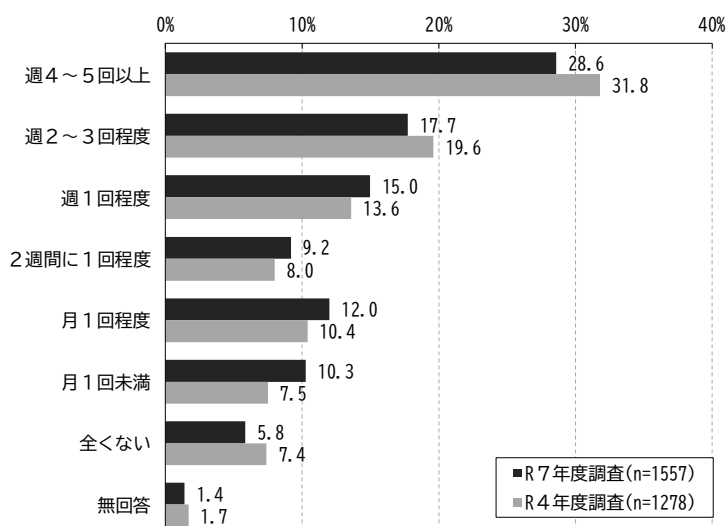
	週4～5回 以上	週2～3回 程度	週1回程度	2週間に1 回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	0.2	0.3	0.7	1.3	4.3	23.0	67.2	3.0
女性(n=928)	0.0	0.2	1.2	1.3	5.0	25.8	62.0	4.6
その他・答えたくない(n=23)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	17.4	69.6	8.7
20歳代(n=46)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	26.1	67.4	4.3
30歳代(n=152)	0.0	0.0	0.0	1.3	2.6	19.7	75.7	0.7
40歳代(n=242)	0.0	0.0	0.0	0.8	3.7	28.9	65.7	0.8
50歳代(n=351)	0.3	0.3	0.3	0.3	4.0	20.5	71.8	2.6
60歳代(n=404)	0.0	0.0	1.0	1.7	4.0	26.2	60.6	6.4
70歳代(n=287)	0.0	0.7	2.1	1.7	7.0	26.1	56.4	5.9
80歳以上(n=71)	0.0	1.4	7.0	4.2	12.7	21.1	45.1	8.5
あいとびあエリア(n=454)	0.0	0.4	1.1	2.4	5.5	25.8	61.9	2.9
こまえ苑エリア(n=506)	0.0	0.0	1.0	0.4	4.5	24.7	65.2	4.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.2	0.3	1.0	1.2	4.2	23.6	64.7	4.7
ひとり暮らし(n=313)	0.0	0.6	1.0	2.9	4.5	20.1	67.4	3.5
その他(n=1205)	0.1	0.2	0.9	0.8	4.7	25.6	63.7	4.0
未婚(n=280)	0.0	0.4	0.4	1.8	3.9	20.7	70.4	2.5
配偶者あり(n=1046)	0.1	0.1	1.1	1.0	4.9	25.8	63.0	4.1
死別・離別(n=221)	0.0	0.9	1.8	2.3	5.0	22.2	62.9	5.0
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	0.0	0.6	1.9	16.8	78.1	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	0.1	0.3	1.2	1.4	5.1	25.6	62.7	3.7
孤独感 該当(n=66)	0.0	0.0	0.0	1.5	3.0	15.2	78.8	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	0.1	0.3	1.1	1.3	4.7	25.0	63.6	4.0
世帯年収200万円未満(n=193)	0.0	0.5	2.6	2.6	4.7	21.8	63.7	4.1
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.0	0.3	0.9	1.8	7.2	24.0	60.7	5.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	0.0	0.3	1.2	0.9	5.3	22.3	66.6	3.5
世帯年収700万円以上(n=496)	0.2	0.0	0.6	0.8	3.0	26.0	67.1	2.2

④SNS や電子メールなど

「週4～5回以上」が28.6%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が17.7%、「週1回程度」が15.0%、「月1回程度」が12.0%、「月1回未満」が10.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「週4～5回以上」が3.2ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代で「週4～5回以上」の割合が高く、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	20.6	14.6	16.5	10.1	15.0	14.5	7.5	1.2
女性(n=928)	33.8	20.2	14.0	8.2	10.1	7.5	4.7	1.4
その他・答えたくない(n=23)	26.1	4.3	17.4	17.4	8.7	13.0	8.7	4.3
20歳代(n=46)	45.7	26.1	6.5	4.3	8.7	6.5	2.2	0.0
30歳代(n=152)	31.6	21.7	15.1	11.8	8.6	7.9	3.3	0.0
40歳代(n=242)	29.3	13.6	13.2	12.0	12.4	12.0	6.6	0.8
50歳代(n=351)	26.2	17.7	14.2	6.8	16.0	12.8	5.4	0.9
60歳代(n=404)	28.0	17.8	16.6	9.4	11.9	9.9	5.4	1.0
70歳代(n=287)	28.9	15.7	16.4	8.7	10.1	10.1	7.7	2.4
80歳以上(n=71)	23.9	26.8	15.5	8.5	8.5	2.8	7.0	7.0
あいとびあエリア(n=454)	30.0	17.4	16.3	11.2	7.9	11.2	4.8	1.1
こまえ苑エリア(n=506)	27.5	18.4	13.8	7.7	14.0	10.9	5.7	2.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	28.8	17.5	14.9	8.8	13.6	8.8	6.8	0.8
ひとり暮らし(n=313)	30.0	16.9	16.6	5.4	11.8	9.9	7.7	1.6
その他(n=1205)	28.5	17.8	14.9	10.0	12.2	10.2	5.3	1.1
未婚(n=280)	27.1	17.9	11.1	6.8	15.0	14.3	7.5	0.4
配偶者あり(n=1046)	30.0	17.5	15.4	9.9	11.5	9.5	5.1	1.1
死別・離別(n=221)	24.4	18.6	18.6	8.6	10.4	9.0	7.7	2.7
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	27.7	11.0	24.5	23.2	12.9	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	32.6	20.2	13.7	8.6	10.5	8.5	5.0	1.0
孤独感 該当(n=66)	18.2	12.1	16.7	6.1	13.6	18.2	15.2	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	29.2	18.0	15.0	9.3	12.0	9.9	5.3	1.2
世帯年収200万円未満(n=193)	25.9	14.0	16.1	5.2	11.9	15.0	10.9	1.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	29.7	16.8	15.6	10.2	12.0	9.0	5.1	1.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	29.6	17.0	14.1	9.1	11.4	11.4	6.2	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	29.6	19.2	15.1	10.9	12.3	8.9	3.8	0.2

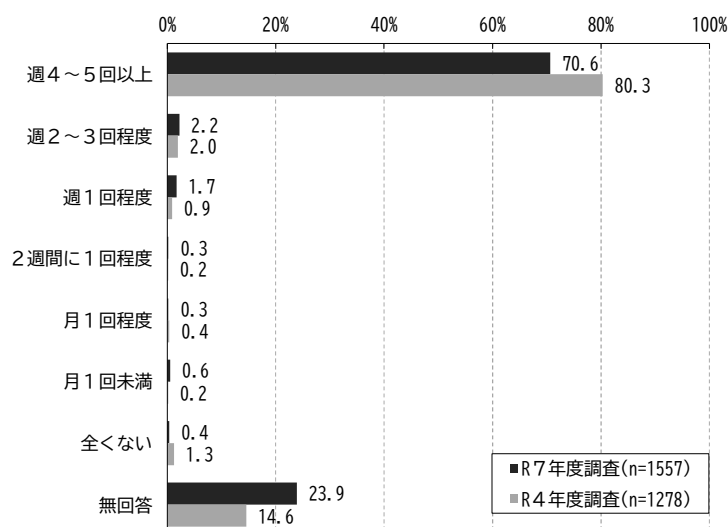
問 15 あなたと同居している人とのコミュニケーション頻度について、①～③ごとにそれぞれお答えください。

①直接会って話す

「週4～5回以上」が70.6%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が2.2%、「週1回程度」が1.7%、「月1回未満」が0.6%、「全くない」が0.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「週4～5回以上」が9.7ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の80歳代、婚姻状況別の未婚、死別・離別、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「週4～5回以上」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

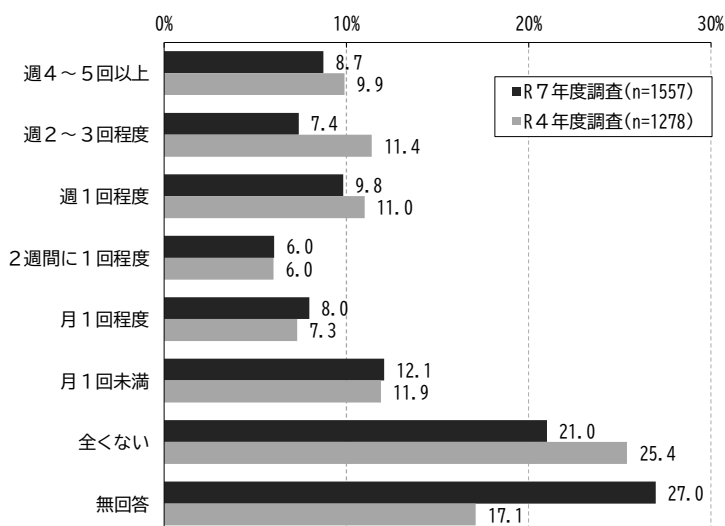
	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	69.4	2.8	2.8	0.0	0.5	0.7	0.5	23.3
女性(n=928)	72.0	1.8	1.0	0.4	0.1	0.5	0.2	23.9
その他・答えたくない(n=23)	56.5	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	30.4
20歳代(n=46)	60.9	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	34.8
30歳代(n=152)	74.3	1.3	1.3	0.0	0.0	1.3	0.0	21.7
40歳代(n=242)	79.8	1.7	1.2	0.0	0.4	0.8	1.2	14.9
50歳代(n=351)	75.8	4.3	2.3	0.0	0.0	0.3	0.9	16.5
60歳代(n=404)	70.0	1.5	2.0	0.5	0.5	0.5	0.0	25.0
70歳代(n=287)	64.8	2.1	1.4	0.3	0.0	0.3	0.0	31.0
80歳以上(n=71)	42.3	2.8	1.4	0.0	1.4	1.4	0.0	50.7
あいとびあエリア(n=454)	67.4	2.6	2.0	0.4	0.0	0.4	0.0	27.1
こまえ苑エリア(n=506)	70.8	1.6	2.4	0.2	0.6	0.6	0.6	23.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	73.7	2.4	1.0	0.2	0.2	0.7	0.5	21.4
未婚(n=280)	31.8	2.1	2.5	0.4	0.0	0.4	0.7	62.1
配偶者あり(n=1046)	89.8	2.4	1.5	0.2	0.4	0.6	0.4	4.8
死別・離別(n=221)	30.8	1.8	1.8	0.5	0.0	0.9	0.0	64.3
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	5.8	0.0	2.6	4.5	1.3	85.8
社会的孤立 非該当(n=1366)	80.5	2.6	1.3	0.3	0.0	0.1	0.2	14.9
孤独感 該当(n=66)	47.0	3.0	3.0	0.0	1.5	0.0	0.0	45.5
孤独感 非該当(n=1478)	72.2	2.2	1.7	0.3	0.2	0.5	0.3	22.5
世帯年収200万円未満(n=193)	45.1	1.0	3.1	0.0	0.5	1.0	0.0	49.2
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	55.9	2.7	1.5	0.0	0.6	0.6	0.6	38.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	72.4	2.9	2.1	0.9	0.3	0.9	0.3	20.2
世帯年収700万円以上(n=496)	87.5	2.2	1.2	0.0	0.0	0.2	0.2	8.7

②電話（ビデオ通話を含む）

「全くない」が21.0%と最も多く、次いで「月1回未満」が12.1%、「週1回程度」が9.8%、「週4～5回以上」が8.7%、「月1回程度」が8.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「全くない」が4.4ポイント、「週2～3回程度」が4.0ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、婚姻状況別の配偶者あり、社会的孤立別の非該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	8.8	6.3	9.7	5.8	8.5	12.5	21.1	27.3
女性(n=928)	8.7	8.3	9.9	6.4	7.4	11.9	20.9	26.5
その他・答えたくない(n=23)	8.7	0.0	13.0	0.0	13.0	8.7	26.1	30.4
20歳代(n=46)	15.2	8.7	8.7	8.7	8.7	4.3	10.9	34.8
30歳代(n=152)	8.6	10.5	14.5	10.5	7.9	9.9	16.4	21.7
40歳代(n=242)	10.3	12.4	12.4	4.5	9.5	16.1	19.4	15.3
50歳代(n=351)	7.7	7.4	9.4	6.3	10.8	12.3	26.2	19.9
60歳代(n=404)	7.4	6.4	9.7	4.7	6.2	14.1	22.5	29.0
70歳代(n=287)	10.8	3.1	7.0	5.2	6.6	10.1	20.6	36.6
80歳以上(n=71)	4.2	5.6	7.0	9.9	2.8	4.2	11.3	54.9
あいとびあエリア(n=454)	7.0	6.2	9.0	7.5	7.0	12.1	20.3	30.8
こまえ苑エリア(n=506)	9.5	7.7	10.1	4.9	8.5	12.8	20.2	26.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	9.5	8.1	10.2	5.9	8.3	11.4	22.5	24.1
未婚(n=280)	5.4	1.4	3.2	2.5	3.9	5.7	15.0	62.9
配偶者あり(n=1046)	10.8	9.8	13.0	8.0	10.1	15.0	24.6	8.6
死別・離別(n=221)	3.2	3.6	3.6	1.4	3.2	5.9	11.8	67.4
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	1.3	0.0	2.6	4.5	5.2	86.5
社会的孤立 非該当(n=1366)	10.0	8.4	11.1	6.9	8.8	13.1	23.2	18.6
孤独感 該当(n=66)	7.6	3.0	7.6	4.5	4.5	4.5	21.2	47.0
孤独感 非該当(n=1478)	8.9	7.6	10.0	6.2	8.0	12.5	21.1	25.7
世帯年収200万円未満(n=193)	9.8	4.1	5.2	4.1	2.1	7.3	16.1	51.3
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	6.3	4.8	6.6	3.3	8.4	10.8	19.2	40.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	10.9	5.9	9.4	6.7	6.5	11.7	23.2	25.8
世帯年収700万円以上(n=496)	9.9	12.1	14.1	7.7	10.7	14.3	21.0	10.3

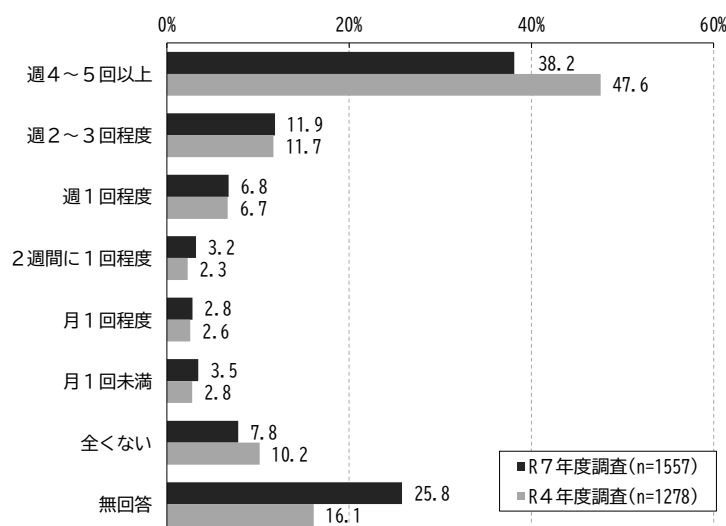
③SNS や電子メールなど

「週4～5回以上」が38.2%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が11.9%、「全くない」が7.8%、「週1回程度」が6.8%、「月1回未満」が3.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「週4～5回以上」が9.4ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、若い層で「週4～5回以上」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の配偶者あり、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当で「週4～5回以上」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「週4～5回以上」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	37.3	11.0	7.7	3.8	4.2	3.5	7.0	25.6
女性(n=928)	39.2	12.5	6.3	2.8	1.8	3.4	8.3	25.6
その他・答えたくない(n=23)	26.1	8.7	4.3	4.3	8.7	4.3	13.0	30.4
20歳代(n=46)	50.0	2.2	2.2	0.0	0.0	4.3	4.3	37.0
30歳代(n=152)	53.9	9.9	3.3	1.3	2.0	2.0	5.9	21.7
40歳代(n=242)	58.3	11.6	3.3	2.9	1.2	2.1	5.0	15.7
50歳代(n=351)	45.6	14.2	7.7	4.0	2.6	2.6	6.0	17.4
60歳代(n=404)	31.2	12.6	9.7	2.5	4.0	3.2	10.1	26.7
70歳代(n=287)	18.8	12.5	7.3	4.2	3.5	6.6	11.5	35.5
80歳以上(n=71)	11.3	4.2	7.0	7.0	4.2	4.2	5.6	56.3
あいとぴあエリア(n=454)	36.6	10.1	5.7	4.8	2.2	3.1	7.9	29.5
こまえ苑エリア(n=506)	37.2	13.2	7.3	2.0	3.4	3.6	7.7	25.7
こまえ正吉苑エリア(n=590)	40.5	12.2	7.3	3.1	2.9	3.6	8.0	22.5
未婚(n=280)	12.9	4.3	3.2	1.8	2.1	4.3	8.9	62.5
配偶者あり(n=1046)	50.6	15.1	8.2	3.8	3.5	3.6	8.0	7.1
死別・離別(n=221)	12.2	6.3	5.0	2.3	0.5	1.8	5.0	67.0
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	3.2	1.3	3.2	4.5	1.9	85.8
社会的孤立 非該当(n=1366)	43.5	13.5	7.4	3.5	2.9	3.4	8.5	17.3
孤独感 該当(n=66)	19.7	7.6	9.1	4.5	1.5	1.5	9.1	47.0
孤独感 非該当(n=1478)	39.2	12.2	6.8	3.2	2.9	3.6	7.6	24.5
世帯年収200万円未満(n=193)	17.1	7.8	4.7	2.1	2.1	4.1	10.9	51.3
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	18.6	9.3	9.6	2.4	4.2	4.5	11.1	40.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	38.1	11.4	6.2	3.8	3.5	5.0	8.2	23.8
世帯年収700万円以上(n=496)	60.3	15.1	6.0	2.2	1.8	1.6	3.8	9.1

問 16 あなたは次に挙げる①～⑩の事柄で頼れる人はいますか。また、「1.いる」と答えた方にお聞きします。それはだれですか。

①子どもの世話や看病

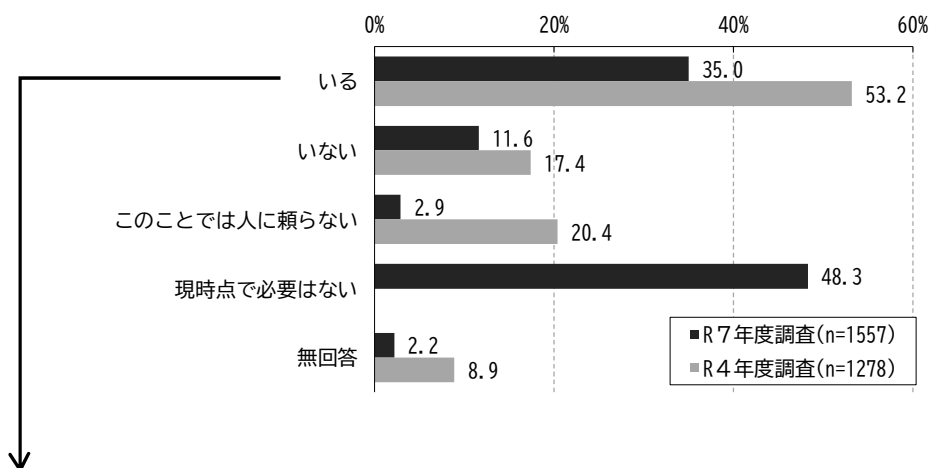
「現時点で必要はない」が48.3%と最も多く、次いで「いる」が35.0%、「いない」が11.6%、「このことでは人に頼らない」が2.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が18.2ポイント、「このことでは人に頼らない」が17.5ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要ない」によるものと考えられます。

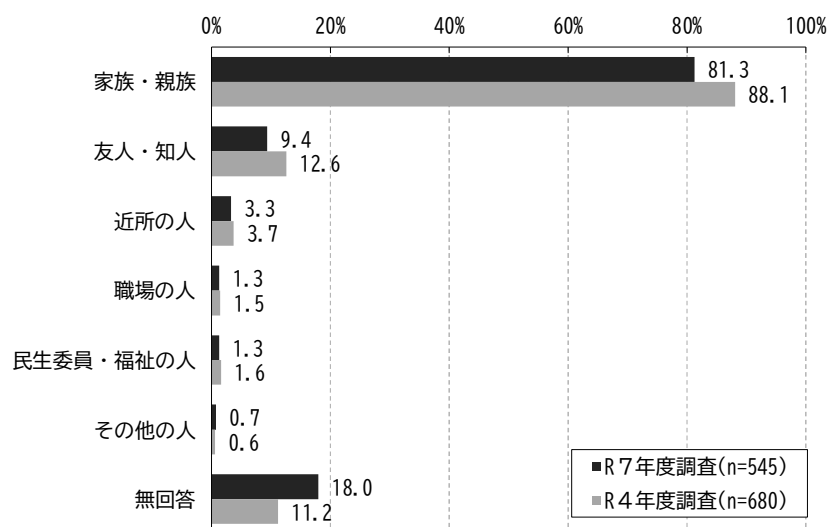
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が81.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が9.4%、「近所の人」が3.3%、「職場の人」及び「民生委員・福祉の人」が1.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が6.8ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



②（子ども以外の）介護や看病

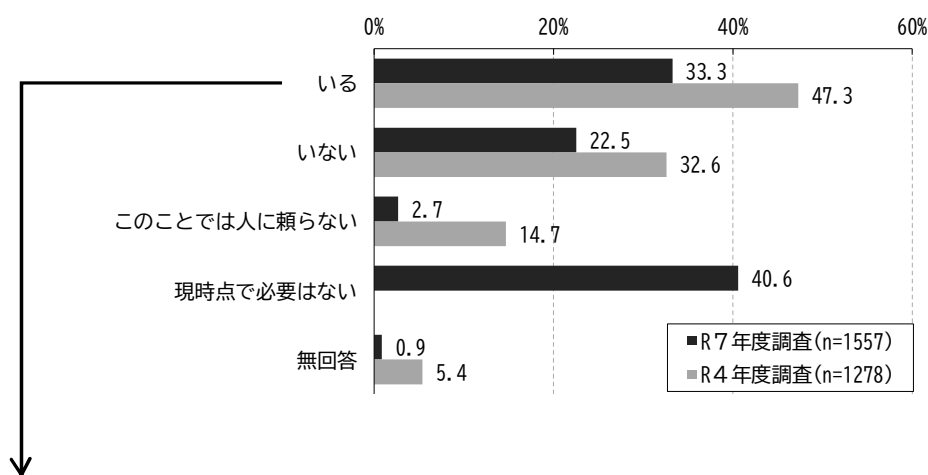
「現時点では必要はない」が40.6%と最も多く、次いで「いる」が33.3%、「いない」が22.5%、「このことでは人に頼らない」が2.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が14.0ポイント、「このことでは人に頼らない」が12.0ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

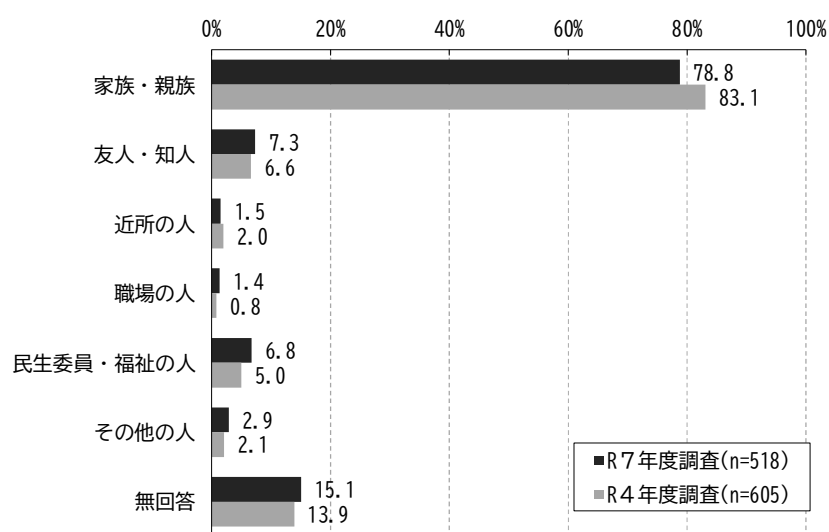
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が78.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が7.3%、「民生委員・福祉の人」が6.8%、「その他の人」が2.9%、「近所の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.3ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



③重要な事柄の相談

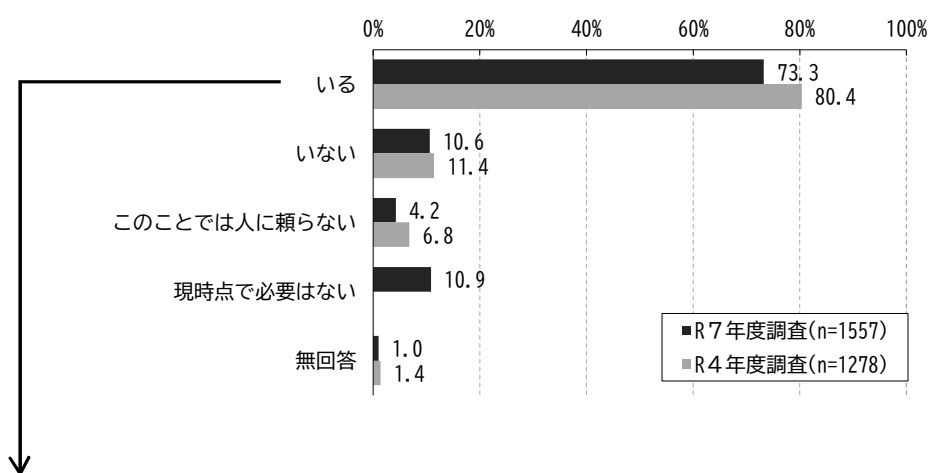
「いる」が73.3%と最も多く、次いで「現時点で必要はない」が10.9%、「いない」が10.6%、「このことでは人に頼らない」が4.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が7.1ポイント、「このことでは人に頼らない」が2.6ポイント少なくなっています。

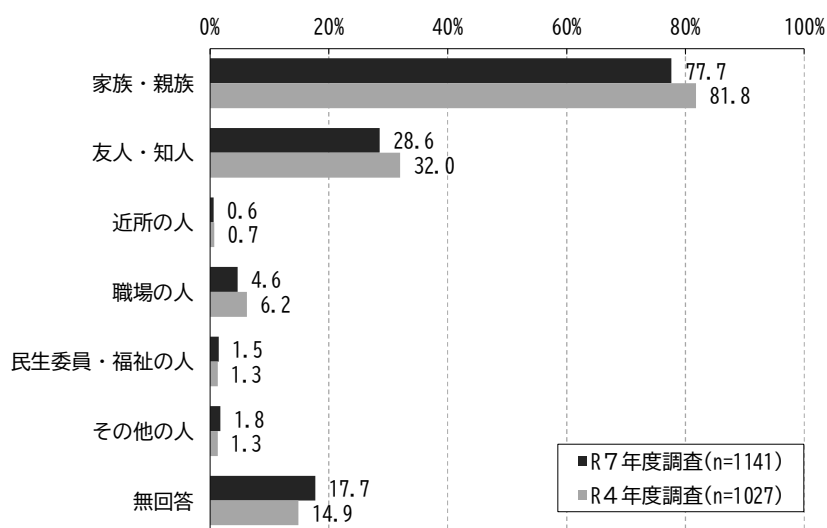
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が77.7%と最も多く、次いで「友人・知人」が28.6%、「職場の人」が4.6%、「その他の人」が1.8%、「民生委員・福祉の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.1ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



④愚痴を聞いてくれること

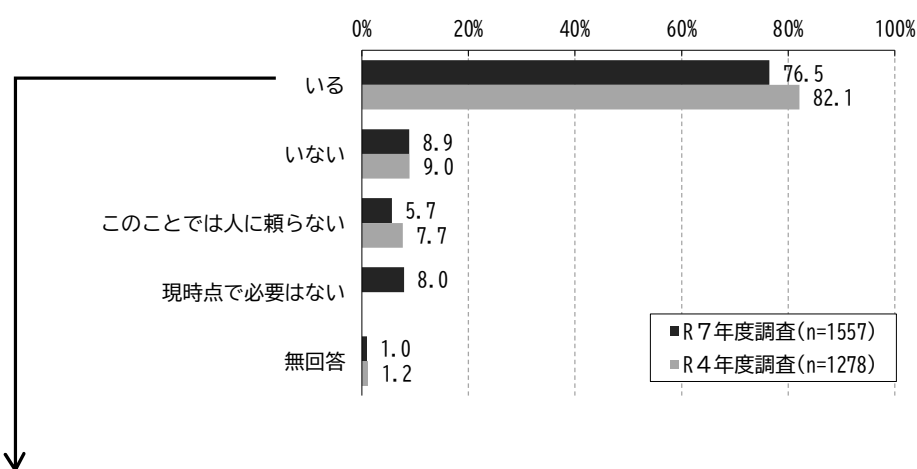
「いる」が76.5%と最も多く、次いで「いない」が8.9%、「現時点で必要はない」が8.0%、「このことでは人に頼らない」が5.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が5.6ポイント少なくなっています。

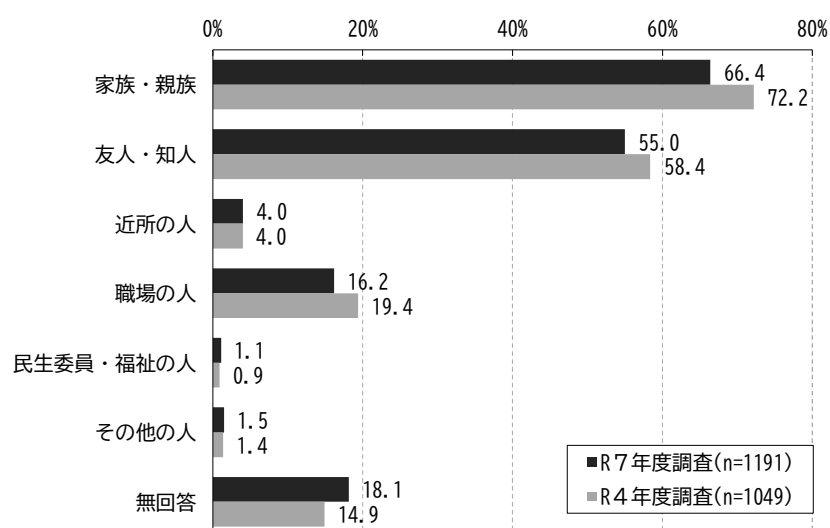
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が66.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が55.0%、「職場の人」が16.2%、「近所の人」が4.0%、「その他の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が5.8ポイント、「友人・知人」が3.4ポイント、「職場の人」が3.2ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑤喜びや悲しみを分かち合うこと

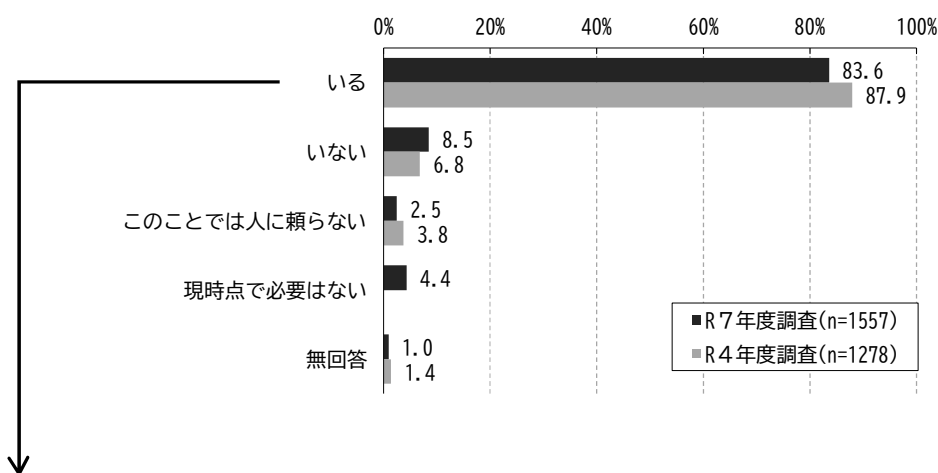
「いる」が83.6%と最も多く、次いで「いない」が8.5%、「現時点で必要はない」が4.4%、「このことでは人に頼らない」が2.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が4.3ポイント少なくなっています。

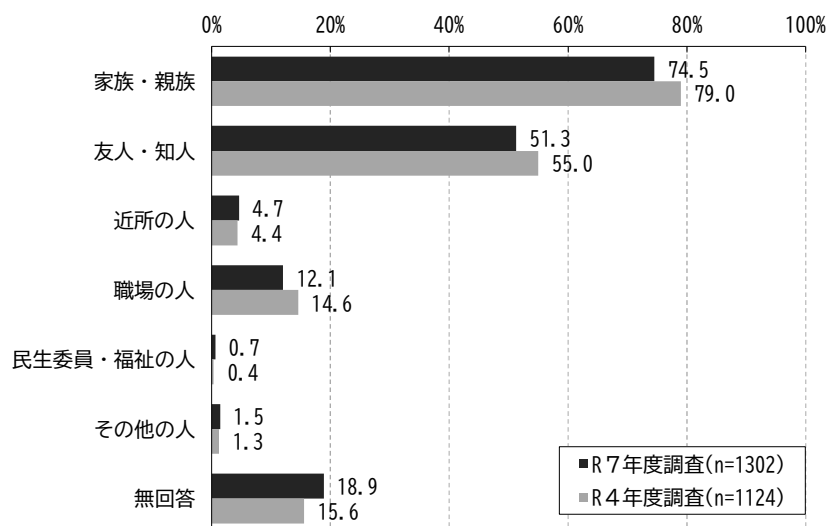
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が74.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が51.3%、「職場の人」が12.1%、「近所の人」が4.7%、「その他の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.5ポイント、「友人・知人」が3.7ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑥いざというときのお金の援助

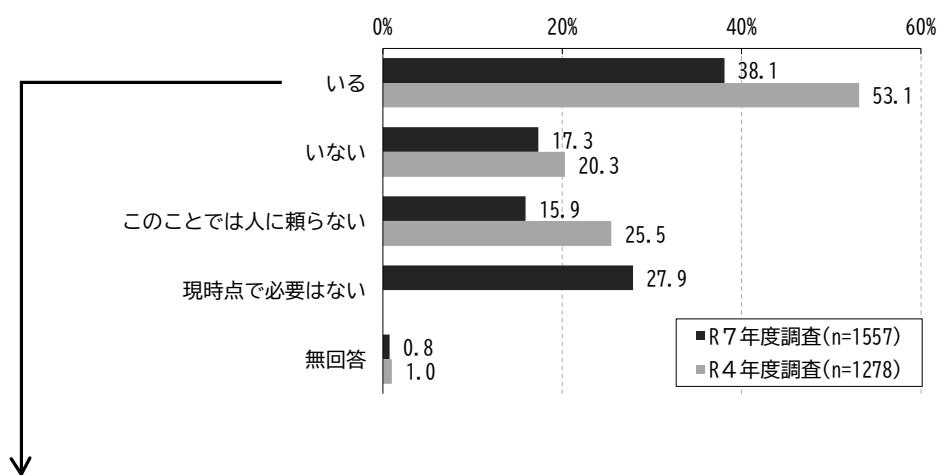
「いる」が38.1%と最も多く、次いで「現時点では必要はない」が27.9%、「いない」が17.3%、「このことでは人に頼らない」が15.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が15.0ポイント、「このことでは人に頼らない」が9.6ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

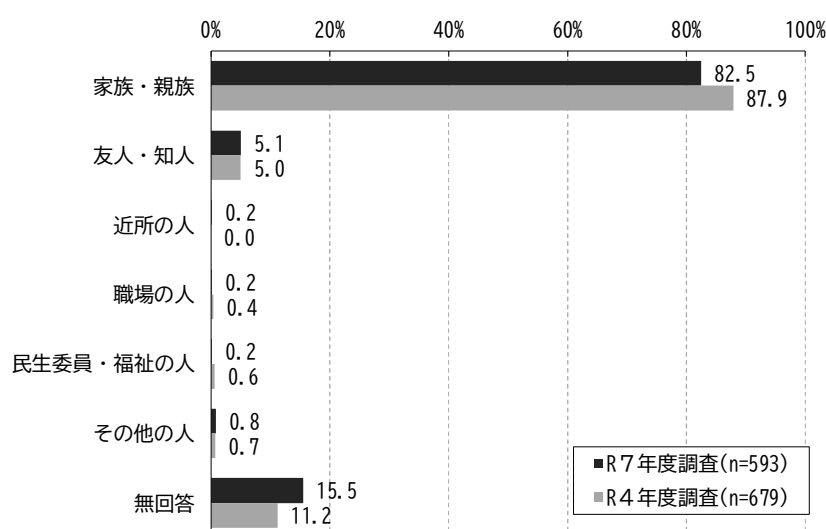
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が82.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が5.1%、「その他の人」が0.8%、「近所の人」、「職場の人」、「民生委員・福祉の人」が同率で0.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が5.4ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑦日ごろのちょっとしたことの手助け

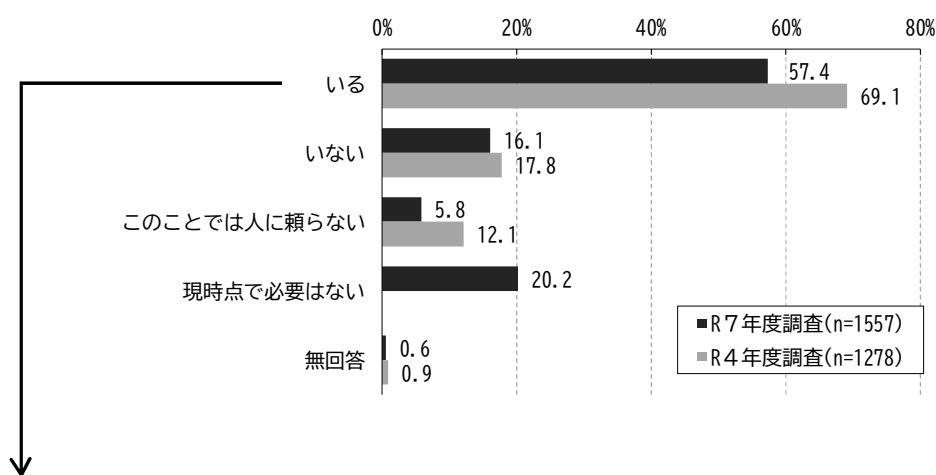
「いる」が57.4%と最も多く、次いで「現時点で必要はない」が20.2%、「いない」が16.1%、「このことでは人に頼らない」が5.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が11.7ポイント、「このことでは人に頼らない」が6.3ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要ない」によるものと考えられます。

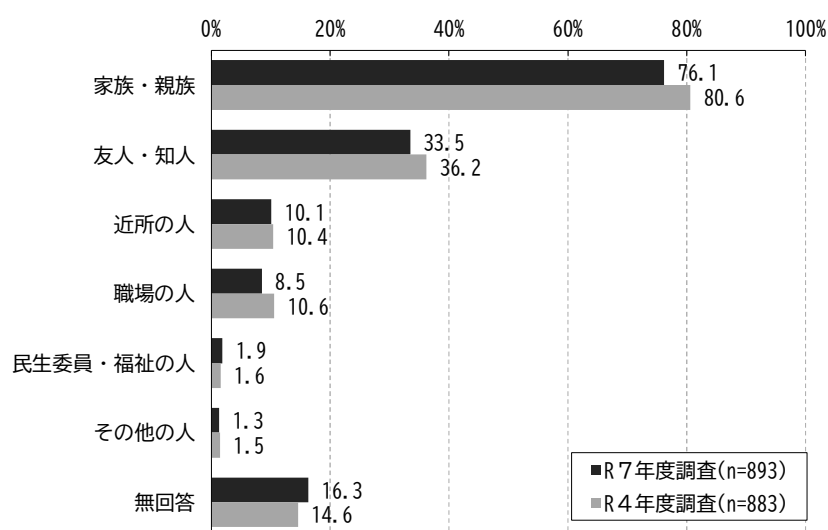
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が76.1%と最も多く、次いで「友人・知人」が33.5%、「近所の人」が10.1%、「職場の人」が8.5%、「民生委員・福祉の人」が1.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.5ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑧家を借りるときの保証人を頼むこと

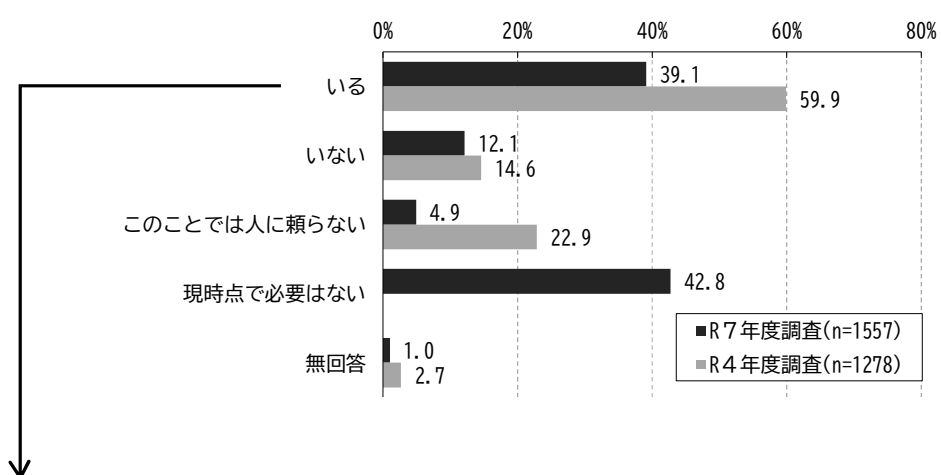
「現時点では必要はない」が42.8%と最も多く、次いで「いる」が39.1%、「いない」が12.1%、「このことでは人に頼らない」が4.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が20.8ポイント、「このことでは人に頼らない」が18.0ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

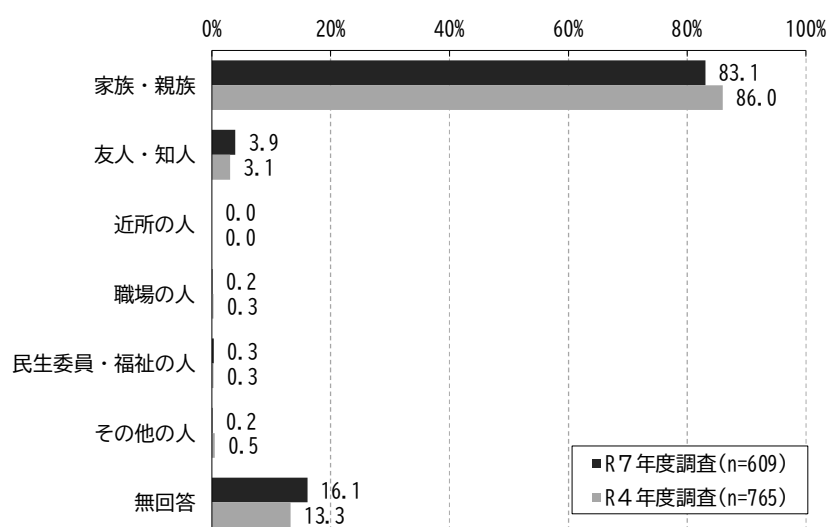
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が83.1%と最も多く、次いで「友人・知人」が3.9%、「民生委員・福祉の人」が0.3%、「職場の人」及び「その他の人」が0.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、頼れる人の傾向に大きな差はみられません。

頼れる人の有無



頼れる人



⑨福祉施設や病院等に入所・入院する際に身元保証人を頼むこと

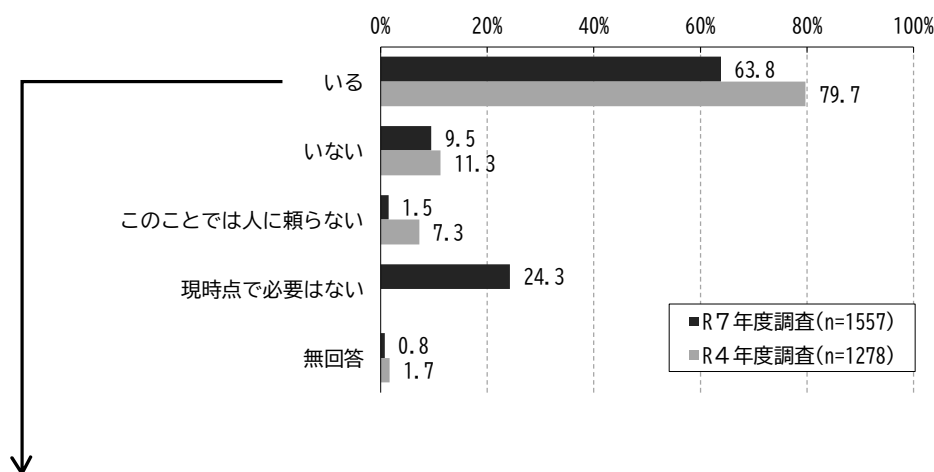
「いる」が63.8%と最も多く、次いで「現時点では必要はない」が24.3%、「いない」が9.5%、「このことでは人に頼らない」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が15.9ポイント、「このことでは人に頼らない」が5.8ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

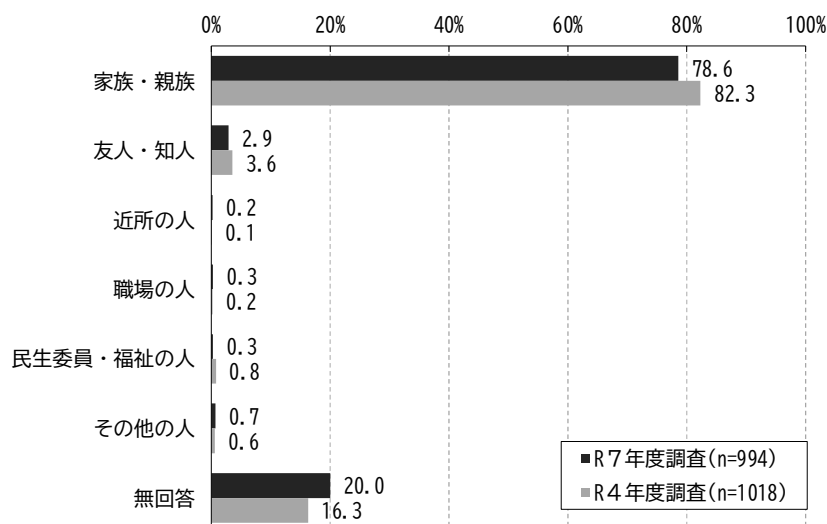
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が78.6%と最も多く、次いで「友人・知人」が2.9%、「その他の人」が0.7%、「職場の人」及び「民生委員・福祉の人」が0.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が3.7ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑩成年後見人等を頼むこと

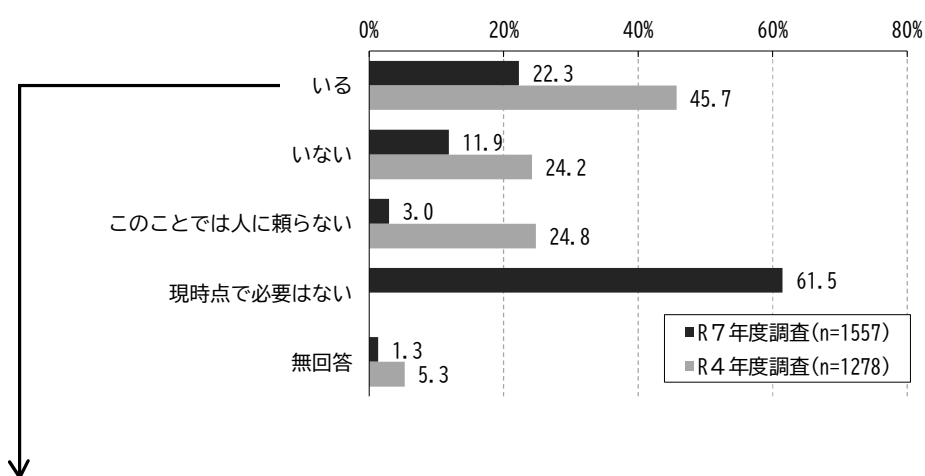
「現時点では必要はない」が61.5%と最も多く、次いで「いる」が22.3%、「いない」が11.9%、「このことでは人に頼らない」が3.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が23.4ポイント、「このことでは人に頼らない」が21.8ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

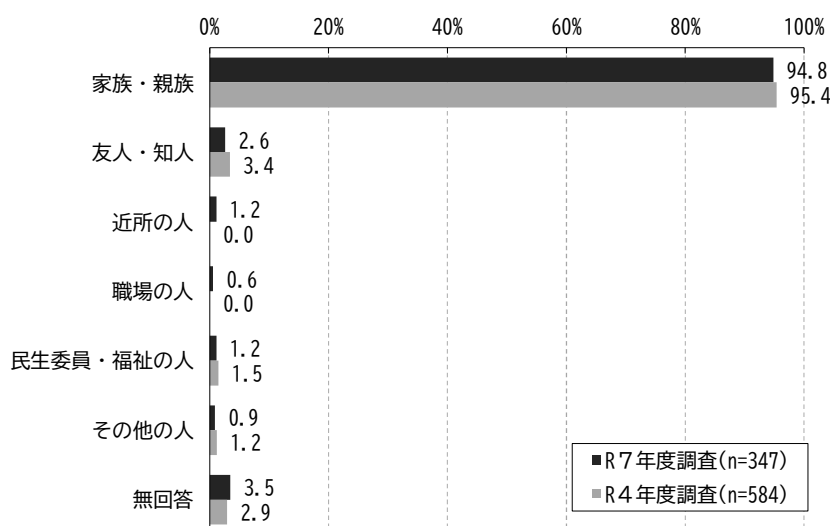
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が94.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が2.6%、「近所の人」及び「民生委員・福祉の人」が1.2%、「その他の人」が0.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、頼れる人の傾向に大きな差はみられません。

頼れる人の有無



頼れる人

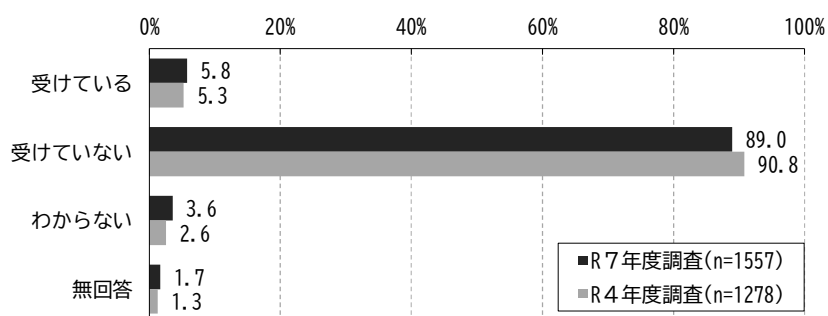


問 17 あなたは現在、行政機関や NPO 等の民間団体から、困りごとに対する支援（対価を支払うものを除く。）を受けていますか。

「受けていない」が 89.0%と最も多く、次いで「受けている」が 5.8%、「わからない」が 3.6%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円未満で「受けている」の割合がやや高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	受けている	受けていない	わからない	無回答
男性(n=601)	4.7	91.2	3.2	1.0
女性(n=928)	6.5	88.0	3.7	1.8
その他・答えたくない(n=23)	4.3	73.9	13.0	8.7
20歳代(n=46)	0.0	87.0	8.7	4.3
30歳代(n=152)	8.6	85.5	3.9	2.0
40歳代(n=242)	8.3	85.5	5.0	1.2
50歳代(n=351)	7.7	86.9	4.6	0.9
60歳代(n=404)	4.2	91.8	2.2	1.7
70歳代(n=287)	2.4	94.1	2.1	1.4
80歳以上(n=71)	8.5	84.5	2.8	4.2
あいとびあエリア(n=454)	5.5	88.1	5.7	0.7
こまえ苑エリア(n=506)	4.9	89.1	3.4	2.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	6.8	89.7	2.2	1.4
ひとり暮らし(n=313)	8.6	86.6	3.8	1.0
その他(n=1205)	5.1	89.9	3.5	1.6
未婚(n=280)	10.7	81.4	7.1	0.7
配偶者あり(n=1046)	4.3	91.2	2.8	1.7
死別・離別(n=221)	6.8	88.2	3.2	1.8
社会的孤立 該当(n=155)	9.0	83.9	5.2	1.9
社会的孤立 非該当(n=1366)	5.3	90.0	3.4	1.2
孤独感 該当(n=66)	24.2	57.6	18.2	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	5.0	90.9	2.9	1.2
世帯年収200万円未満(n=193)	13.0	77.7	7.3	2.1
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	7.2	87.4	3.3	2.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	4.4	92.7	1.8	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	2.6	94.0	2.4	1.0

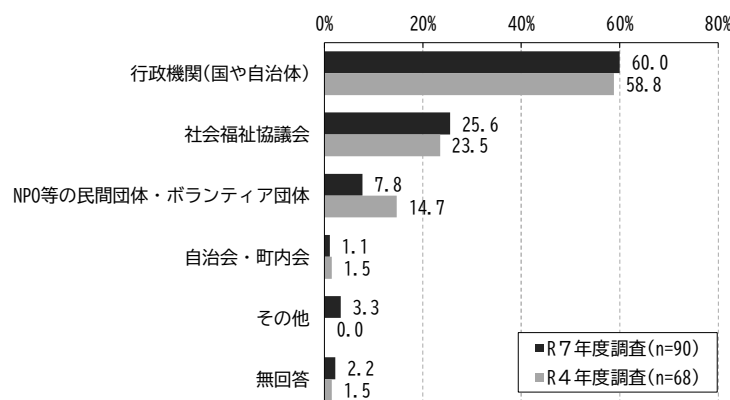
【問 17 で「1. 受けている」と回答した方】

問 17-1 あなたはどこから支援を受けていますか。

「行政機関（国や自治体）」が 60.0%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が 25.6%、「NPO 等の民間団体・ボランティア団体」が 7.8%、「その他」が 3.3%、「自治会・町内会」が 1.1%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「NPO 等の民間団体・ボランティア団体」が 6.9 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 70 歳代で「社会福祉協議会」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

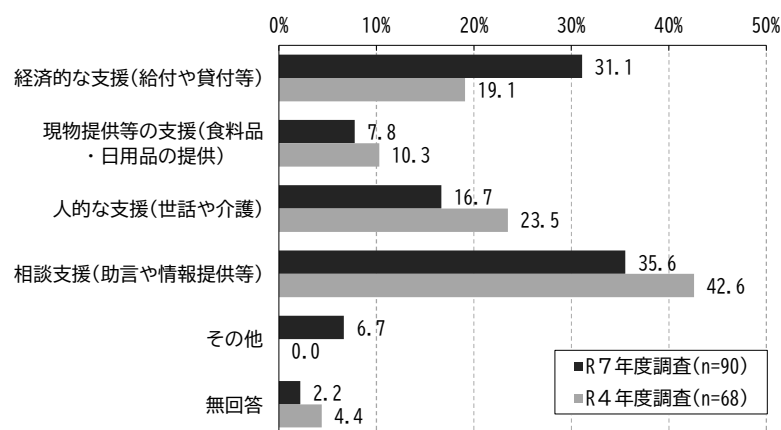
	行政機関 (国や自治 体)	社会福祉協 議会	NPO等の民 間団体・ボ ランティア 団体	自治会・町 内会	その他	無回答
男性(n=28)	60.7	35.7	0.0	0.0	0.0	3.6
女性(n=60)	60.0	20.0	11.7	1.7	5.0	1.7
その他・答えたくない(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=13)	61.5	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0
40歳代(n=20)	65.0	15.0	15.0	0.0	5.0	0.0
50歳代(n=27)	70.4	22.2	3.7	0.0	3.7	0.0
60歳代(n=17)	58.8	29.4	5.9	0.0	0.0	5.9
70歳代(n=7)	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0
80歳以上(n=6)	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
あいとびあエリア(n=25)	60.0	32.0	8.0	0.0	0.0	0.0
こまえ苑エリア(n=25)	52.0	20.0	20.0	4.0	4.0	0.0
こまえ正吉苑エリア(n=40)	65.0	25.0	0.0	0.0	5.0	5.0
ひとり暮らし(n=27)	77.8	18.5	0.0	0.0	0.0	3.7
その他(n=61)	54.1	27.9	11.5	1.6	4.9	0.0
未婚(n=30)	76.7	20.0	0.0	0.0	0.0	3.3
配偶者あり(n=45)	51.1	31.1	8.9	2.2	4.4	2.2
死別・離別(n=15)	53.3	20.0	20.0	0.0	6.7	0.0
社会的孤立 該当(n=14)	92.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
社会的孤立 非該当(n=73)	53.4	30.1	9.6	1.4	4.1	1.4
孤独感 該当(n=16)	62.5	25.0	6.3	0.0	6.3	0.0
孤独感 非該当(n=74)	59.5	25.7	8.1	1.4	2.7	2.7
世帯年収200万円未満(n=25)	76.0	20.0	4.0	0.0	0.0	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=24)	41.7	45.8	4.2	0.0	4.2	4.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=15)	60.0	13.3	20.0	0.0	0.0	6.7
世帯年収700万円以上(n=13)	53.8	23.1	15.4	0.0	7.7	0.0

問 17-2 あなたはどのような支援を受けていますか。

「相談支援（助言や情報提供等）」が 35.6%と最も多く、次いで「経済的な支援（給付や貸付等）」が 31.1%、「人的な支援（世話や介護）」が 16.7%、「現物提供等の支援（食料品・日用品の提供）」が 7.8%、「その他」が 6.7%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「経済的な支援（給付や貸付等）」が 12.0 ポイント多くなっているほかは、少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では 30 歳代で「経済的な支援（給付や貸付等）」、80 歳代で「人的な支援（世話や介護）」の割合が高くなっています。また、家族構成別のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「経済的な支援（給付や貸付等）」の割合が高くなっています。世帯年収別では世帯年収 200 万円未満で「経済的な支援（給付や貸付等）」、世帯年収 700 万円以上で「人的な支援（世話や介護）」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

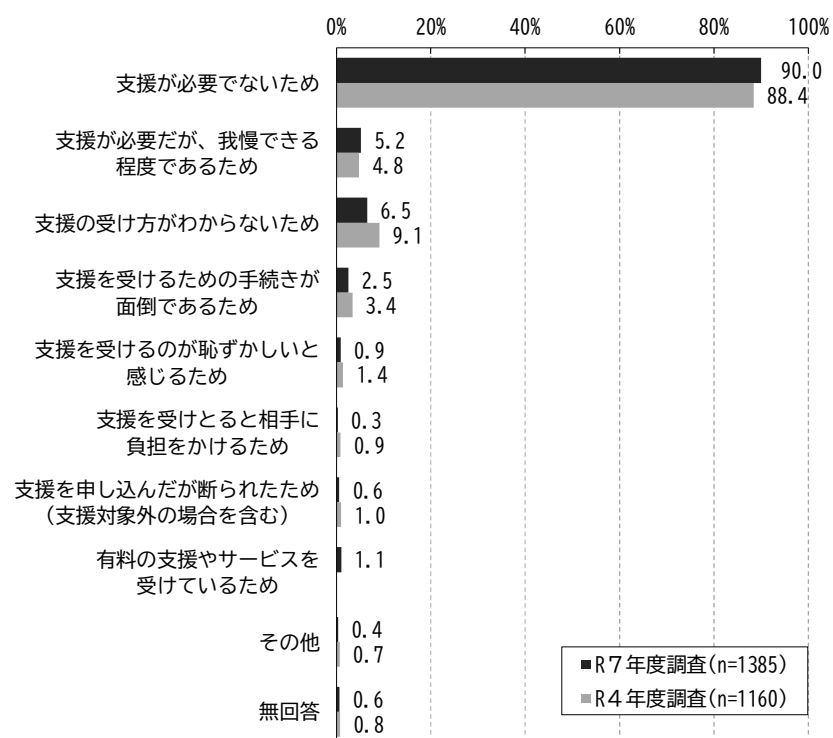
	経済的な支援 (給付や貸付等)	現物提供等の支援 (食料品・日用品の提供)	人的な支援 (世話や介護)	相談支援 (助言や情報提供等)	その他	無回答
男性(n=28)	39.3	0.0	10.7	42.9	3.6	3.6
女性(n=60)	28.3	11.7	16.7	33.3	8.3	1.7
その他・答えたくない(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=13)	53.8	7.7	15.4	23.1	0.0	0.0
40歳代(n=20)	25.0	20.0	15.0	30.0	10.0	0.0
50歳代(n=27)	37.0	3.7	7.4	44.4	7.4	0.0
60歳代(n=17)	23.5	5.9	17.6	41.2	5.9	5.9
70歳代(n=7)	28.6	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0
80歳以上(n=6)	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0	16.7
あいとびあエリア(n=25)	36.0	8.0	12.0	28.0	16.0	0.0
こまえ苑エリア(n=25)	32.0	8.0	16.0	40.0	4.0	0.0
こまえ正吉苑エリア(n=40)	27.5	7.5	20.0	37.5	2.5	5.0
ひとり暮らし(n=27)	40.7	0.0	14.8	29.6	11.1	3.7
その他(n=61)	27.9	11.5	16.4	39.3	4.9	0.0
未婚(n=30)	40.0	0.0	6.7	43.3	6.7	3.3
配偶者あり(n=45)	28.9	4.4	22.2	35.6	6.7	2.2
死別・離別(n=15)	20.0	33.3	20.0	20.0	6.7	0.0
社会的孤立 該当(n=14)	50.0	0.0	7.1	28.6	7.1	7.1
社会的孤立 非該当(n=73)	27.4	9.6	17.8	37.0	6.8	1.4
孤独感 該当(n=16)	37.5	12.5	12.5	31.3	6.3	0.0
孤独感 非該当(n=74)	29.7	6.8	17.6	36.5	6.8	2.7
世帯年収200万円未満(n=25)	48.0	4.0	12.0	28.0	8.0	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=24)	25.0	16.7	8.3	41.7	4.2	4.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=15)	26.7	13.3	13.3	33.3	6.7	6.7
世帯年収700万円以上(n=13)	7.7	0.0	46.2	38.5	7.7	0.0

【問 17 で「2 受けていない」と回答した方】

問 17-3 その理由をお答えください。(複数回答)

「支援が必要でないため」が 90.0%と最も多く、次いで「支援の受け方がわからないため」が 6.5%、「支援が必要だが、我慢できる程度であるため」が 5.2%、「支援を受けるための手続きが面倒であるため」が 2.5%、「有料の支援やサービスを受けているため」が 1.1%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。



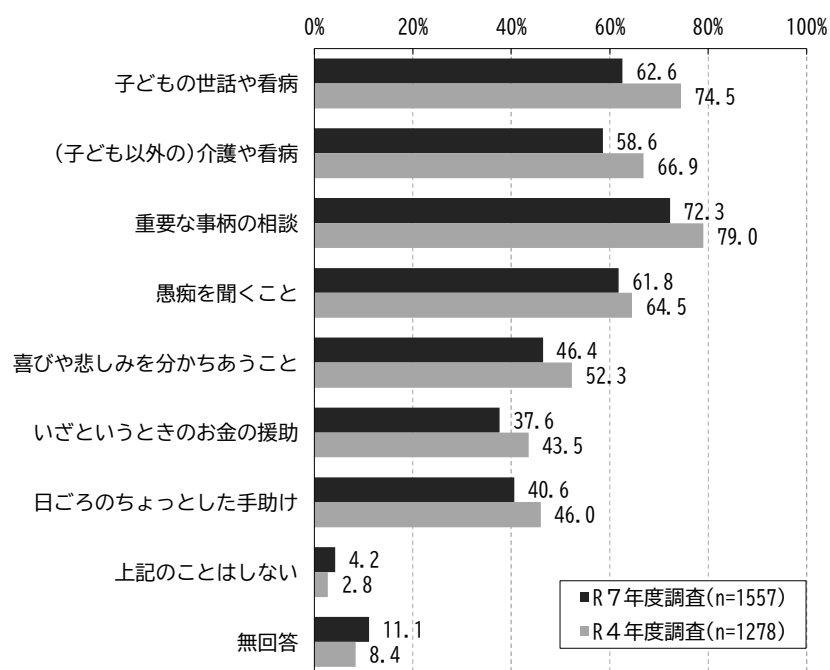
問 18 ①～④の人が、次に挙げる 1 から 7 の事柄について助けを必要としているときに、それらの事柄をしますか。

①家族・親族（複数回答）

「重要な事柄の相談」が 72.3%と最も多く、次いで「子どもの世話や看病」が 62.6%、「愚痴を聞くこと」が 61.8%、「(子ども以外の) 介護や看病」が 58.6%、「喜びや悲しみを分かちあうこと」が 46.4%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「子どもの世話や看病」が 11.9 ポイント、「(子ども以外の) 介護や看病」が 8.3 ポイント少なくなっており、その他すべての項目で少なくなっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ、すべての項目で割合が低くなっています。また、家族構成のその他、婚姻状況別の配偶者あり、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当ですべての項目の回答割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほどすべての項目の回答割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の) 介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざという ときのお金 の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	59.2	53.7	69.4	55.4	40.1	32.9	35.9	6.5	12.3
女性(n=928)	64.9	62.3	74.4	66.2	50.8	40.8	43.5	2.8	10.2
その他・答えたくない(n=23)	60.9	43.5	69.6	60.9	43.5	34.8	47.8	4.3	13.0
20歳代(n=46)	65.2	71.7	82.6	78.3	67.4	58.7	60.9	4.3	13.0
30歳代(n=152)	75.7	69.7	82.2	73.0	57.2	46.1	51.3	3.3	7.2
40歳代(n=242)	74.4	70.2	82.2	71.9	54.1	45.9	45.5	3.3	5.0
50歳代(n=351)	63.8	67.8	74.1	67.0	47.0	40.2	44.7	5.1	7.7
60歳代(n=404)	59.7	59.4	70.3	62.4	44.3	35.9	38.9	5.0	11.6
70歳代(n=287)	53.3	38.3	64.8	45.6	38.0	27.5	30.0	3.8	17.4
80歳以上(n=71)	42.3	19.7	45.1	31.0	28.2	16.9	21.1	2.8	25.4
あいとびあエリア(n=454)	62.1	59.5	72.5	62.1	49.8	42.3	45.4	4.6	10.6
こまえ苑エリア(n=506)	63.6	59.9	71.3	61.1	43.5	35.0	37.9	4.3	11.7
こまえ正吉苑エリア(n=590)	62.7	57.3	73.6	62.7	46.8	36.6	39.3	3.9	10.3
ひとり暮らし(n=313)	38.0	39.6	61.0	47.6	39.0	32.6	31.0	8.6	19.5
その他(n=1205)	70.1	64.5	75.9	66.3	49.3	39.7	43.9	3.1	8.3
未婚(n=280)	35.4	53.6	68.9	52.5	41.1	33.2	35.0	7.9	15.0
配偶者あり(n=1046)	72.9	64.2	77.0	67.4	49.6	40.2	43.6	3.0	8.0
死別・離別(n=221)	48.4	38.9	55.7	48.0	38.9	31.7	33.9	5.9	20.4
社会的孤立 該当(n=155)	32.3	33.5	49.0	38.1	25.8	22.6	22.6	12.9	23.2
社会的孤立 非該当(n=1366)	66.8	62.0	75.5	65.0	49.4	39.7	43.0	3.4	9.2
孤独感 該当(n=66)	27.3	43.9	56.1	40.9	31.8	24.2	25.8	12.1	21.2
孤独感 非該当(n=1478)	64.6	59.7	73.5	63.2	47.4	38.5	41.5	3.9	9.9
世帯年収200万円未満(n=193)	42.5	39.9	57.5	45.6	35.2	26.4	26.9	7.8	20.2
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	51.4	44.1	62.8	50.2	39.3	28.5	33.9	5.7	13.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	66.6	64.8	75.4	65.4	49.3	39.6	43.1	4.4	8.5
世帯年収700万円以上(n=496)	74.0	71.2	82.1	74.0	53.0	47.4	47.8	2.8	5.6

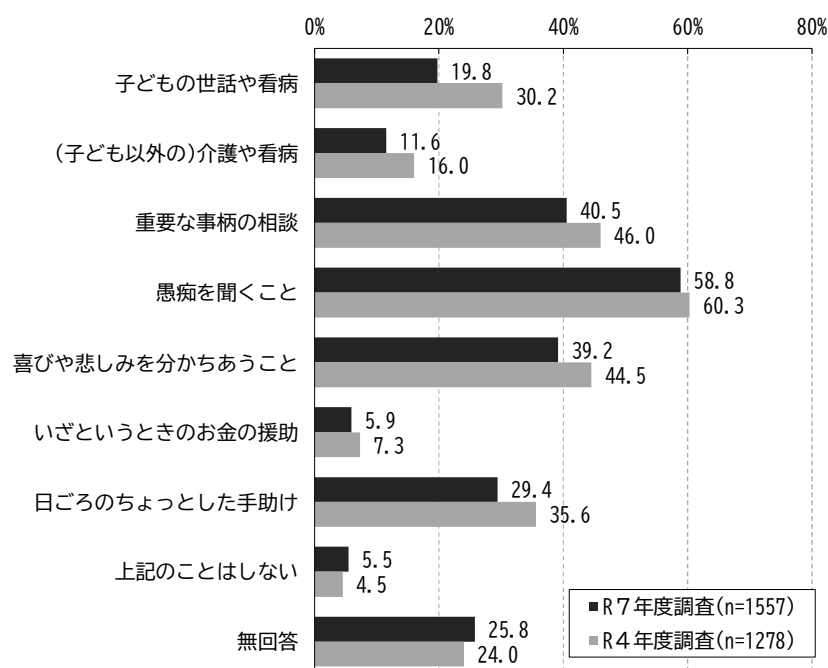
②友人・知人（複数回答）

「愚痴を聞くこと」が58.8%と最も多く、次いで「重要な事柄の相談」が40.5%、「喜びや悲しみを分かちあうこと」が39.2%、「日ごろのちょっとした手助け」が29.4%、「子どもの世話や看病」が19.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「子どもの世話や看病」が10.4ポイント、「日ごろのちょっとした手助け」が6.2ポイント少なくなっており、その他すべての項目で少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ、すべての項目で割合が低くなる傾向がみられます。また、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当ですべての項目の回答割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほどすべての項目の回答割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の) 介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざという ときのお金 の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	14.5	9.3	37.9	47.6	30.3	6.2	23.5	10.1	30.9
女性(n=928)	23.4	13.0	42.2	66.3	45.3	5.7	33.2	2.5	22.3
その他・答えたくない(n=23)	17.4	13.0	43.5	60.9	34.8	8.7	34.8	4.3	26.1
20歳代(n=46)	26.1	13.0	67.4	80.4	60.9	17.4	47.8	0.0	17.4
30歳代(n=152)	40.8	17.8	60.5	74.3	55.9	9.2	42.8	3.3	13.8
40歳代(n=242)	36.4	15.3	45.9	71.1	50.0	8.3	36.0	4.1	13.6
50歳代(n=351)	20.2	13.7	46.4	67.0	42.7	6.0	33.9	6.0	19.4
60歳代(n=404)	12.6	9.7	37.6	57.2	35.9	4.7	26.2	6.7	25.5
70歳代(n=287)	7.3	7.3	25.4	39.7	25.8	3.1	17.4	5.9	41.8
80歳以上(n=71)	4.2	2.8	12.7	18.3	9.9	1.4	11.3	7.0	64.8
あいとびあエリア(n=454)	24.2	14.1	43.6	60.6	41.9	6.6	33.0	5.9	24.0
こまえ苑エリア(n=506)	17.4	9.9	39.9	58.1	37.7	5.7	25.5	4.7	27.9
こまえ正吉苑エリア(n=590)	18.6	11.2	39.2	58.8	38.8	5.6	30.2	5.6	24.7
ひとり暮らし(n=313)	11.2	11.8	39.3	54.0	37.4	7.3	28.4	7.0	29.1
その他(n=1205)	22.2	11.5	41.3	60.9	40.5	5.6	30.0	5.0	24.4
未婚(n=280)	18.2	15.7	46.8	58.9	40.7	10.4	32.1	7.1	21.4
配偶者あり(n=1046)	22.4	11.3	40.8	60.9	40.2	5.6	30.1	5.1	24.6
死別・離別(n=221)	10.0	8.1	31.7	49.3	32.1	1.8	22.6	5.4	36.2
社会的孤立 該当(n=155)	7.7	9.7	26.5	40.6	25.8	3.9	20.0	11.6	35.5
社会的孤立 非該当(n=1366)	21.4	11.9	42.3	61.6	41.3	6.2	30.7	4.9	23.9
孤独感 該当(n=66)	13.6	6.1	27.3	39.4	30.3	1.5	19.7	18.2	30.3
孤独感 非該当(n=1478)	20.2	11.9	41.5	60.2	39.9	6.2	30.1	4.9	24.9
世帯年収200万円未満(n=193)	11.4	8.8	31.6	46.1	28.0	3.1	21.8	4.7	36.8
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	11.7	10.8	33.3	48.3	34.2	4.8	23.7	6.9	31.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	20.2	12.0	39.9	58.4	38.1	7.3	27.9	6.2	25.5
世帯年収700万円以上(n=496)	28.8	14.7	52.8	72.2	46.8	7.5	36.1	5.0	15.1

③近所の人（複数回答）

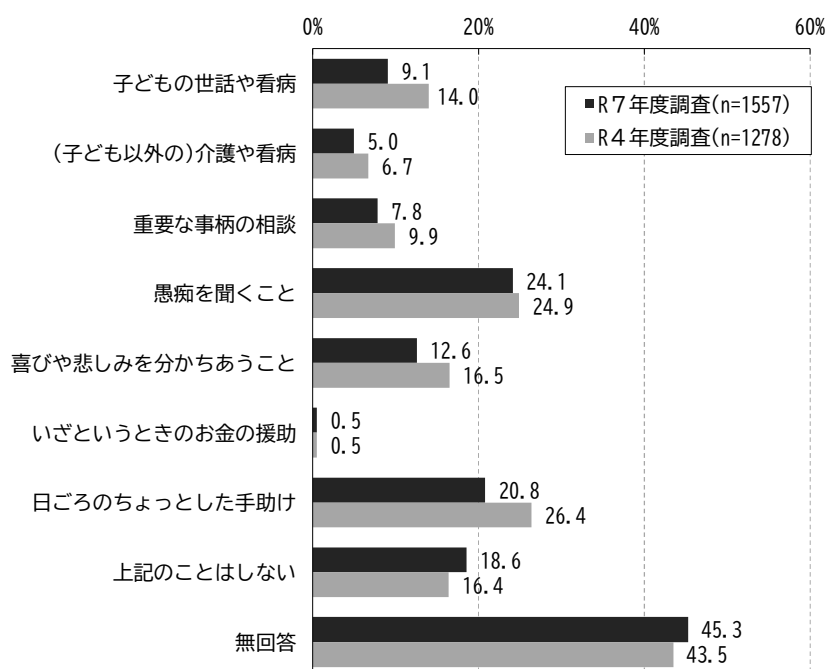
「愚痴を聞くこと」が24.1%と最も多く、次いで「日ごろのちょっとした手助け」が20.8%、「上記のことはしない」が18.6%、「喜びや悲しみを分かちあうこと」が12.6%、「子どもの世話や看病」が9.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「日ごろのちょっとした手助け」が5.6ポイント、「子どもの世話や看病」が4.9ポイント少なくなっており、その他ほとんどの項目で少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、40歳代で「愚痴を聞くこと」の割合が高く、また、年齢が上がるにつれ、「上記のことはしない」の割合が低くなっています。

世帯構成別のその他、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当で「愚痴を聞くこと」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「愚痴を聞くこと」「日ごろのちょっとした手助け」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の) 介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざという ときのお金 の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	7.3	4.7	8.8	17.5	7.8	0.8	16.6	22.0	47.4
女性(n=928)	10.5	5.4	7.4	28.9	15.9	0.3	23.7	15.9	43.9
その他・答えたくない(n=23)	0.0	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	13.0	39.1	43.5
20歳代(n=46)	4.3	4.3	6.5	17.4	15.2	0.0	26.1	28.3	34.8
30歳代(n=152)	14.5	3.9	7.9	26.3	16.4	0.0	23.0	27.6	33.6
40歳代(n=242)	17.4	7.4	12.8	32.6	20.2	0.4	24.8	21.5	32.6
50歳代(n=351)	10.8	6.8	8.8	27.9	13.4	0.9	25.1	20.2	37.9
60歳代(n=404)	6.2	3.7	6.9	22.0	10.6	0.7	19.8	18.8	47.8
70歳代(n=287)	3.5	4.5	5.9	19.5	8.4	0.3	15.3	10.5	59.9
80歳以上(n=71)	2.8	0.0	0.0	7.0	1.4	0.0	5.6	7.0	83.1
あいとびあエリア(n=454)	12.1	5.5	8.4	26.4	15.2	0.2	23.3	20.5	41.0
こまえ苑エリア(n=506)	7.3	5.1	9.3	23.1	11.7	1.0	17.8	17.8	48.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	8.3	4.6	6.3	23.6	11.5	0.3	21.5	17.8	45.8
ひとり暮らし(n=313)	3.5	3.5	5.4	16.0	8.9	0.0	15.0	21.7	50.8
その他(n=1205)	10.7	5.5	8.5	26.6	13.8	0.7	22.7	18.0	43.2
未婚(n=280)	4.6	5.7	6.4	15.7	9.6	0.0	16.4	25.7	43.2
配偶者あり(n=1046)	11.3	5.3	8.7	27.2	13.9	0.7	22.7	17.5	43.6
死別・離別(n=221)	4.5	3.2	5.9	21.3	10.4	0.5	17.2	14.5	55.7
社会的孤立 該当(n=155)	5.2	4.5	7.1	12.3	6.5	0.0	12.9	20.6	51.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	9.5	5.1	7.9	25.5	13.5	0.6	21.9	18.6	44.2
孤独感 該当(n=66)	6.1	3.0	7.6	7.6	4.5	0.0	9.1	33.3	45.5
孤独感 非該当(n=1478)	9.3	5.1	7.9	25.1	13.1	0.5	21.5	18.1	44.8
世帯年収200万円未満(n=193)	5.7	3.6	8.3	16.1	8.8	0.0	13.5	14.0	57.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	4.2	4.8	3.9	16.2	6.3	0.3	13.8	20.7	52.9
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	6.7	5.3	7.6	22.9	11.7	0.6	19.4	20.5	44.0
世帯年収700万円以上(n=496)	15.7	6.5	11.7	33.5	18.5	0.8	27.0	19.8	33.7

④職場の人（複数回答）

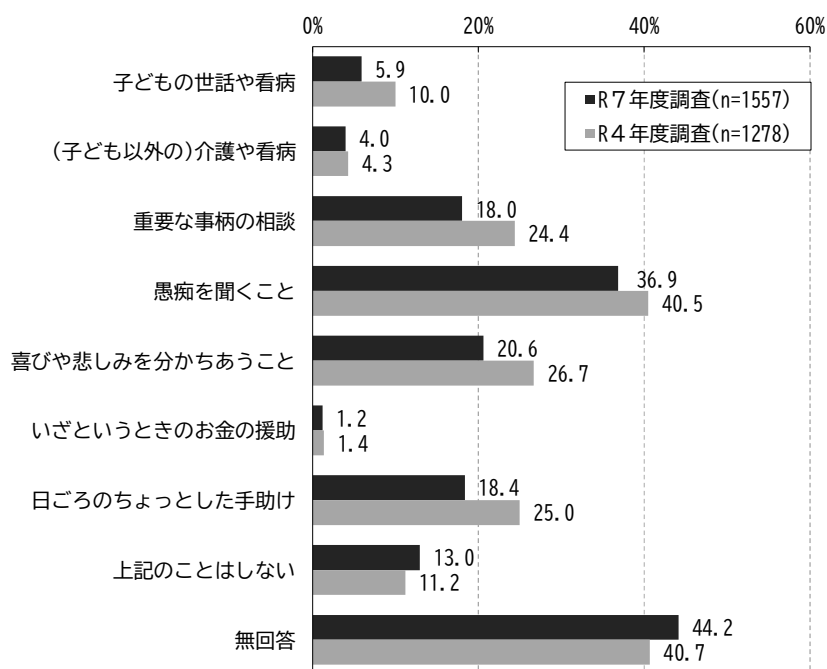
「愚痴を聞くこと」が36.9%と最も多く、次いで「喜びや悲しみを分かちあうこと」が20.6%、「日ごろのちょっとした手助け」が18.4%、「重要な事柄の相談」が18.0%、「上記のことはしない」が13.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「日ごろのちょっとした手助け」が6.6ポイント、「重要な事柄の相談」が6.4ポイント少なくなっており、その他すべての項目で少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ、「愚痴を聞くこと」の割合が低くなっています。

世帯構成別のその他、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当で「愚痴を聞くこと」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「いざというときのお金の援助」以外の項目で割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の) 介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざという ときのお金 の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	5.2	4.8	18.6	31.3	14.8	1.7	15.8	17.3	44.3
女性(n=928)	6.6	3.6	17.7	40.7	24.7	0.9	19.9	10.0	44.1
その他・答えたくない(n=23)	0.0	0.0	21.7	30.4	13.0	4.3	26.1	17.4	43.5
20歳代(n=46)	4.3	2.2	30.4	63.0	39.1	0.0	39.1	2.2	28.3
30歳代(n=152)	11.2	5.9	32.2	55.3	34.9	2.6	32.2	11.2	25.7
40歳代(n=242)	12.0	7.0	25.6	53.7	31.0	2.1	25.6	10.7	25.6
50歳代(n=351)	7.7	5.4	25.9	50.4	27.1	1.7	26.8	11.7	30.5
60歳代(n=404)	3.5	3.2	13.4	31.7	16.6	0.7	12.4	16.8	47.0
70歳代(n=287)	1.0	1.0	3.8	8.7	4.5	0.3	4.5	15.0	72.8
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	93.0
あいとびあエリア(n=454)	7.0	4.8	19.2	38.5	22.9	1.1	21.1	12.1	43.0
こまえ苑エリア(n=506)	5.5	4.3	19.0	37.7	20.8	2.0	17.8	10.9	44.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	5.4	3.1	16.6	35.3	19.0	0.7	16.9	15.3	44.7
ひとり暮らし(n=313)	2.2	1.6	14.1	28.1	16.6	1.0	14.4	16.9	48.6
その他(n=1205)	7.0	4.6	19.4	39.9	22.2	1.3	19.8	12.1	42.2
未婚(n=280)	5.4	5.7	21.4	39.6	22.5	1.8	22.9	14.3	35.7
配偶者あり(n=1046)	7.0	4.0	19.0	39.6	21.9	1.1	19.0	12.6	42.6
死別・離別(n=221)	1.8	1.8	9.5	20.8	12.2	0.9	10.0	13.1	61.5
社会的孤立 該当(n=155)	1.9	3.2	12.3	23.2	10.3	0.0	12.3	18.7	51.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	6.4	4.1	18.9	38.7	22.2	1.4	19.3	12.5	42.9
孤独感 該当(n=66)	3.0	1.5	13.6	25.8	15.2	1.5	16.7	16.7	51.5
孤独感 非該当(n=1478)	6.1	4.1	18.4	37.7	21.0	1.2	18.6	12.9	43.4
世帯年収200万円未満(n=193)	3.1	1.0	7.3	15.0	8.8	0.0	9.3	10.9	67.9
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	2.4	2.4	11.1	24.3	14.1	1.2	11.1	15.9	54.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	5.6	5.3	15.0	38.1	22.9	1.8	18.5	12.6	42.5
世帯年収700万円以上(n=496)	9.9	5.8	30.6	55.4	29.8	1.6	27.0	11.7	26.2

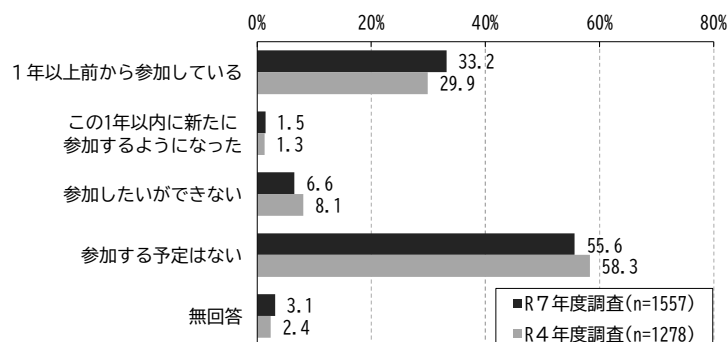
問 19 あなたは次に挙げる①～⑧の会やグループに参加していますか。

①町会・自治会

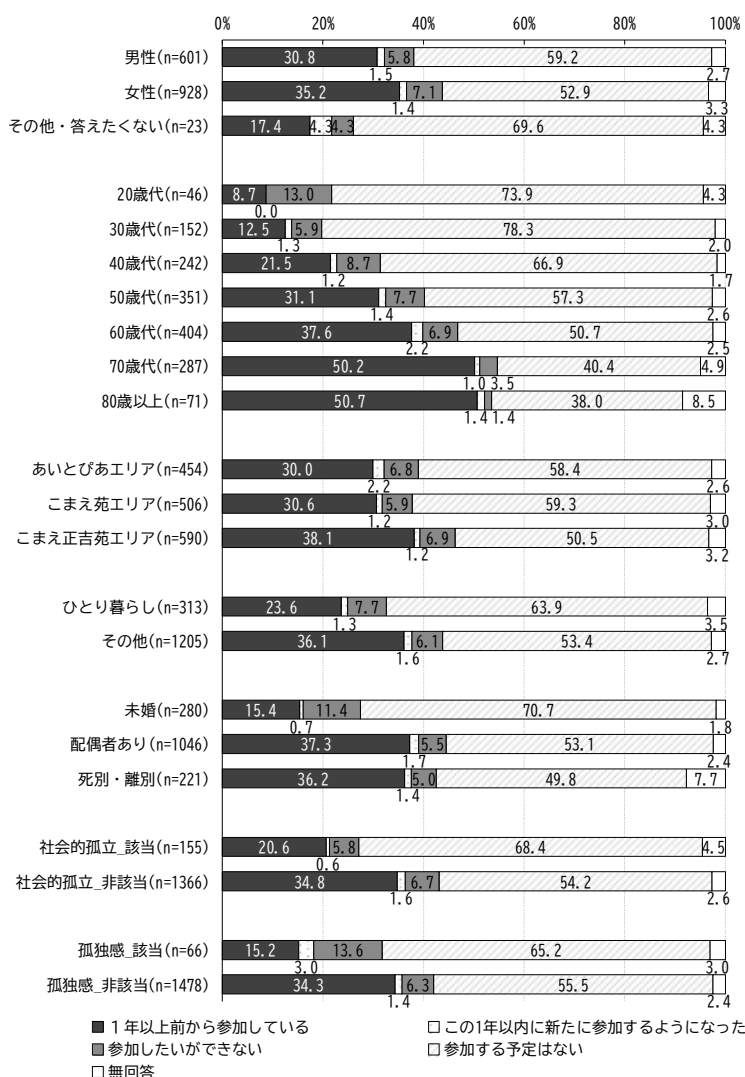
「参加する予定はない」が55.6%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が33.2%、「参加したいができない」が6.6%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなっています。また、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・クロス集計>

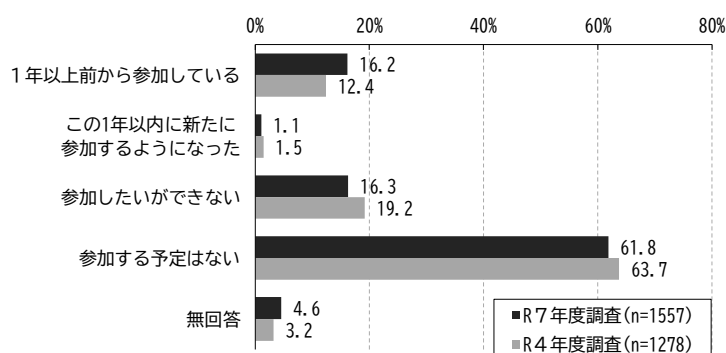


②ボランティアやNPO

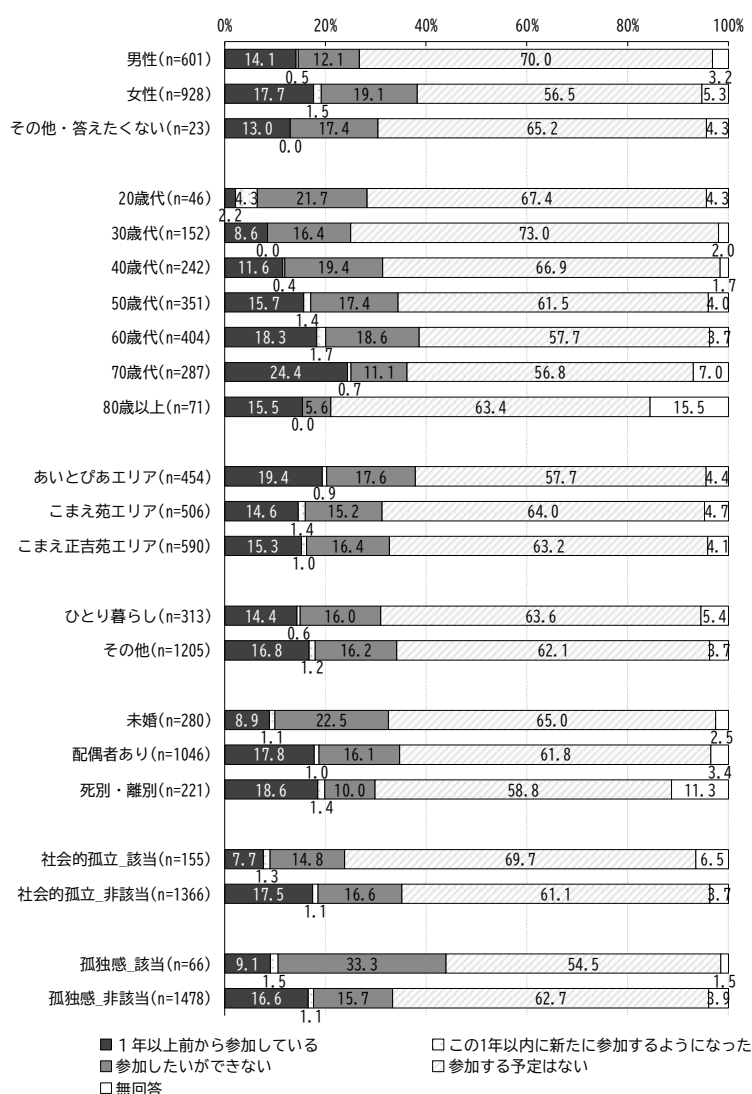
「参加する予定はない」が61.8%と最も多く、次いで「参加したいができない」が16.3%、「1年以上前から参加している」が16.2%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当で「参加したいができない」の割合が高くなっています。



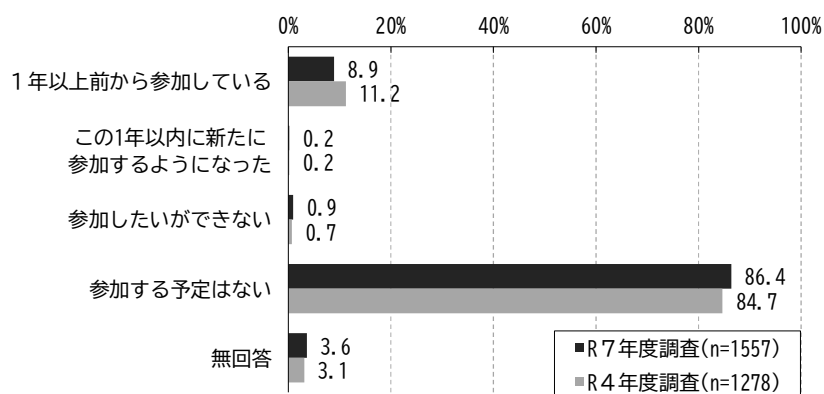
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・クロス集計>



③宗教団体（檀家や氏子を含む）

「参加する予定はない」が86.4%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が8.9%、「参加したいができない」が0.9%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が0.2%となっています。

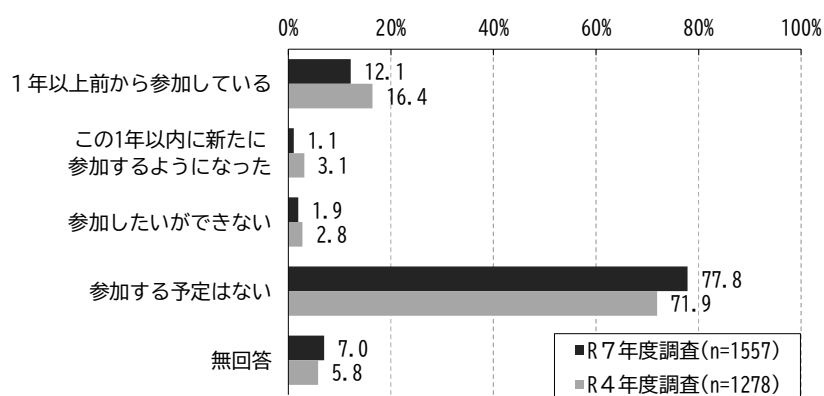
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。



④PTA や保護者会

「参加する予定はない」が77.8%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が12.1%、「参加したいができない」が1.9%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「1年以上前から参加している」が4.3ポイント少なく、「参加する予定はない」が5.9ポイント多くなっています。

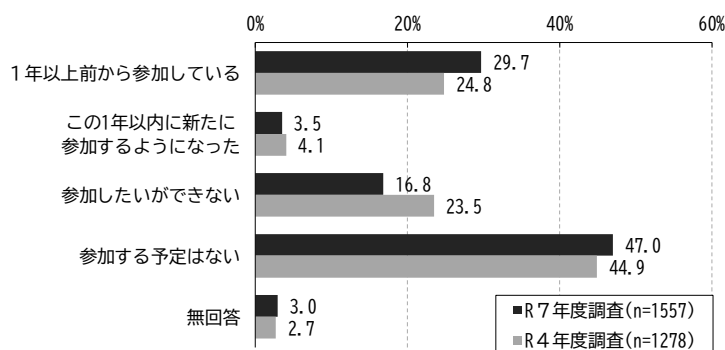


⑤趣味の会やスポーツクラブ

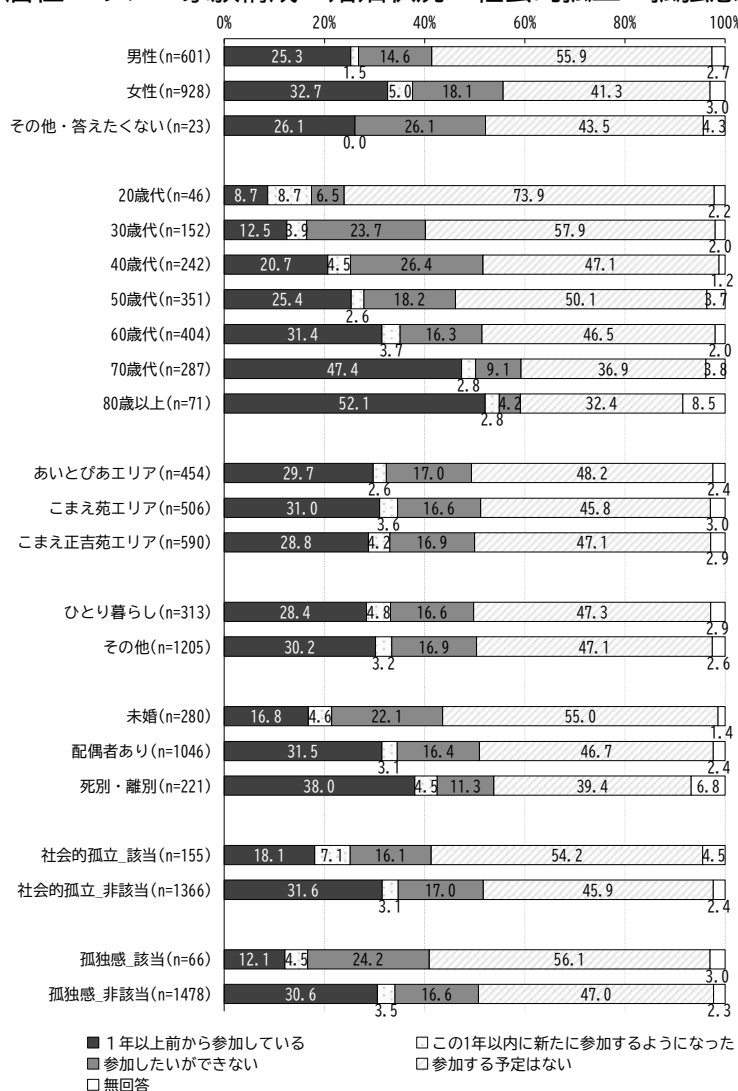
「参加する予定はない」が47.0%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が29.7%、「参加したいができない」が16.8%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が3.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「参加したいができない」が6.7ポイント少なく、「1年以上前から参加している」が4.9ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・クロス集計>

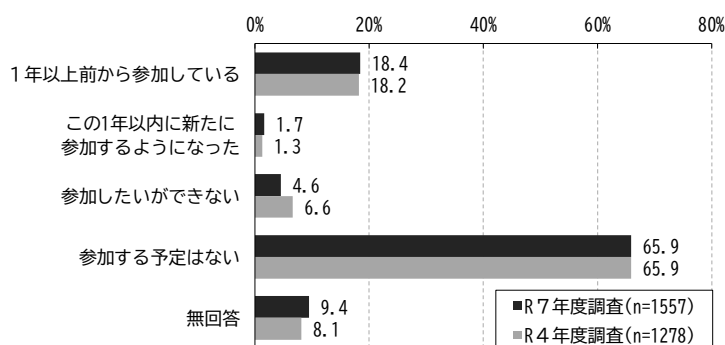


⑥職場内の会やグループ

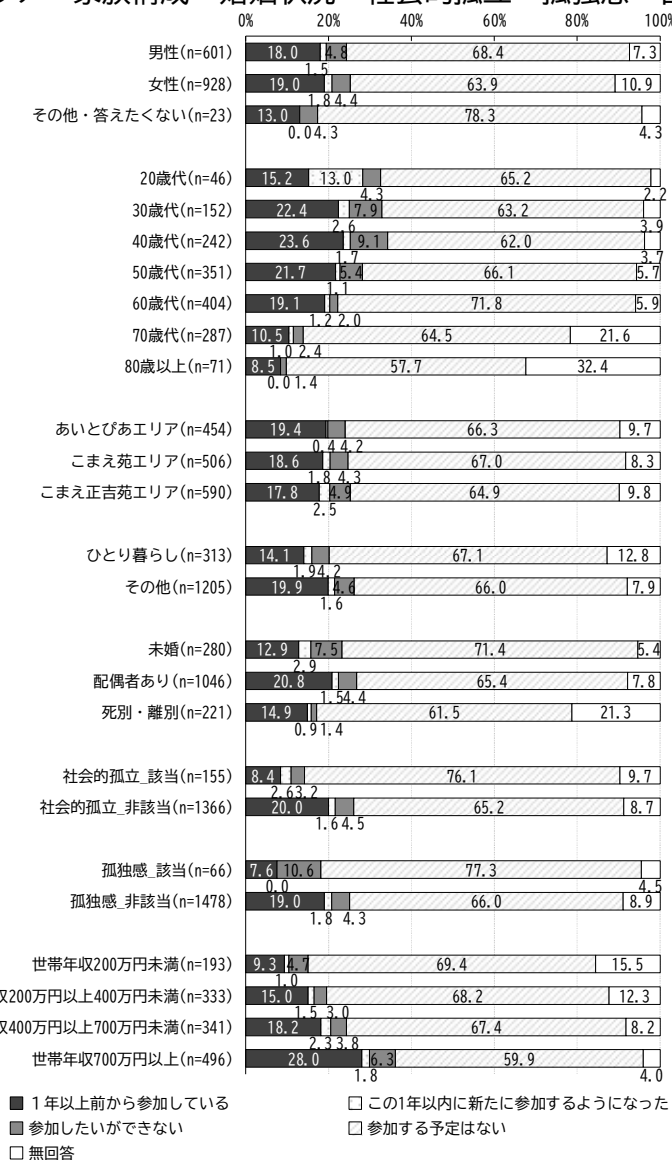
「参加する予定はない」が65.9%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が18.4%、「参加したいができない」が4.6%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が低くなる傾向がみられます。また、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

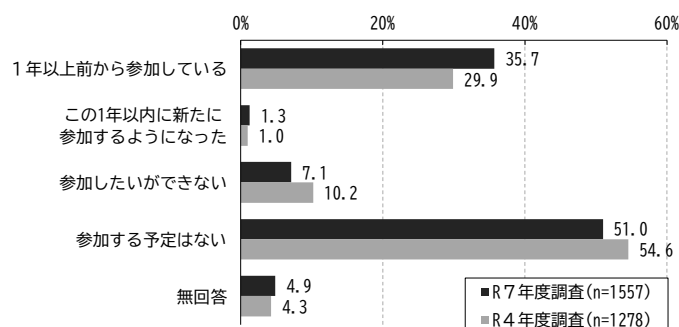


⑦同じ学校出身者の会やグループ

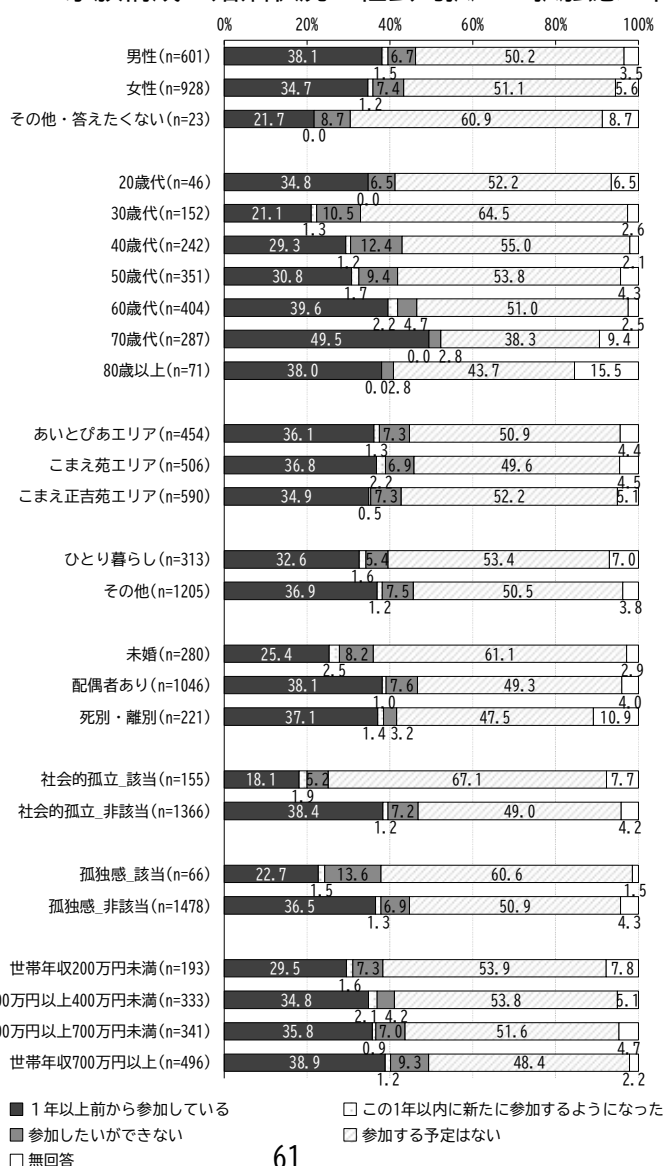
「参加する予定はない」が51.0%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が35.7%、「参加したいができない」が7.1%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「参加したいができない」が6.7ポイント少なく、「1年以上前から参加している」が5.8ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

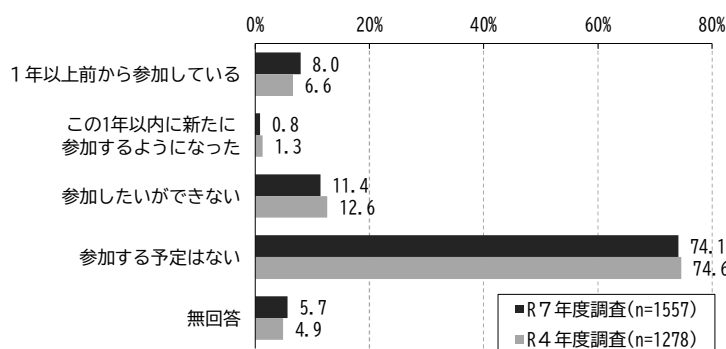


⑧地域のサロンや居場所

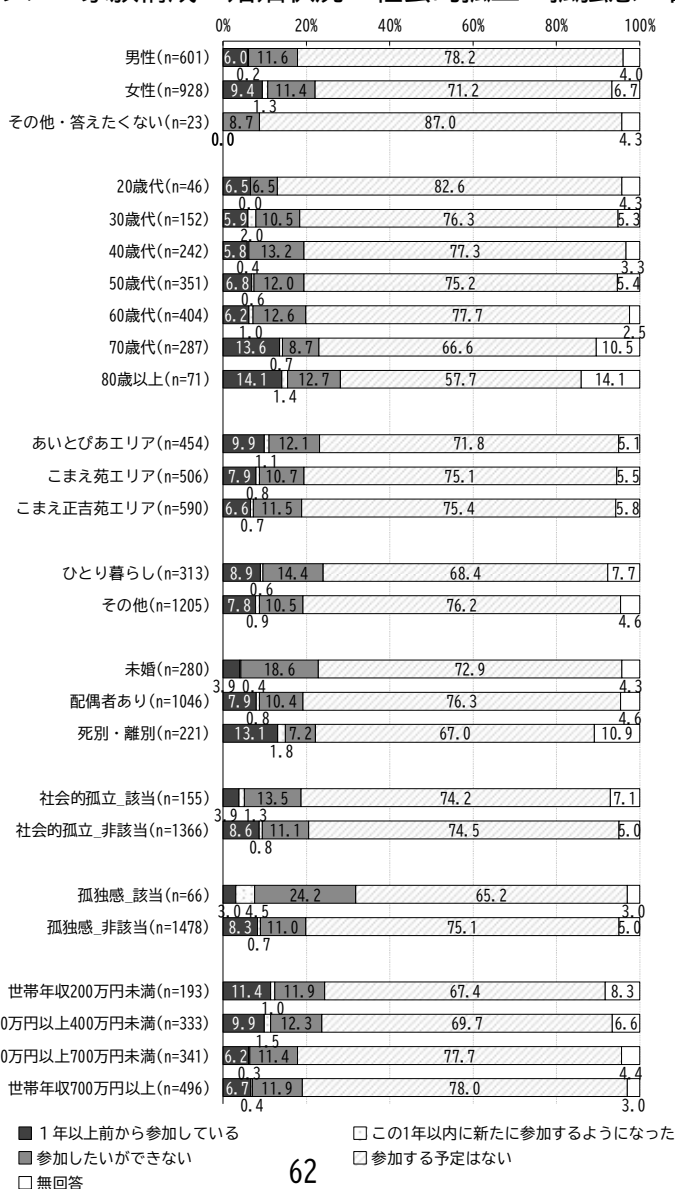
「参加する予定はない」が74.1%と最も多く、次いで「参加したいができない」が11.4%、「1年以上前から参加している」が8.0%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が0.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、割合は小さいですが、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当で「参加したいができない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

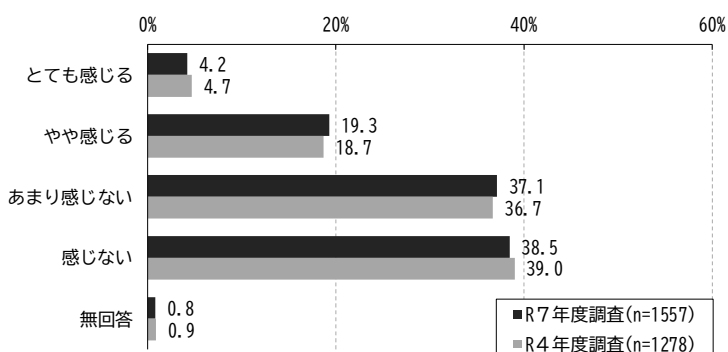


問 20 さみしい気持ち（孤独感）を日ごろ、感じますか。

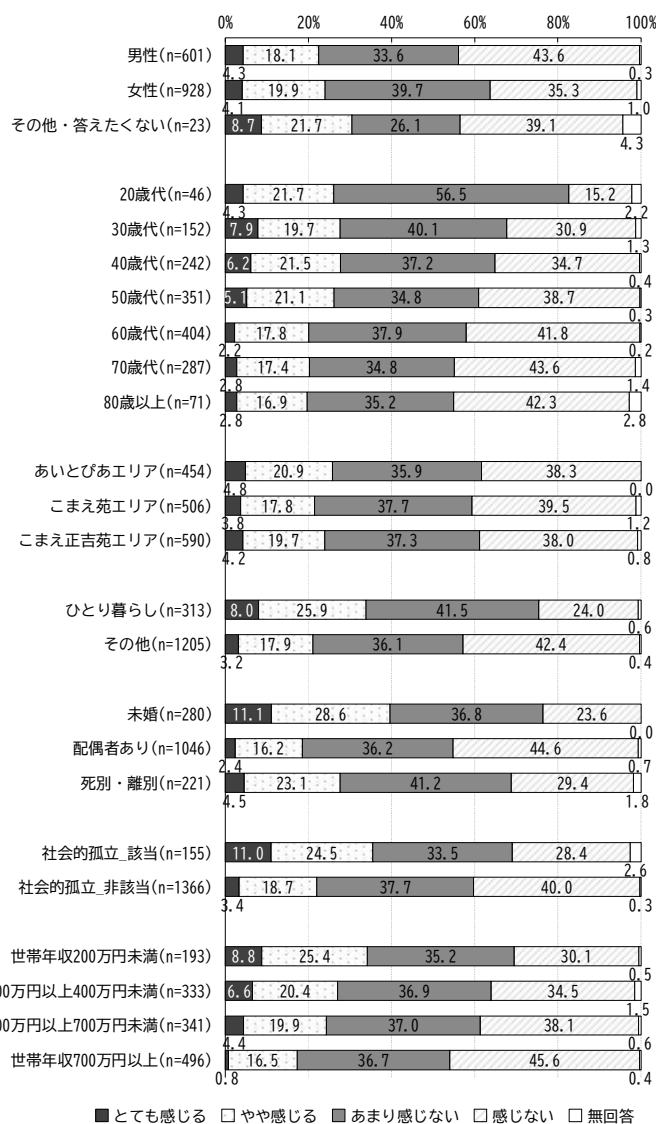
「感じない」が38.5%と最も多く、次いで「あまり感じない」が37.1%、「やや感じる」が19.3%、「とても感じる」が4.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、50歳代以下の年齢層で、「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計）のやや割合が高く、また、家族構成別のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収200万円未満で「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計）の割合が高くなっています。



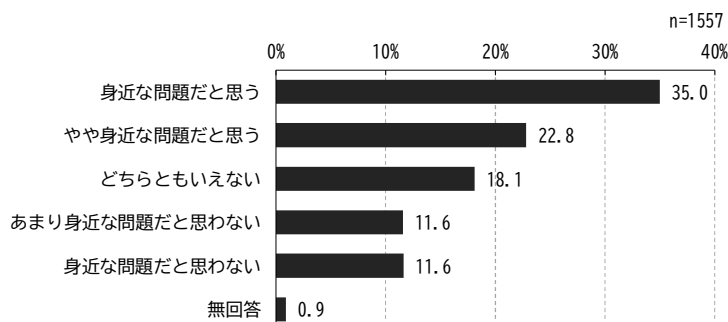
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・世帯年収別クロス集計>



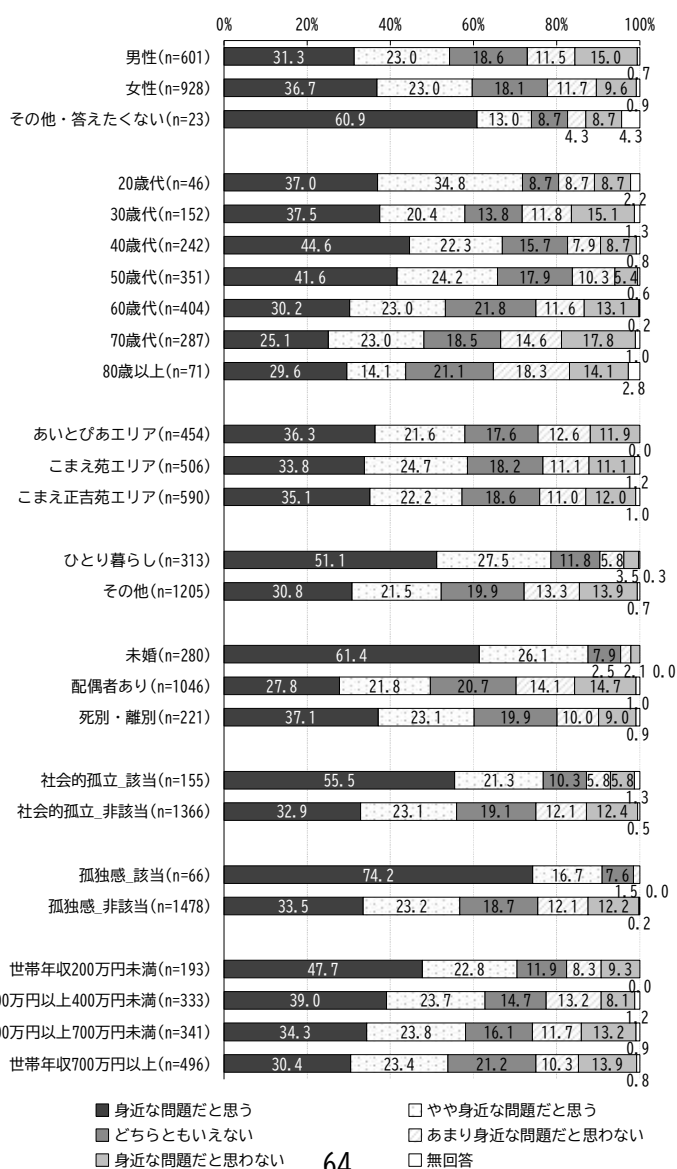
問 21 孤立死（誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死）について、身近な問題だと感じますか。

「身近な問題だと思う」が 35.0%と最も多く、次いで「やや身近な問題だと思う」が 22.8%、「どちらともいえない」が 18.1%、「あまり身近な問題だと思わない」及び「身近な問題だと思わない」が 11.6%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 20 歳代、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円未満で「身近な問題だと思う」（「身近な問題だと思う」と「やや身近な問題だと思う」の合計）の割合が高くなっています。



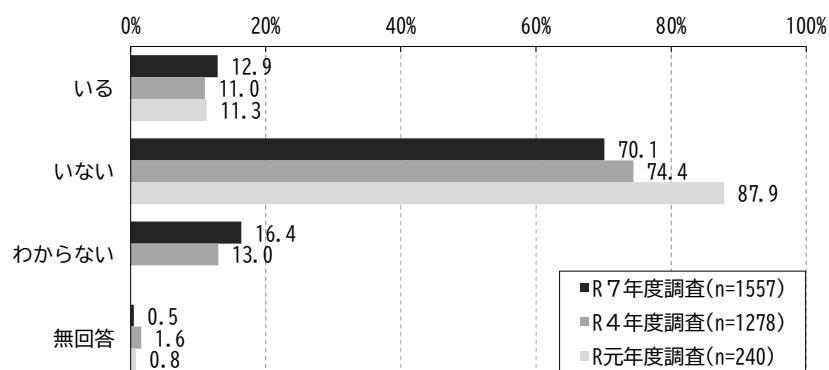
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>



3 外出（ひきこもり）の状況について

問 22 あなたやあなたの周りの方に「ひきこもり」の状態にある方（仕事や学校等に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方）はいますか。

「いない」が70.1%と最も多く、次いで「わからない」が16.4%、「いる」が12.9%となっています。前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

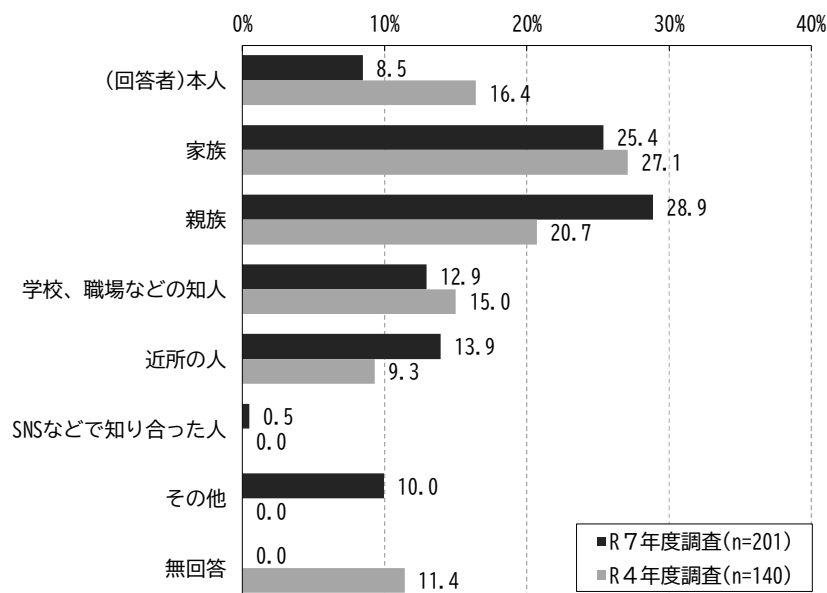


【問 22 で「1. いる」と回答した方】

問 23 その方とあなたの関係を教えてください。

「親族」が28.9%と最も多く、次いで「家族」が25.4%、「近所の人」が13.9%、「学校、職場などの知人」が12.9%、「その他」が10.0%となっています。

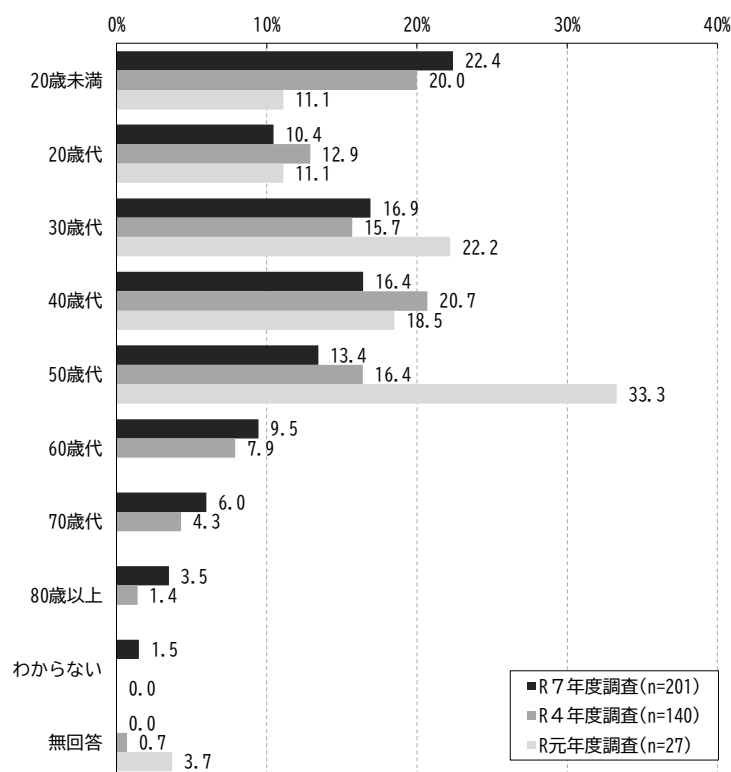
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「(回答者)本人」が7.9ポイント少なく、「親族」が8.2ポイント、「近所の人」が4.6ポイント多くなっています。



問 24 その方の年齢を教えてください。

「20 歳未満」が 22.4%と最も多く、次いで「30 歳代」が 16.9%、「40 歳代」が 16.4%、「50 歳代」が 13.4%、「20 歳代」が 10.4%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「40 歳代」が 4.3 ポイント少なくなっています。

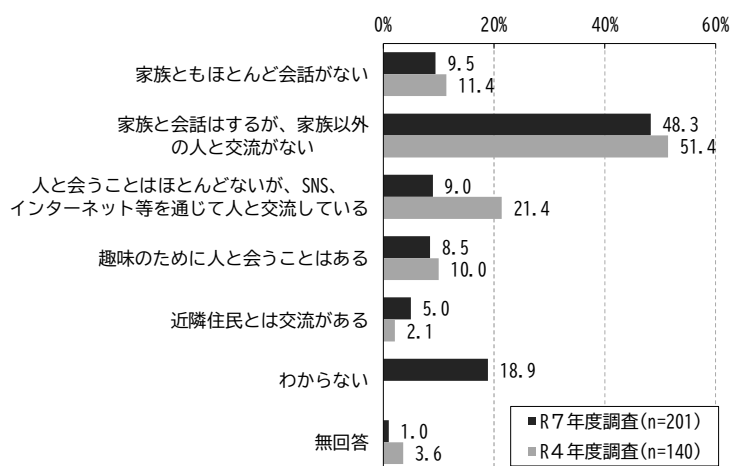


※令和元年は「50歳以上」

問 25 その方の交流の状況について、お答えください。

「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」が 48.3%と最も多く、次いで「わからない」が 18.9%、「家族ともほとんど会話がなない」が 9.5%、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している」が 9.0%、「趣味のために人と会うことはある」が 8.5%となっています。

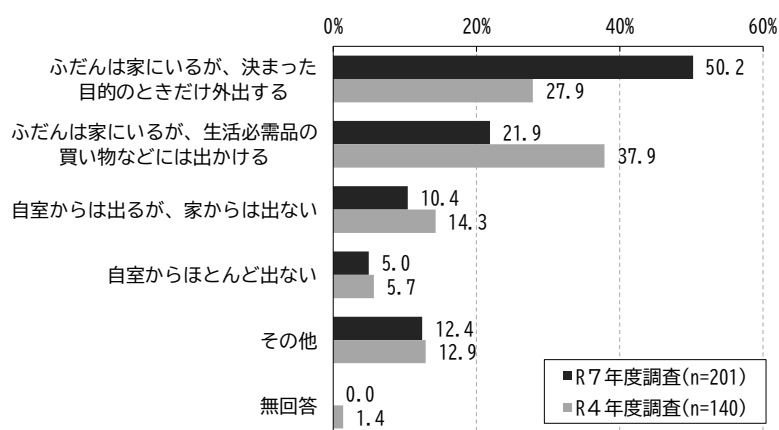
前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している」が 12.4 ポイント少なくなっています。



問 26 その方はふだんどれくらい外出しますか。

「ふだんは家にいるが、決まった目的のときだけ外出する」が 50.2%と最も多く、次いで「ふだんは家にいるが、生活必需品の買い物などには出かける」が 21.9%、「その他」が 12.4%、「自室からは出るが、家からは出ない」が 10.4%、「自室からほとんど出ない」が 5.0%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「ふだんは家にいるが、決まった目的のときだけ外出する」が 22.3 ポイント多く、「ふだんは家にいるが、生活必需品の買い物などには出かける」が 16.0 ポイント少なくなっています。

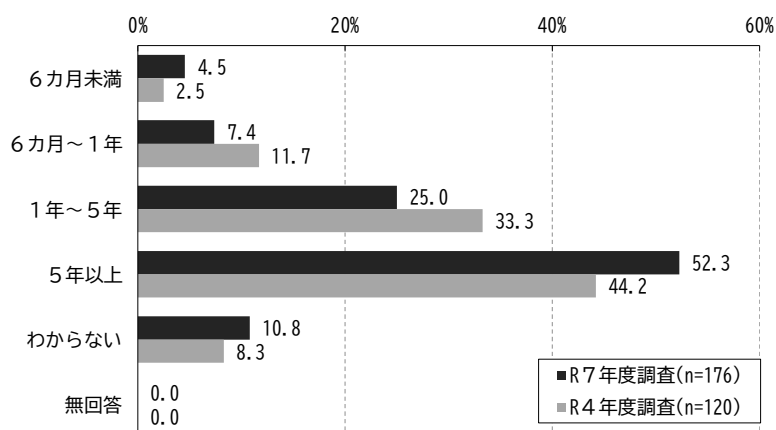


【問 26 で「1.」～「4.」と回答した方】

問 27 その方がその状態になってどのくらい続いていますか。

「5 年以上」が 52.3%と最も多く、次いで「1 年～5 年」が 25.0%、「わからない」が 10.8%、「6 カ月～1 年」が 7.4%、「6 カ月未満」が 4.5%となっています。

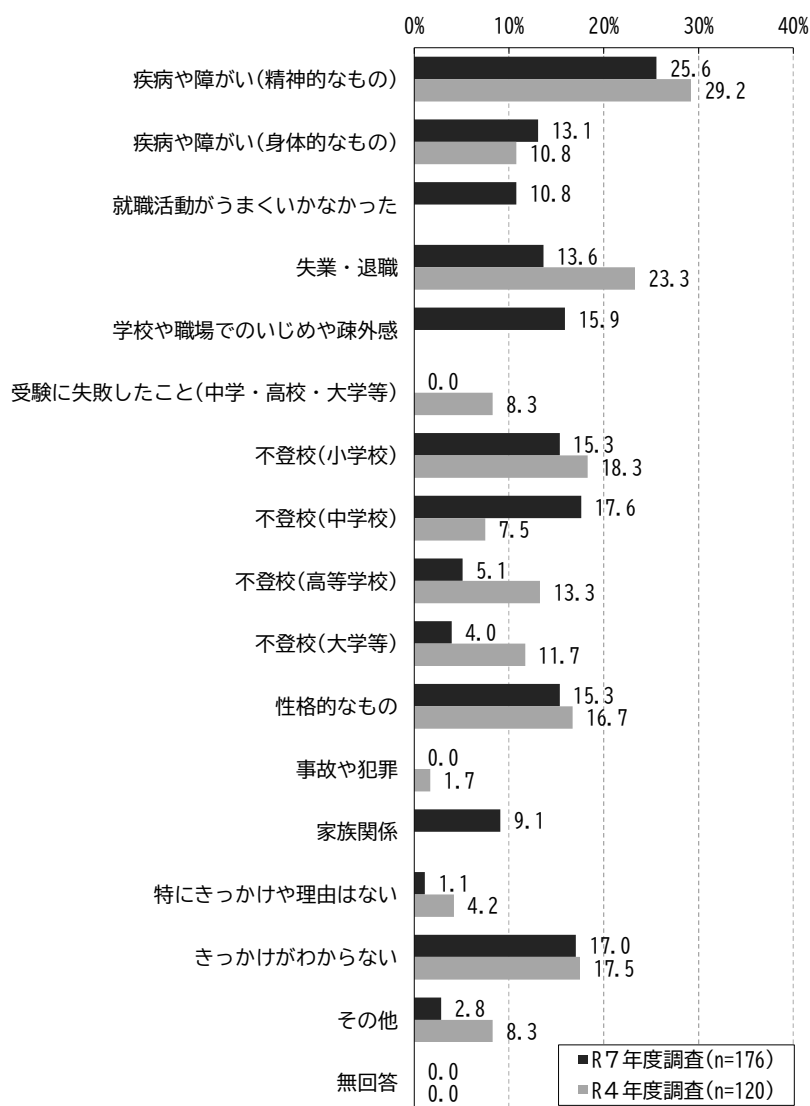
前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「6 カ月～1 年」が 4.3 ポイント、「1 年～5 年」が 8.3 ポイント少なく、「5 年以上」が 8.1 ポイント多くなっています。



問 28 その方がその状態になったきっかけは何ですか。(複数回答)

「疾病や障がい(精神的なもの)」が25.6%と最も多く、次いで「不登校(中学校)」が17.6%、「きっかけがわからない」が17.0%、「学校や職場でのいじめや疎外感」が15.9%、「不登校(小学校)」及び「性格的なもの」が15.3%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「失業・退職」が9.7ポイント、「不登校(高等学校)」が8.2ポイント、「不登校(大学等)」が7.7ポイント少なく、「不登校(中学校)」が10.1ポイント多くなっています。



4 避難行動要支援者支援について

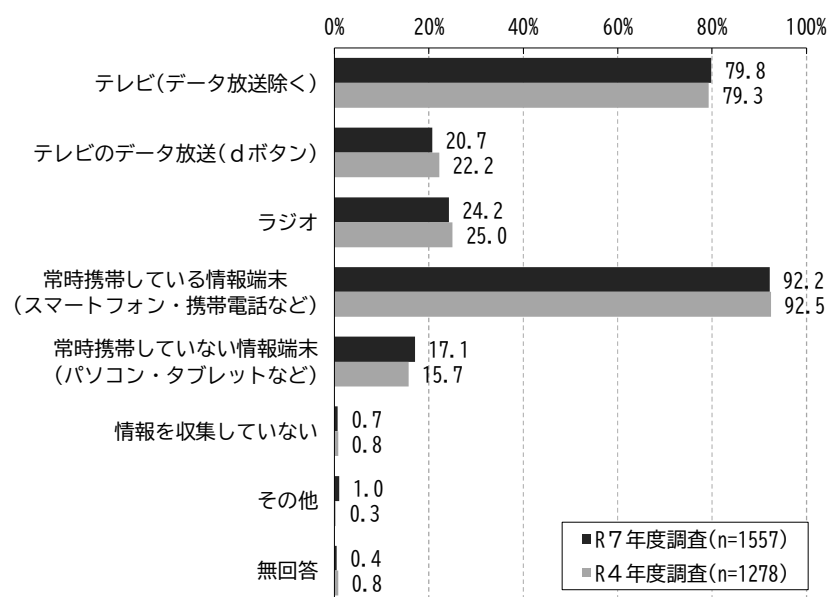
問 29 地震が発生したときや大雨が降っているときなど災害が発生するおそれがある場合、どのような手段で避難情報などを収集していますか。よく利用するツールをすべてお選びください。(複数回答)

「常時携帯している情報端末（スマートフォン・携帯電話など）」が 92.2%と最も多く、次いで「テレビ（データ放送除く）」が 79.8%、「ラジオ」が 24.2%、「テレビのデータ放送（dボタン）」が 20.7%、「常時携帯していない情報端末（パソコン・タブレットなど）」が 17.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「テレビ（データ放送除く）」の割合が高くなる傾向がみられます。また、家族構成別のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「テレビ（データ放送除く）」の割合が低くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「テレビ（データ放送除く）」、「常時携帯している情報端末（スマートフォン・携帯電話など）」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	テレビ (データ放 送除く)	テレビの データ放送 (dボタ ン)	ラジオ	常時携帯し ている情報 端末(スマ ートフォ ン・携帯電 話など)	常時携帯し ていない情 報端末(パ ソコン・タ ブレットな ど)	情報を収集 していない	その他	無回答
男性(n=601)	79.7	20.1	26.1	90.7	24.0	1.0	1.0	0.2
女性(n=928)	80.4	21.2	22.7	93.4	12.6	0.5	1.1	0.4
その他・答えたくない(n=23)	60.9	21.7	34.8	87.0	17.4	0.0	0.0	4.3
20歳代(n=46)	71.7	17.4	23.9	100.0	19.6	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=152)	68.4	15.1	18.4	92.8	9.9	0.7	0.7	2.0
40歳代(n=242)	77.7	17.8	26.9	95.0	20.2	0.4	1.2	0.4
50歳代(n=351)	78.3	26.2	20.2	94.3	17.4	0.9	1.1	0.0
60歳代(n=404)	81.4	22.5	25.0	92.3	17.8	0.7	1.5	0.0
70歳代(n=287)	86.8	21.3	26.8	88.5	16.4	0.7	0.3	0.7
80歳以上(n=71)	88.7	7.0	33.8	81.7	16.9	1.4	1.4	0.0
あいとびあエリア(n=454)	78.0	19.2	22.9	93.2	16.1	1.1	0.2	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	79.4	22.7	24.1	93.5	18.4	0.6	0.8	0.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	82.0	20.5	25.6	90.8	16.6	0.5	1.9	0.3
ひとり暮らし(n=313)	68.7	18.5	23.6	88.5	18.2	2.2	0.6	0.3
その他(n=1205)	82.7	21.4	24.6	93.5	17.0	0.3	1.2	0.3
未婚(n=280)	70.0	22.5	24.6	90.4	20.0	1.1	1.1	0.4
配偶者あり(n=1046)	83.5	21.0	24.4	94.1	17.0	0.3	1.2	0.2
死別・離別(n=221)	76.0	18.1	23.5	87.3	14.0	2.3	0.0	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	60.0	16.1	24.5	83.9	18.7	3.9	1.3	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	82.3	21.4	24.2	93.8	16.8	0.4	1.0	0.2
孤独感 該当(n=66)	66.7	13.6	18.2	83.3	9.1	3.0	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	80.7	21.2	24.6	93.0	17.5	0.6	1.1	0.1
世帯年収200万円未満(n=193)	74.1	15.5	24.4	88.1	17.1	1.6	0.5	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	78.4	18.3	29.4	87.1	18.0	0.9	1.2	0.6
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	79.2	19.4	25.8	94.4	16.4	0.6	0.9	0.6
世帯年収700万円以上(n=496)	83.3	24.4	21.6	96.0	16.5	0.4	1.2	0.0

問 30 あなたは、災害が発生又は発生する恐れがある時に、ご自身の安否確認や避難支援を行ってくれる人はいますか。

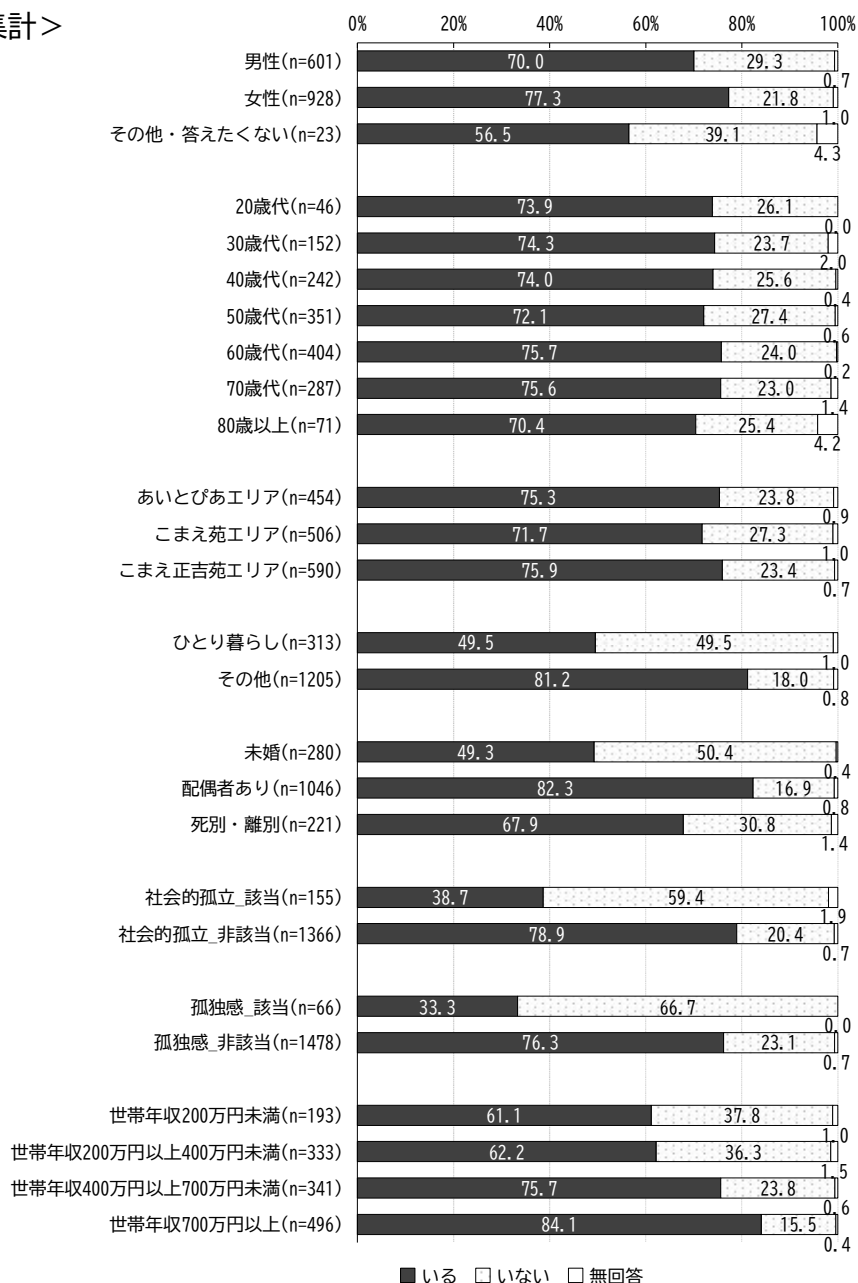
「いる」が74.1%、「いない」が24.9%となっています。

クロス集計の結果をみると、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「いる」の割合が低くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「いる」の割合が高くなっています



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

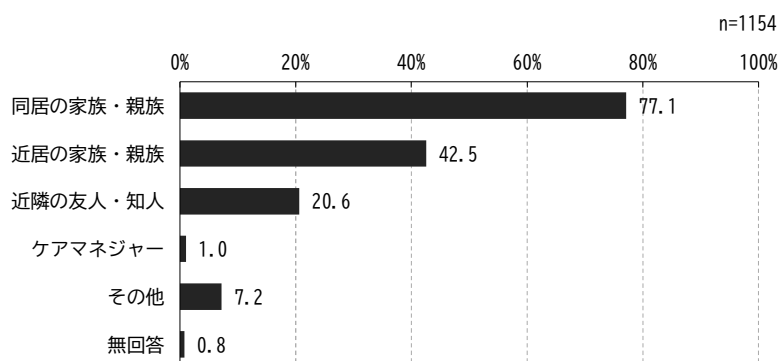


【問 30 で「1. いる」と回答した方】

問 30-1 それは、誰ですか。(複数回答)

「同居の家族・親族」が 77.1%と最も多く、次いで「近居の家族・親族」が 42.5%、「近隣の友人・知人」が 20.6%、「その他」が 7.2%、「ケアマネジャー」が 1.0%となっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、70 歳代、80 歳代で「同居の家族・親族」の割合が低くなっています。家族構成別では、ひとり暮らしで「同居の家族・親族」の割合が低く、「近隣の友人・知人」の割合が高くなっています。また、社会的孤立別の該当で「同居の家族・親族」の割合が低くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「同居の家族・親族」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

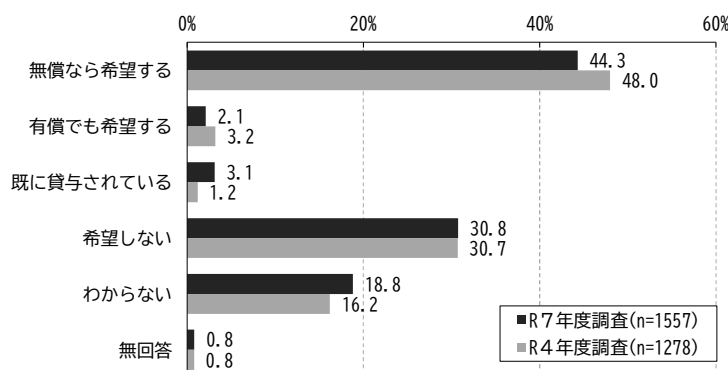
	同居の家族・親族	近居の家族・親族	近隣の友人・知人	ケアマネジャー	その他	無回答
男性(n=421)	78.9	37.8	18.3	0.7	6.7	0.5
女性(n=717)	76.4	44.9	22.3	1.0	7.7	1.0
その他・答えたくない(n=13)	53.8	61.5	7.7	15.4	0.0	0.0
20歳代(n=34)	76.5	41.2	26.5	0.0	2.9	0.0
30歳代(n=113)	82.3	46.0	18.6	0.0	12.4	0.9
40歳代(n=179)	88.3	41.9	22.3	1.1	5.0	0.6
50歳代(n=253)	82.2	30.4	16.2	1.6	11.9	1.2
60歳代(n=306)	77.1	41.2	16.7	0.0	6.5	0.7
70歳代(n=217)	65.4	54.4	29.0	1.4	3.7	0.5
80歳以上(n=50)	50.0	56.0	26.0	6.0	2.0	2.0
あいとびあエリア(n=342)	70.8	43.6	24.0	1.2	9.9	0.9
こまえ苑エリア(n=363)	80.2	42.1	19.3	0.6	6.1	0.8
こまえ正吉苑エリア(n=448)	79.5	42.0	19.2	1.3	6.0	0.7
ひとり暮らし(n=155)	7.7	62.6	37.4	3.2	18.7	0.0
その他(n=978)	88.7	39.0	18.0	0.7	5.4	0.9
未婚(n=138)	48.6	39.9	26.8	1.4	20.3	0.0
配偶者あり(n=861)	88.9	39.6	17.3	0.5	5.2	1.0
死別・離別(n=150)	36.0	62.0	34.7	4.0	6.7	0.0
社会的孤立 該当(n=60)	20.0	68.3	21.7	1.7	18.3	0.0
社会的孤立 非該当(n=1078)	80.5	41.3	20.7	1.0	6.6	0.6
孤独感 該当(n=22)	59.1	45.5	9.1	13.6	9.1	0.0
孤独感 非該当(n=1127)	77.6	42.4	20.9	0.8	7.2	0.7
世帯年収200万円未満(n=118)	47.5	53.4	28.0	4.2	6.8	0.8
世帯年収200万円以上400万円未満(n=207)	65.7	45.4	26.1	0.5	6.3	1.4
世帯年収400万円以上700万円未満(n=258)	79.5	47.3	18.6	1.2	7.4	0.4
世帯年収700万円以上(n=417)	87.5	35.0	18.2	0.5	8.4	1.0

問 31 市で自動起動機能付き防災ラジオを個別避難計画を策定された避難行動要支援者に無償貸与していますが、あなたは防災ラジオの貸与を希望しますか。

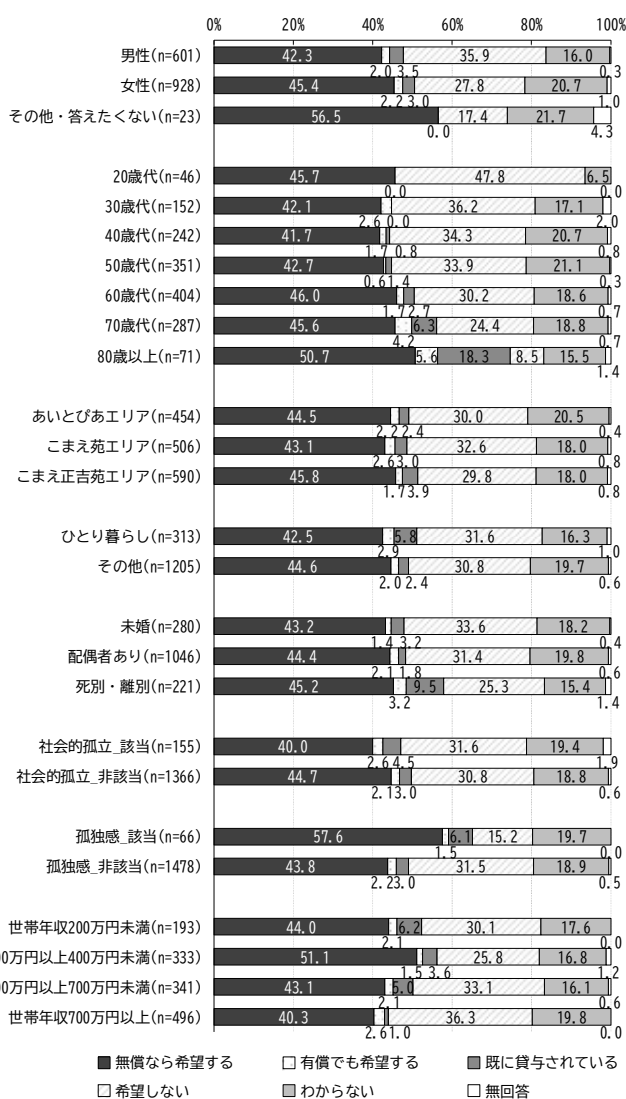
「無償なら希望する」が 44.3%と最も多く、次いで「希望しない」が 30.8%、「わからない」が 18.8%、「既に貸与されている」が 3.1%、「有償でも希望する」が 2.1%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「無償なら希望する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円以上 400 万円未満で「無償なら希望する」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

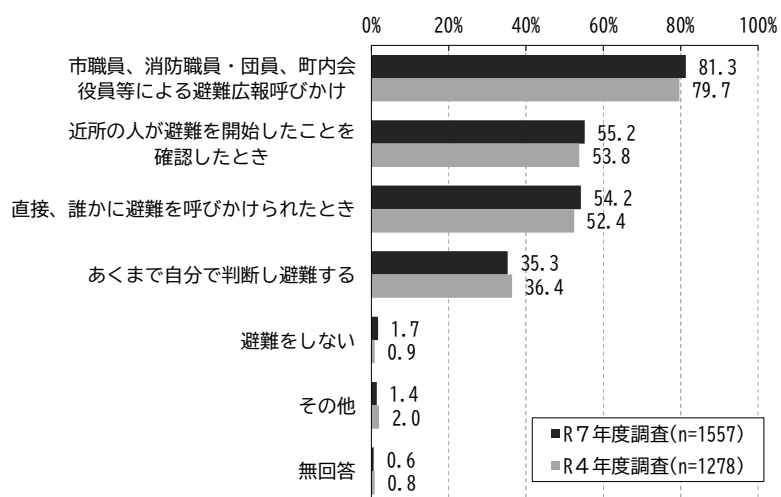


問 32 あなたは下記の呼びかけ等により、避難を開始しますか。(複数回答)

「市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ」が81.3%と最も多く、次いで「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」が55.2%、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」が54.2%、「あくまで自分で判断し避難する」が35.3%、「避難をしない」が1.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」の割合がやや低くなっています。

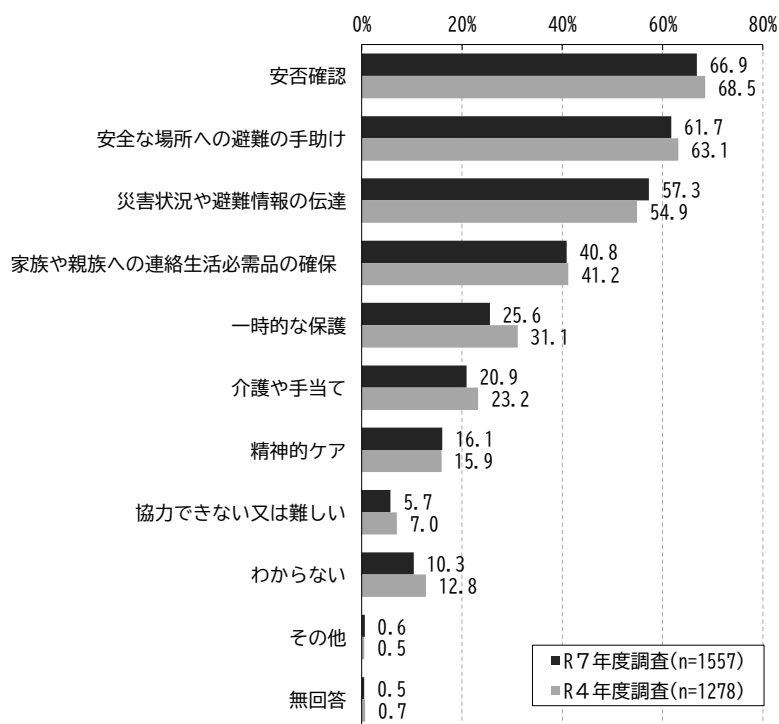


<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ	近所の人が避難を開始したことを確認したとき	直接、誰かに避難を呼びかけられたとき	あくまで自分で判断し避難する	避難をしない	その他	無回答
男性(n=601)	80.4	47.3	49.8	41.1	1.7	0.3	0.5
女性(n=928)	82.9	60.6	57.4	31.5	1.6	2.0	0.5
その他・答えたくない(n=23)	43.5	43.5	47.8	43.5	8.7	4.3	4.3
20歳代(n=46)	80.4	67.4	67.4	43.5	2.2	0.0	0.0
30歳代(n=152)	82.9	61.2	59.2	31.6	0.7	0.0	2.0
40歳代(n=242)	81.0	60.7	60.3	38.4	0.8	2.9	0.4
50歳代(n=351)	84.6	55.3	59.0	37.9	2.3	2.0	0.3
60歳代(n=404)	80.4	51.0	46.8	35.6	1.5	1.7	0.0
70歳代(n=287)	78.0	51.9	50.2	32.4	2.1	0.3	1.4
80歳以上(n=71)	83.1	53.5	52.1	25.4	2.8	0.0	0.0
あいとぴあエリア(n=454)	80.2	54.2	55.7	35.9	1.3	1.3	0.2
こまえ苑エリア(n=506)	80.6	52.4	52.4	37.5	1.8	1.2	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	83.1	58.8	55.3	33.1	2.0	1.7	0.3
ひとり暮らし(n=313)	78.3	50.2	54.6	34.5	2.2	2.2	0.0
その他(n=1205)	82.2	56.5	54.1	35.9	1.5	1.2	0.7
未婚(n=280)	77.9	50.7	55.4	38.9	2.9	1.8	0.4
配偶者あり(n=1046)	83.1	58.6	55.3	35.2	1.1	1.3	0.5
死別・離別(n=221)	77.8	44.3	48.4	31.7	3.2	1.4	0.9
社会的孤立 該当(n=155)	74.8	40.6	47.7	36.1	1.3	2.6	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	82.4	57.1	55.3	35.4	1.6	1.2	0.4
孤独感 該当(n=66)	80.3	45.5	48.5	30.3	3.0	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	81.7	55.8	54.6	35.7	1.7	1.4	0.3
世帯年収200万円未満(n=193)	72.0	50.8	47.7	36.3	4.7	2.6	0.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	82.6	50.2	48.6	34.2	1.2	0.9	0.6
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	76.8	54.3	52.5	35.5	2.3	1.8	0.6
世帯年収700万円以上(n=496)	86.7	61.3	60.1	36.7	0.8	1.2	0.0

問 33 大地震などの災害が起こったときに、あなたは近隣に住む家族以外の避難行動要支援者のためにどのような助け合いや協力ができますか。(複数回答)

「安否確認」が 66.9%と最も多く、次いで「安全な場所への避難の手助け」が 61.7%、「災害状況や避難情報の伝達」が 57.3%、「家族や親族への連絡生活必需品の確保」が 40.8%、「一時的な保護」が 25.6%となっています。前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「一時的な保護」が 5.5 ポイント少なくなっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、20 歳代で「精神的ケア」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	安否確認	安全な場所への避難の手助け	災害状況や避難情報の伝達	家族や親族への連絡生活必需品の確保	一時的な保護	介護や手当て	精神的ケア	協力できない又は難しい	わからない	その他	無回答
男性(n=601)	68.2	64.6	56.9	41.9	27.5	20.6	13.5	5.8	10.0	0.7	0.3
女性(n=928)	66.6	60.5	58.1	40.6	24.8	21.2	17.9	5.6	10.2	0.5	0.4
その他・答えたくない(n=23)	52.2	47.8	43.5	26.1	8.7	17.4	8.7	8.7	17.4	0.0	4.3
20歳代(n=46)	58.7	60.9	54.3	41.3	30.4	21.7	32.6	4.3	10.9	0.0	0.0
30歳代(n=152)	61.8	59.2	55.3	38.8	28.3	15.1	17.1	11.8	11.2	0.7	2.0
40歳代(n=242)	67.4	62.8	55.8	38.8	25.2	19.4	14.5	7.0	11.2	0.8	0.4
50歳代(n=351)	67.5	67.5	61.0	41.9	29.1	24.2	16.5	5.7	9.7	0.3	0.6
60歳代(n=404)	68.6	65.1	59.9	37.4	23.3	21.5	16.8	3.5	8.9	0.5	0.0
70歳代(n=287)	69.0	57.8	55.7	43.2	24.7	23.0	14.3	4.2	10.5	0.3	0.3
80歳以上(n=71)	63.4	33.8	43.7	57.7	16.9	9.9	8.5	8.5	14.1	2.8	0.0
あいとびあエリア(n=454)	66.7	62.8	55.1	45.2	29.3	23.3	19.8	7.3	8.4	0.7	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	62.3	58.1	54.0	36.6	23.7	19.6	14.6	6.5	12.6	0.4	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	71.4	64.7	62.2	41.7	24.4	20.5	14.6	3.9	9.7	0.7	0.2
ひとり暮らし(n=313)	55.0	53.4	46.0	32.6	18.5	18.8	15.3	8.9	13.4	1.6	0.0
その他(n=1205)	70.7	64.5	60.7	43.5	27.6	21.7	16.3	4.6	9.3	0.3	0.5
未婚(n=280)	52.9	58.6	50.0	29.3	16.1	19.6	16.4	8.9	15.4	1.1	0.7
配偶者あり(n=1046)	72.2	65.0	62.0	44.5	28.9	21.3	15.8	4.5	8.6	0.4	0.3
死別・離別(n=221)	60.6	51.6	45.7	39.4	22.2	20.8	17.2	7.7	11.3	0.9	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	47.7	52.3	43.2	24.5	17.4	19.4	9.0	10.3	17.4	1.9	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	69.9	63.4	59.4	43.3	26.8	21.2	17.0	4.8	9.2	0.4	0.3
孤独感 該当(n=66)	57.6	50.0	47.0	30.3	19.7	24.2	13.6	13.6	9.1	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	67.6	62.6	57.9	41.5	25.9	20.8	16.2	5.4	10.5	0.6	0.2
世帯年収200万円未満(n=193)	59.6	50.3	45.6	36.8	15.5	16.1	14.5	9.8	13.0	1.6	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	66.7	57.7	54.7	45.3	21.6	21.3	14.4	6.0	9.3	0.3	0.3
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	61.9	62.2	53.4	38.1	25.2	24.6	17.0	6.2	11.1	0.6	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	75.2	72.2	68.1	43.5	33.5	21.2	17.3	3.0	7.3	0.4	0.0

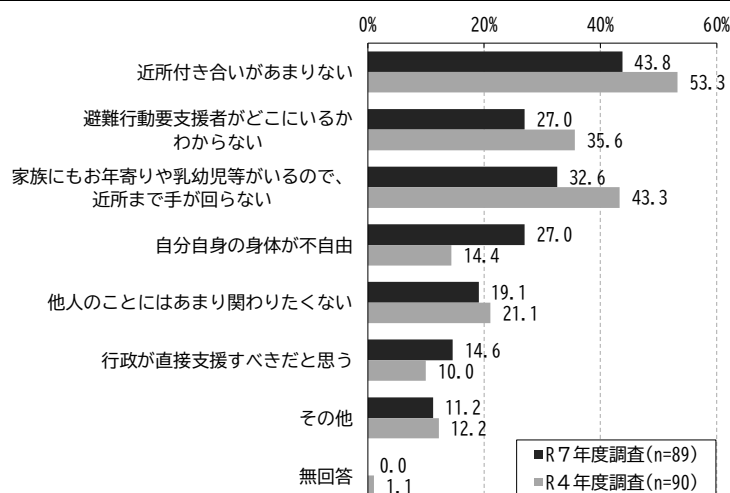
【問 33 で「8. 協力できない又は難しい」と回答した方】

問 33-1 協力できない理由について、次のどれに該当しますか。(複数回答)

「近所付き合いがあまりない」が 43.8%と最も多く、次いで「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない」が 32.6%、「避難行動要支援者がどこにいるかわからない」及び「自分自身の身体が不自由」が 27.0%、「他人のことにはあまり関わりたくない」が 19.1%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「自分自身の身体が不自由」が 12.6 ポイント多く、「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない」が 10.7 ポイント、「近所付き合いがあまりない」が 9.5 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 50 歳代、居住エリア別のこまえ苑エリア、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当で、「近所付き合いがあまりない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

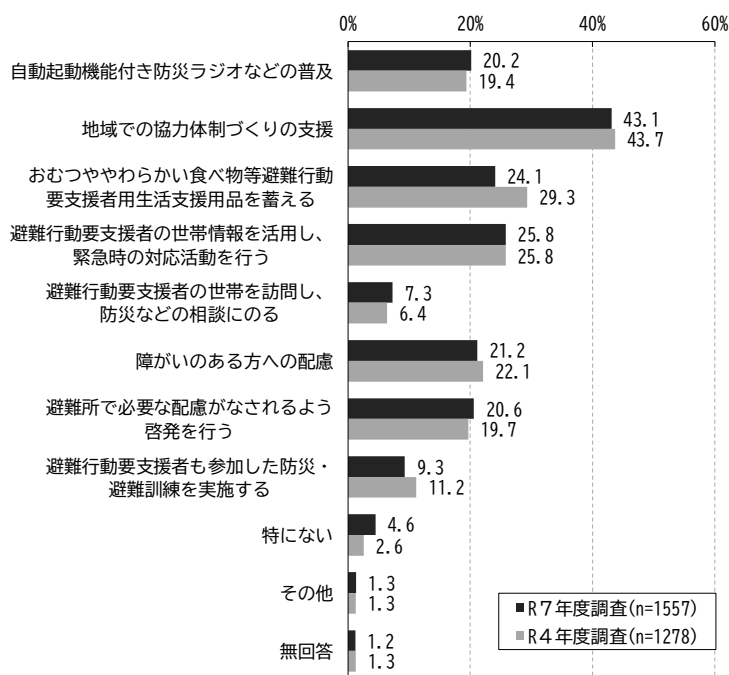
	近所付き合いがあまりない	避難行動要支援者がどこにいるかわからない	家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない	自分自身の身体が不自由	他人のことにはあまり関わりたくない	行政が直接支援すべきだと思う	その他	無回答
男性(n=35)	45.7	42.9	25.7	22.9	28.6	25.7	2.9	0.0
女性(n=52)	42.3	15.4	38.5	28.8	11.5	7.7	17.3	0.0
その他・答えたくない(n=2)	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=2)	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0
30歳代(n=18)	50.0	22.2	61.1	16.7	16.7	11.1	0.0	0.0
40歳代(n=17)	35.3	29.4	47.1	11.8	17.6	5.9	11.8	0.0
50歳代(n=20)	55.0	40.0	20.0	30.0	20.0	15.0	15.0	0.0
60歳代(n=14)	42.9	21.4	28.6	21.4	14.3	7.1	28.6	0.0
70歳代(n=12)	41.7	25.0	16.7	41.7	25.0	33.3	0.0	0.0
80歳以上(n=6)	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	16.7	0.0
あいとびあエリア(n=33)	42.4	27.3	27.3	24.2	12.1	18.2	15.2	0.0
こまえ苑エリア(n=33)	51.5	27.3	36.4	24.2	21.2	15.2	6.1	0.0
こまえ正吉苑エリア(n=23)	34.8	26.1	34.8	34.8	26.1	8.7	13.0	0.0
ひとり暮らし(n=28)	53.6	32.1	0.0	42.9	17.9	14.3	17.9	0.0
その他(n=56)	39.3	25.0	48.2	19.6	21.4	12.5	8.9	0.0
未婚(n=25)	64.0	44.0	4.0	36.0	12.0	20.0	12.0	0.0
配偶者あり(n=47)	38.3	21.3	51.1	14.9	21.3	12.8	10.6	0.0
死別・離別(n=17)	29.4	17.6	23.5	47.1	23.5	11.8	11.8	0.0
社会的孤立 該当(n=16)	43.8	18.8	6.3	37.5	0.0	18.8	25.0	0.0
社会的孤立 非該当(n=66)	43.9	30.3	39.4	25.8	24.2	10.6	7.6	0.0
孤独感 該当(n=9)	66.7	33.3	22.2	33.3	11.1	33.3	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=80)	41.3	26.3	33.8	26.3	20.0	12.5	12.5	0.0
世帯年収200万円未満(n=19)	42.1	21.1	31.6	47.4	15.8	10.5	21.1	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=20)	35.0	30.0	5.0	40.0	10.0	20.0	10.0	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=21)	57.1	28.6	47.6	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0
世帯年収700万円以上(n=15)	40.0	33.3	40.0	0.0	26.7	0.0	20.0	0.0

問 34 避難行動要支援者の対策として、あなたは行政に何を期待しますか。(複数回答)

「地域での協力体制づくりの支援」が43.1%と最も多く、次いで「避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う」が25.8%、「おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える」が24.1%、「障がいのある方への配慮」が21.2%、「避難所で必要な配慮がなされるよう啓発を行う」が20.6%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別の20歳代、30歳代で「おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

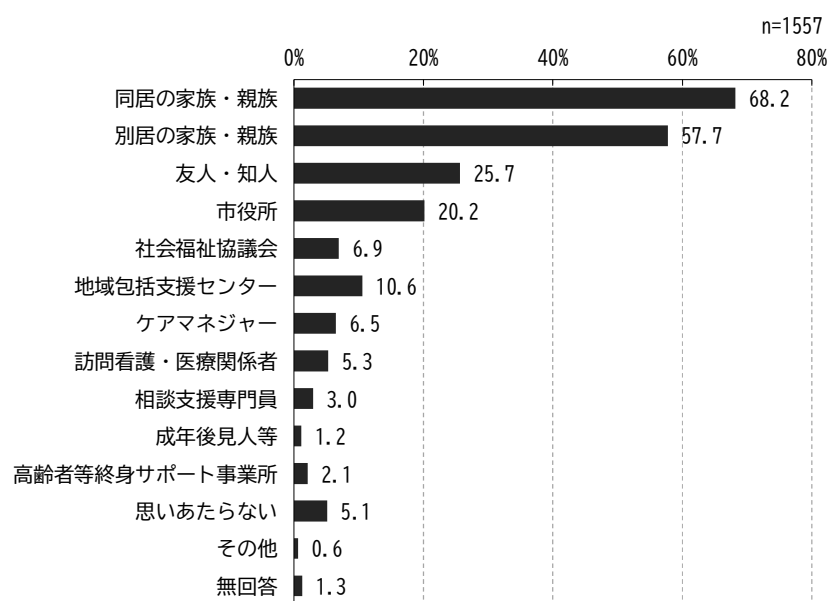
	自動起動機能付き防災ラジオなどの普及	地域での協力体制づくりの支援	おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える	避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う	避難行動要支援者の世帯を訪問し、防災などの相談にのる	障がいのある方への配慮	避難所で必要な配慮がなされるよう啓発を行う	避難行動要支援者も参加した防災・避難訓練を実施する	特にない	その他	無回答
男性(n=601)	20.6	44.4	23.5	24.5	9.0	20.0	18.0	7.5	6.3	0.3	1.3
女性(n=928)	19.7	42.7	24.2	26.5	6.3	22.3	22.4	10.7	3.2	1.8	1.0
その他・答えたくない(n=23)	21.7	26.1	34.8	34.8	4.3	13.0	17.4	4.3	13.0	8.7	4.3
20歳代(n=46)	4.3	32.6	34.8	23.9	15.2	17.4	21.7	19.6	6.5	0.0	4.3
30歳代(n=152)	12.5	34.9	46.1	19.1	4.6	13.8	29.6	13.8	5.9	0.0	2.0
40歳代(n=242)	18.6	43.4	22.3	28.9	8.3	19.4	24.0	9.5	3.3	1.7	0.4
50歳代(n=351)	17.7	45.0	23.6	27.4	8.0	23.9	19.9	9.1	2.8	3.1	0.9
60歳代(n=404)	21.5	42.8	20.8	27.2	6.4	24.3	21.8	8.2	3.7	1.2	0.2
70歳代(n=287)	27.9	45.3	19.5	23.7	7.3	21.6	12.5	8.7	7.0	0.3	2.1
80歳以上(n=71)	25.4	49.3	16.9	23.9	7.0	14.1	19.7	2.8	7.0	0.0	2.8
あいとびあエリア(n=454)	18.9	45.2	25.8	21.8	6.4	21.6	24.2	9.3	5.7	1.1	0.9
こまえ苑エリア(n=506)	20.8	38.5	22.5	27.5	8.1	20.8	21.5	10.1	3.6	2.2	1.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	20.8	45.6	24.2	27.5	7.5	21.5	17.1	8.6	4.6	0.7	1.0
ひとり暮らし(n=313)	19.2	40.3	20.1	23.0	5.8	21.4	24.6	10.2	7.7	2.6	0.6
その他(n=1205)	20.7	44.1	25.2	26.2	7.7	21.5	19.3	9.3	3.6	1.1	1.2
未婚(n=280)	15.4	37.5	22.9	26.4	9.3	21.4	25.7	8.6	7.9	2.1	1.1
配偶者あり(n=1046)	21.3	46.3	24.6	26.1	7.9	20.5	18.9	9.7	3.3	1.1	1.1
死別・離別(n=221)	21.3	36.2	24.4	23.1	1.8	23.5	23.1	8.6	6.3	1.8	0.9
社会的孤立 該当(n=155)	17.4	32.9	17.4	24.5	2.6	23.9	20.6	12.3	12.3	3.2	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	20.4	44.9	24.9	25.8	7.7	21.0	20.7	9.0	3.6	1.2	1.0
孤独感 該当(n=66)	19.7	34.8	28.8	19.7	7.6	30.3	27.3	7.6	3.0	4.5	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	20.3	43.7	24.0	26.3	7.3	20.8	20.4	9.5	4.7	1.2	0.8
世帯年収200万円未満(n=193)	18.1	33.7	20.2	24.9	7.8	28.0	18.7	8.3	8.3	2.6	2.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	24.9	41.1	21.3	22.8	9.6	21.0	21.0	6.9	4.8	0.9	0.6
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	20.2	42.8	28.2	23.2	5.6	23.2	19.1	10.9	5.3	0.3	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	16.9	49.6	23.2	29.2	7.5	18.1	20.4	10.3	3.0	2.2	0.6

5 単身高齢者等支援について

問 35 あなたに万一のことがあった場合に「頼れる」と思う人・事業所はどちらですか。
(複数回答)

「同居の家族・親族」が 68.2%と最も多く、次いで「別居の家族・親族」が 57.7%、「友人・知人」が 25.7%、「市役所」が 20.2%、「地域包括支援センター」が 10.6%となっています。

クロス集計の結果をみると、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「思いあたらない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

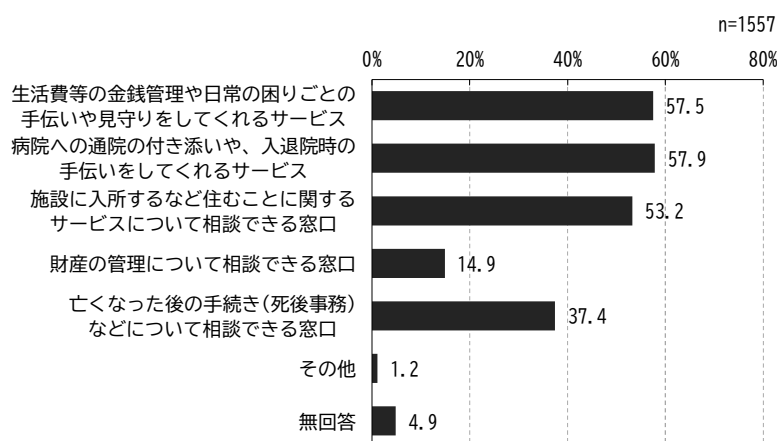
	同居の家 族・親族	別居の家 族・親族	友人・知人	市役所	社会福祉協 議会	地域包括支 援センター	ケアマネ ジャー
男性(n=601)	71.4	51.4	25.1	24.0	6.7	8.5	6.8
女性(n=928)	66.8	61.9	26.1	18.0	7.2	12.0	6.3
その他・答えたくない(n=23)	43.5	60.9	30.4	13.0	4.3	4.3	8.7
20歳代(n=46)	60.9	65.2	32.6	28.3	10.9	13.0	2.2
30歳代(n=152)	68.4	63.2	28.9	24.3	9.2	7.9	3.9
40歳代(n=242)	76.4	57.4	27.3	22.3	6.6	9.1	6.6
50歳代(n=351)	72.9	49.0	24.2	23.1	7.7	10.5	9.4
60歳代(n=404)	67.6	59.2	23.0	15.3	6.2	9.2	5.9
70歳代(n=287)	63.4	61.3	29.3	18.5	6.6	15.0	5.2
80歳以上(n=71)	45.1	64.8	18.3	19.7	1.4	9.9	8.5
あいとびあエリア(n=454)	64.1	58.6	26.2	20.7	7.9	10.8	6.4
こまえ苑エリア(n=506)	69.8	58.7	26.1	17.0	5.7	9.3	6.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	70.5	56.4	25.3	22.5	7.3	11.5	6.8
ひとり暮らし(n=313)	3.5	67.4	32.3	24.3	8.0	12.8	7.0
その他(n=1205)	85.6	55.5	24.1	19.1	6.8	10.2	6.5
未婚(n=280)	26.1	56.1	30.7	25.4	11.1	10.4	7.1
配偶者あり(n=1046)	88.8	56.6	23.5	19.3	6.4	10.8	6.3
死別・離別(n=221)	25.8	66.1	30.8	18.6	4.5	10.0	6.3
社会的孤立 該当(n=155)	12.9	51.6	20.6	23.9	6.5	13.5	6.5
社会的孤立 非該当(n=1366)	74.9	58.9	26.3	20.1	7.0	10.4	6.6
孤独感 該当(n=66)	31.8	37.9	18.2	22.7	12.1	12.1	10.6
孤独感 非該当(n=1478)	70.2	59.0	26.2	20.1	6.8	10.6	6.4
世帯年収200万円未満(n=193)	36.3	53.4	27.5	21.2	10.4	11.9	6.7
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	50.8	58.0	26.7	15.6	7.2	9.6	6.9
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	71.3	61.6	24.0	21.4	5.0	11.4	4.4
世帯年収700万円以上(n=496)	86.9	57.5	26.6	23.2	6.7	9.3	6.9

	訪問看護・ 医療関係者	相談支援専 門員	成年後見人 等	高齢者等終 身サポート 事業所	思いあたら ない	その他	無回答
男性(n=601)	4.3	2.3	1.2	1.8	5.8	0.3	0.7
女性(n=928)	5.9	3.2	1.2	2.2	4.5	0.9	1.5
その他・答えたくない(n=23)	0.0	4.3	0.0	0.0	13.0	0.0	4.3
20歳代(n=46)	10.9	2.2	0.0	4.3	6.5	2.2	0.0
30歳代(n=152)	5.3	2.6	1.3	1.3	6.6	0.7	2.6
40歳代(n=242)	4.5	2.5	2.5	1.2	5.4	0.4	1.2
50歳代(n=351)	7.1	4.8	1.1	1.1	6.6	0.3	0.3
60歳代(n=404)	5.0	2.2	0.5	2.5	5.7	1.0	1.0
70歳代(n=287)	2.4	2.1	1.0	2.1	2.1	0.3	1.7
80歳以上(n=71)	7.0	2.8	1.4	7.0	2.8	1.4	2.8
あいとびあエリア(n=454)	5.9	3.3	1.5	2.2	6.6	0.2	1.5
こまえ苑エリア(n=506)	4.9	1.8	0.8	2.0	5.5	0.6	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	4.9	3.6	1.2	2.0	3.4	1.0	1.0
ひとり暮らし(n=313)	5.1	5.4	1.9	5.1	13.4	1.3	0.3
その他(n=1205)	5.3	2.3	1.0	1.2	3.1	0.5	1.3
未婚(n=280)	6.1	4.6	2.1	2.5	13.6	1.8	1.1
配偶者あり(n=1046)	5.2	2.2	1.1	1.5	2.2	0.3	1.2
死別・離別(n=221)	4.5	4.1	0.5	4.1	7.7	0.9	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	5.8	6.5	2.6	6.5	20.6	1.3	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	5.2	2.5	1.0	1.5	3.3	0.6	1.2
孤独感 該当(n=66)	6.1	9.1	1.5	1.5	24.2	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	5.3	2.7	1.2	2.2	4.3	0.6	1.0
世帯年収200万円未満(n=193)	4.1	3.6	1.0	4.1	11.9	1.6	1.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	4.5	3.3	1.2	3.0	6.6	0.3	1.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	5.9	2.9	0.6	1.2	4.1	0.9	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	4.8	2.0	1.0	1.0	2.6	0.4	0.4

問 36 同居の家族・親族等で頼れる人がいない場合や、仮に今後、そうなられた場合に生活を続けていく上で、特にどのような支援があれば安心だと思いますか。(複数回答)

「病院への通院の付き添いや、入退院時の手伝いをしてくれるサービス」が 57.9%と最も多く、次いで「生活費等の金銭管理や日常の困りごとの手伝いや見守りをしてくれるサービス」が 57.5%、「施設に入所するなど住むことに関するサービスについて相談できる窓口」が 53.2%、「亡くなった後の手続き（死後事務）などについて相談できる窓口」が 37.4%、「財産の管理について相談できる窓口」が 14.9%となっています。

クロス集計の結果をみると、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当で「亡くなった後の手続き（死後事務）などについて相談できる窓口」の割合が高くなっています。

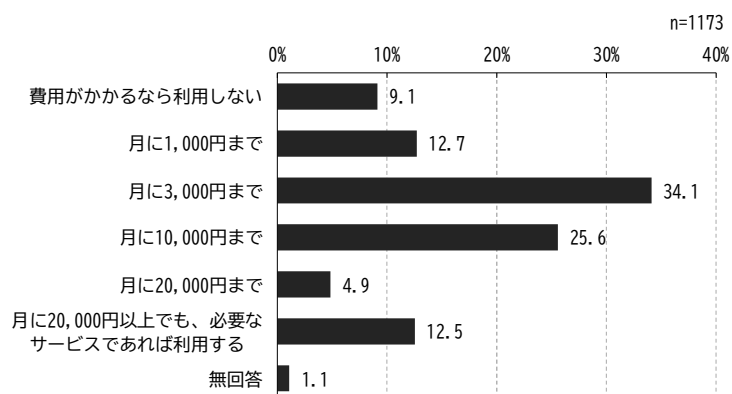


<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	生活費等の金銭管理や日常の困りごとの手伝いや見守りをしてくれるサービス	病院への通院の付き添いや、入退院時の手伝いをしてくれるサービス	施設に入所するなど住むことに関するサービスについて相談できる窓口	財産の管理について相談できる窓口	亡くなった後の手続き（死後事務）などについて相談できる窓口	その他	無回答
男性(n=601)	50.4	52.6	54.9	13.0	34.1	0.8	5.7
女性(n=928)	62.6	61.3	52.3	16.2	39.5	1.1	4.2
その他・答えたくない(n=23)	43.5	60.9	52.2	8.7	39.1	13.0	8.7
20歳代(n=46)	63.0	52.2	37.0	23.9	34.8	0.0	6.5
30歳代(n=152)	53.3	57.2	50.7	18.4	41.4	2.6	5.3
40歳代(n=242)	57.4	58.7	55.0	20.2	39.3	1.7	4.1
50歳代(n=351)	56.7	63.5	56.1	14.0	41.0	1.1	3.4
60歳代(n=404)	59.9	61.1	51.5	15.3	39.4	0.5	2.7
70歳代(n=287)	57.5	50.5	55.1	9.1	30.0	1.4	8.4
80歳以上(n=71)	54.9	45.1	53.5	9.9	25.4	0.0	9.9
あいとぴあエリア(n=454)	57.3	59.0	50.4	16.7	38.1	0.9	4.6
こまえ苑エリア(n=506)	58.1	61.1	54.9	13.2	38.7	1.0	4.9
こまえ正吉苑エリア(n=590)	57.8	54.7	54.1	14.9	35.9	1.4	4.7
ひとり暮らし(n=313)	48.6	50.2	49.2	12.8	43.1	2.6	6.1
その他(n=1205)	59.8	60.2	54.7	15.5	36.4	0.7	4.4
未婚(n=280)	51.4	54.6	49.3	14.6	47.1	1.1	5.4
配偶者あり(n=1046)	61.2	60.1	55.4	15.3	35.6	0.9	4.1
死別・離別(n=221)	48.0	51.6	48.0	13.6	35.3	2.7	7.2
社会的孤立 該当(n=155)	45.2	44.5	53.5	12.3	47.1	3.9	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	58.8	59.7	53.4	15.4	36.4	0.9	4.9
孤独感 該当(n=66)	51.5	59.1	51.5	10.6	39.4	1.5	3.0
孤独感 非該当(n=1478)	58.0	58.2	53.5	15.2	37.6	1.1	4.6
世帯年収200万円未満(n=193)	52.8	54.9	48.7	14.5	33.2	2.1	7.8
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	60.1	53.8	50.8	13.8	39.6	0.6	4.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	60.1	57.5	56.3	14.7	38.7	0.6	3.2
世帯年収700万円以上(n=496)	56.0	62.5	55.6	16.3	38.9	1.4	3.6

問 37 問 36 で選択した1から2までの支援（見守り、家事支援、病院の入退院時の支援など）について、費用が自己負担の場合、あなたは月々いくらくらいまでなら利用したいと思いますか。

「月に 3,000 円まで」が 34.1%と最も多く、次いで「月に 10,000 円まで」が 25.6%、「月に 1,000 円まで」が 12.7%、「月に 20,000 円以上でも、必要なサービスであれば利用する」が 12.5%、「費用がかかるなら利用しない」が 9.1%となっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「月に 20,000 円以上でも、必要なサービスであれば利用する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円未満で「費用がかかるなら利用しない」の割合が高くなっています。



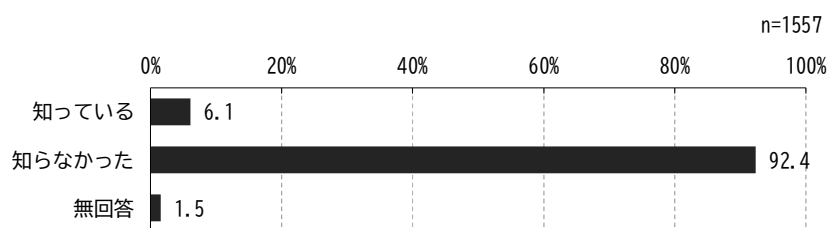
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	費用がかかるなら利用しない	月に1,000円まで	月に3,000円まで	月に10,000円まで	月に20,000円まで	月に20,000円以上でも、必要なサービスであれば利用する	無回答
男性(n=423)	11.1	10.9	27.9	26.5	5.0	17.7	0.9
女性(n=732)	7.9	13.7	37.7	24.9	4.8	9.8	1.2
その他・答えたくない(n=16)	12.5	18.8	31.3	31.3	6.3	0.0	0.0
20歳代(n=36)	11.1	16.7	33.3	25.0	5.6	8.3	0.0
30歳代(n=116)	10.3	17.2	32.8	27.6	4.3	7.8	0.0
40歳代(n=192)	11.5	18.8	39.1	17.2	4.7	8.3	0.5
50歳代(n=266)	8.6	15.4	37.2	24.8	3.0	10.2	0.8
60歳代(n=313)	10.5	10.5	31.0	26.5	5.1	15.0	1.3
70歳代(n=200)	6.0	5.5	32.0	30.0	7.0	18.0	1.5
80歳以上(n=49)	2.0	4.1	30.6	32.7	6.1	18.4	6.1
あいとびあエリア(n=336)	9.5	11.6	34.8	27.1	3.9	11.9	1.2
こまえ苑エリア(n=393)	9.2	11.5	36.4	23.2	4.8	14.0	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=443)	8.8	14.4	31.6	26.6	5.6	11.7	1.1
ひとり暮らし(n=213)	9.4	15.5	30.5	26.8	4.2	11.3	2.3
その他(n=933)	8.5	12.1	34.9	25.7	5.1	12.8	0.9
未婚(n=203)	14.3	16.7	35.5	16.7	4.4	11.3	1.0
配偶者あり(n=817)	8.0	11.9	33.9	27.2	5.4	12.7	1.0
死別・離別(n=147)	7.5	11.6	33.3	29.3	2.7	13.6	2.0
社会的孤立 該当(n=102)	10.8	17.6	29.4	24.5	3.9	10.8	2.9
社会的孤立 非該当(n=1047)	8.4	12.2	34.8	25.8	5.1	12.8	1.0
孤独感 該当(n=53)	22.6	15.1	37.7	15.1	5.7	3.8	0.0
孤独感 非該当(n=1116)	8.4	12.6	34.1	26.1	4.8	12.8	1.2
世帯年収200万円未満(n=137)	16.1	11.7	38.7	21.2	5.1	5.8	1.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=251)	8.0	16.7	34.3	24.7	4.0	11.6	0.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=261)	8.8	13.0	30.3	26.8	6.1	13.8	1.1
世帯年収700万円以上(n=381)	6.0	10.2	34.4	28.1	5.8	15.0	0.5

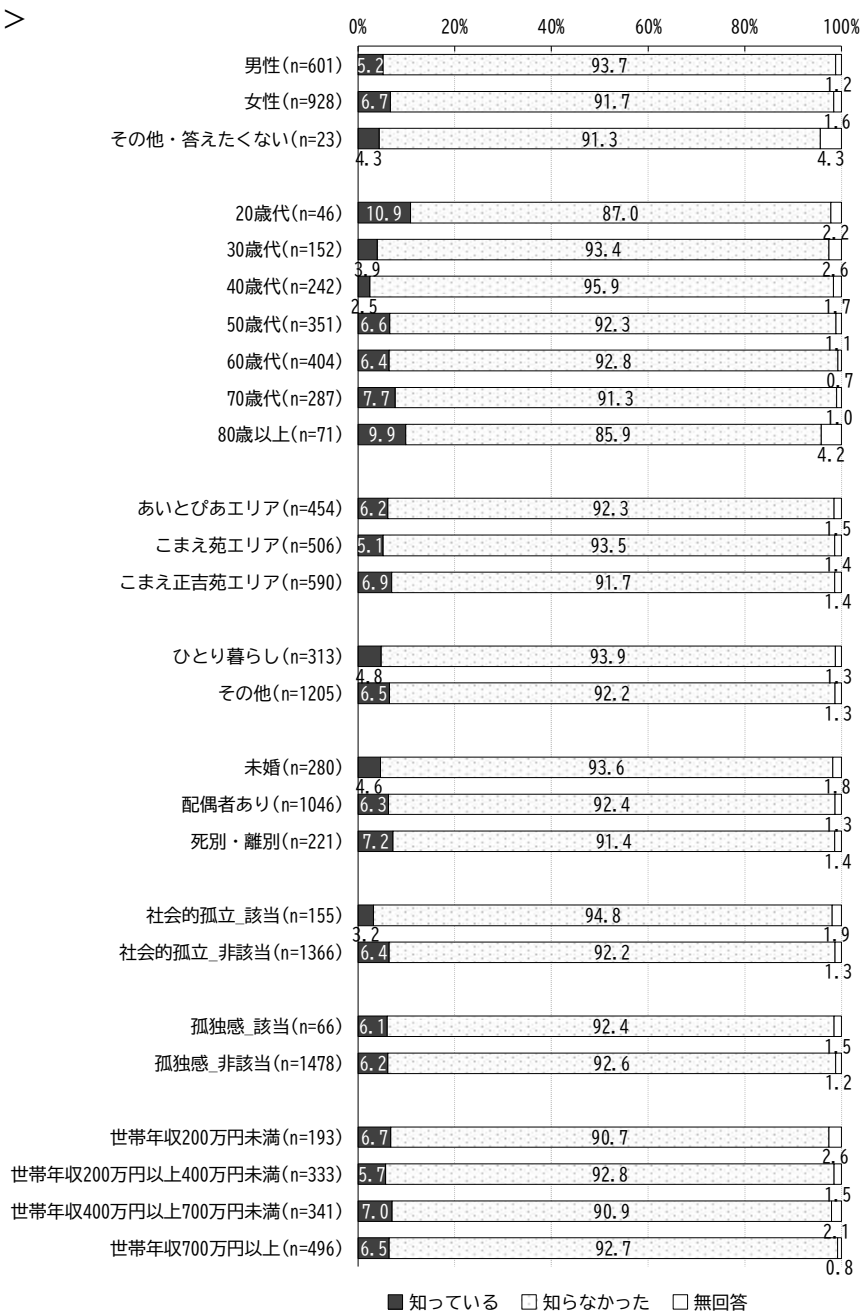
問 38 あなたは、「あんしん未来事業（単身高齢者等支援事業）」をご存じですか。

「知っている」が6.1%、「知らなかった」が92.4%となっています。

クロス集計の結果をみても、「知らなかった」割合が9割前後となっており、傾向に大きな差はみられません。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

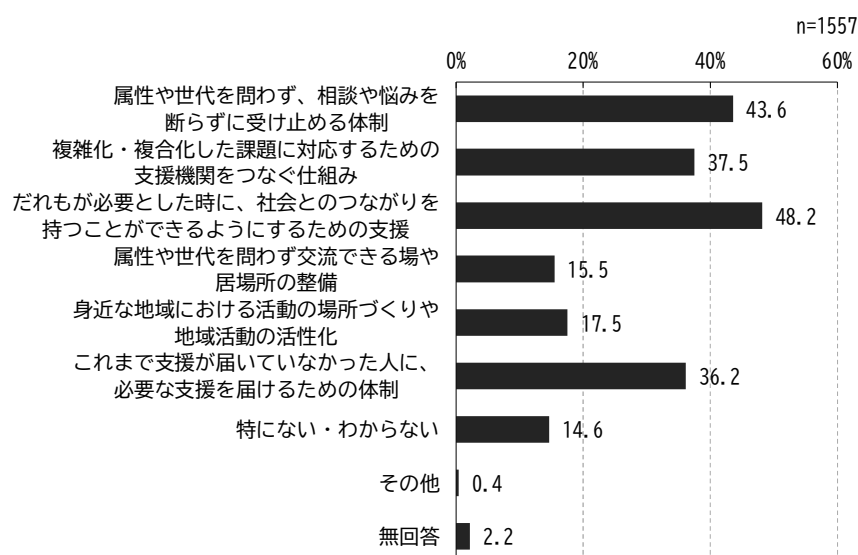


6 重層的支援体制整備について

問 39 重層的支援体制整備事業の推進に向けて、特に力を入れるべきと思う取り組みは何ですか。（複数回答）

「だれもが必要とした時に、社会とのつながりを持つことができるようにするための支援」が48.2%と最も多く、次いで「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」が43.6%、「複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなぐ仕組み」が37.5%、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」が36.2%、「身近な地域における活動の場所づくりや地域活動の活性化」が17.5%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代で「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」、「複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなぐ仕組み」、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の未婚で「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」、孤独感別の該当で「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」の割合が高くなっています。



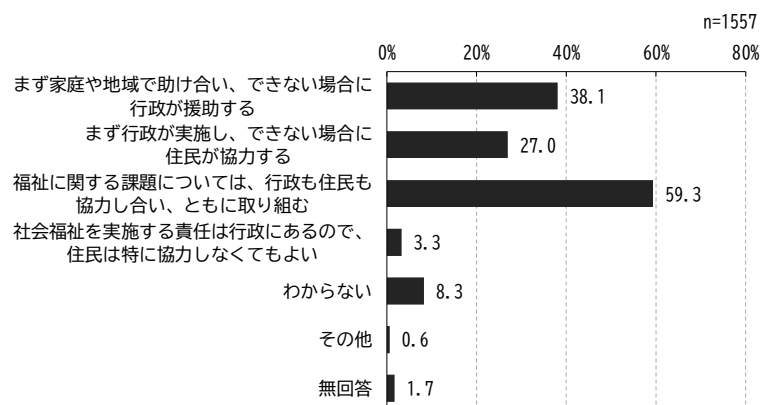
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	属性や世代 を問わず、 相談や悩み を断らずに 受け止める 体制	複雑化・複 合化した課 題に対応す るための支 援機関をつ なく仕組み	だれもが必 要とした時 に、社会と のつながり を持つこと ができるよ うにするた めの支援	属性や世代 を問わず交 流できる場 や居場所の 整備	身近な地域 における活 動の場所づ くりや地域 活動の活性 化	これまで支 援が届いて いなかった 人に、必要 な支援を届 けるための 体制	特にない・ わからない	その他	無回答
男性(n=601)	41.1	35.1	44.8	13.1	18.6	31.8	19.0	0.3	2.5
女性(n=928)	45.4	39.1	50.5	17.1	17.1	38.8	11.6	0.4	1.8
その他・答えたくない(n=23)	39.1	39.1	43.5	8.7	0.0	47.8	21.7	0.0	4.3
20歳代(n=46)	60.9	52.2	43.5	8.7	13.0	47.8	8.7	0.0	0.0
30歳代(n=152)	50.0	38.8	44.7	14.5	15.8	41.4	13.2	1.3	3.9
40歳代(n=242)	39.3	39.7	42.6	14.0	13.2	38.0	20.2	0.4	1.7
50歳代(n=351)	41.3	41.6	43.9	16.0	18.5	36.5	15.4	0.9	1.4
60歳代(n=404)	46.0	34.7	51.0	16.6	18.6	37.4	12.1	0.0	2.0
70歳代(n=287)	41.5	35.9	55.4	17.1	21.6	32.1	12.5	0.0	2.1
80歳以上(n=71)	40.8	21.1	54.9	11.3	11.3	19.7	22.5	0.0	4.2
あいとびあエリア(n=454)	43.4	37.2	49.6	15.9	17.8	33.9	16.5	0.4	2.0
こまえ苑エリア(n=506)	43.5	39.3	49.6	14.0	17.8	36.8	12.6	0.4	2.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	44.1	36.4	46.1	16.6	17.3	37.5	15.1	0.3	1.5
ひとり暮らし(n=313)	41.5	31.3	44.1	16.6	16.9	36.4	17.3	0.6	1.6
その他(n=1205)	44.2	39.2	49.4	15.4	17.8	36.1	13.9	0.3	2.1
未婚(n=280)	45.4	36.4	38.9	12.9	14.3	43.9	18.2	0.4	1.8
配偶者あり(n=1046)	43.5	40.0	50.0	14.7	18.8	34.7	13.7	0.5	2.2
死別・離別(n=221)	42.1	28.1	51.6	22.6	16.3	32.6	14.9	0.0	1.8
社会的孤立 該当(n=155)	42.6	24.5	44.5	14.8	15.5	34.8	19.4	1.3	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	44.0	39.2	48.8	15.9	17.9	36.2	13.9	0.3	1.9
孤独感 該当(n=66)	54.5	37.9	45.5	15.2	19.7	48.5	10.6	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	43.2	37.8	48.4	15.6	17.5	35.7	14.9	0.3	2.0
世帯年収200万円未満(n=193)	42.5	31.6	45.1	17.1	16.6	44.6	13.5	0.0	3.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	43.8	30.9	47.7	14.4	16.5	39.0	15.9	0.3	1.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	49.6	39.0	50.4	14.7	18.2	35.5	12.6	0.3	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	41.1	42.1	47.6	16.9	19.8	32.9	14.9	0.6	1.4

問 40 社会福祉サービスを充実させていくうえで、行政と地域住民はどのような関係であればいいと思いますか。(複数回答)

「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」が 59.3%と最も多く、次いで「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」が 38.1%、「まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する」が 27.0%、「わからない」が 8.3%、「社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力しなくてもよい」が 3.3%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20 歳代、80 歳代で「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」、60 歳代、70 歳代で「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」の割合が高くなっています。また、孤独感別の該当で「まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する」の割合が高くなっています。



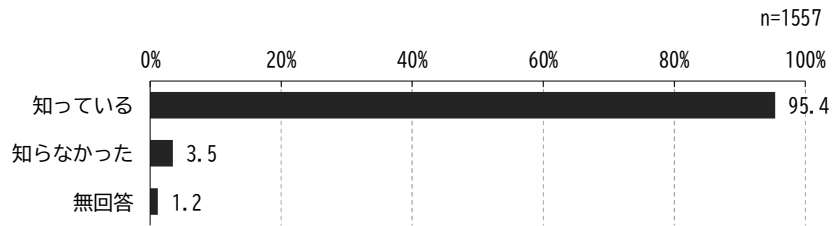
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する	まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する	福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む	社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力しなくてもよい	わからない	その他	無回答
男性(n=601)	43.9	26.1	54.9	3.8	10.8	0.3	1.7
女性(n=928)	35.0	27.4	62.9	2.9	6.4	0.8	1.6
その他・答えたくない(n=23)	8.7	34.8	39.1	4.3	21.7	4.3	4.3
20歳代(n=46)	47.8	28.3	47.8	6.5	4.3	2.2	0.0
30歳代(n=152)	34.2	28.9	43.4	7.2	6.6	1.3	4.6
40歳代(n=242)	32.2	24.4	56.2	2.9	11.2	2.1	1.7
50歳代(n=351)	38.7	29.3	58.4	2.3	8.8	0.6	0.9
60歳代(n=404)	35.4	24.8	64.4	3.0	8.9	0.0	0.7
70歳代(n=287)	44.6	28.6	67.9	3.1	4.9	0.0	1.7
80歳以上(n=71)	47.9	26.8	54.9	1.4	11.3	0.0	5.6
あいとびあエリア(n=454)	41.0	28.4	59.3	3.3	7.7	0.2	1.8
こまえ苑エリア(n=506)	34.8	25.5	59.5	4.3	8.9	1.0	2.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	39.2	27.5	59.7	2.4	8.1	0.7	0.8
ひとり暮らし(n=313)	35.8	26.8	59.1	2.6	11.8	0.6	1.6
その他(n=1205)	38.8	27.1	60.2	3.3	7.0	0.7	1.6
未婚(n=280)	30.0	27.5	54.3	5.4	12.5	1.1	1.4
配偶者あり(n=1046)	40.2	27.0	60.2	3.0	6.9	0.7	1.5
死別・離別(n=221)	38.5	26.2	62.4	2.3	9.5	0.0	2.3
社会的孤立 該当(n=155)	33.5	27.7	54.8	1.9	18.1	0.6	1.9
社会的孤立 非該当(n=1366)	39.0	27.1	60.2	3.1	6.6	0.7	1.6
孤独感 該当(n=66)	30.3	42.4	54.5	9.1	7.6	0.0	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	38.6	26.2	59.9	3.0	8.3	0.7	1.4
世帯年収200万円未満(n=193)	37.3	29.0	56.5	4.1	14.0	0.0	2.1
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	41.1	28.5	60.1	2.4	8.4	0.3	1.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	37.0	28.4	61.9	4.7	6.7	0.6	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	38.9	23.4	59.9	2.8	6.0	1.0	1.4

7 手話について

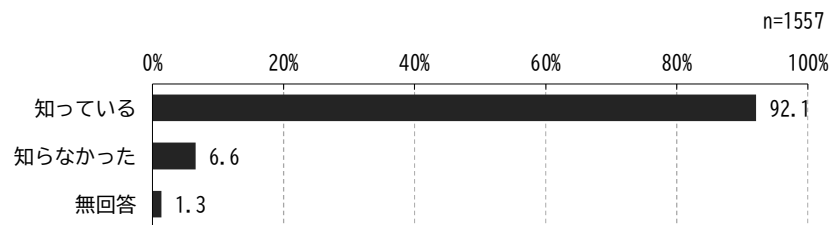
問 41 あなたは手話というコミュニケーションを知っていますか。

「知っている」が 95.4%、「知らなかった」が 3.5%となっています。



問 42 あなたは手話が言語であることを知っていますか。

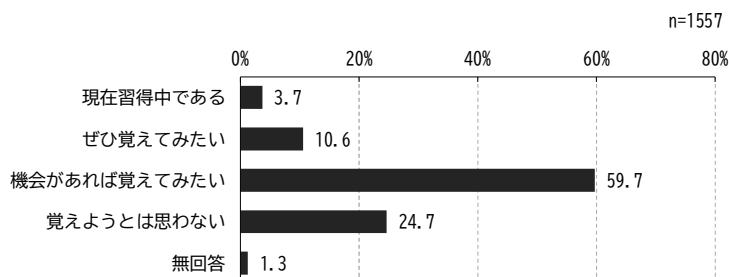
「知っている」が 92.1%、「知らなかった」が 6.6%となっています。



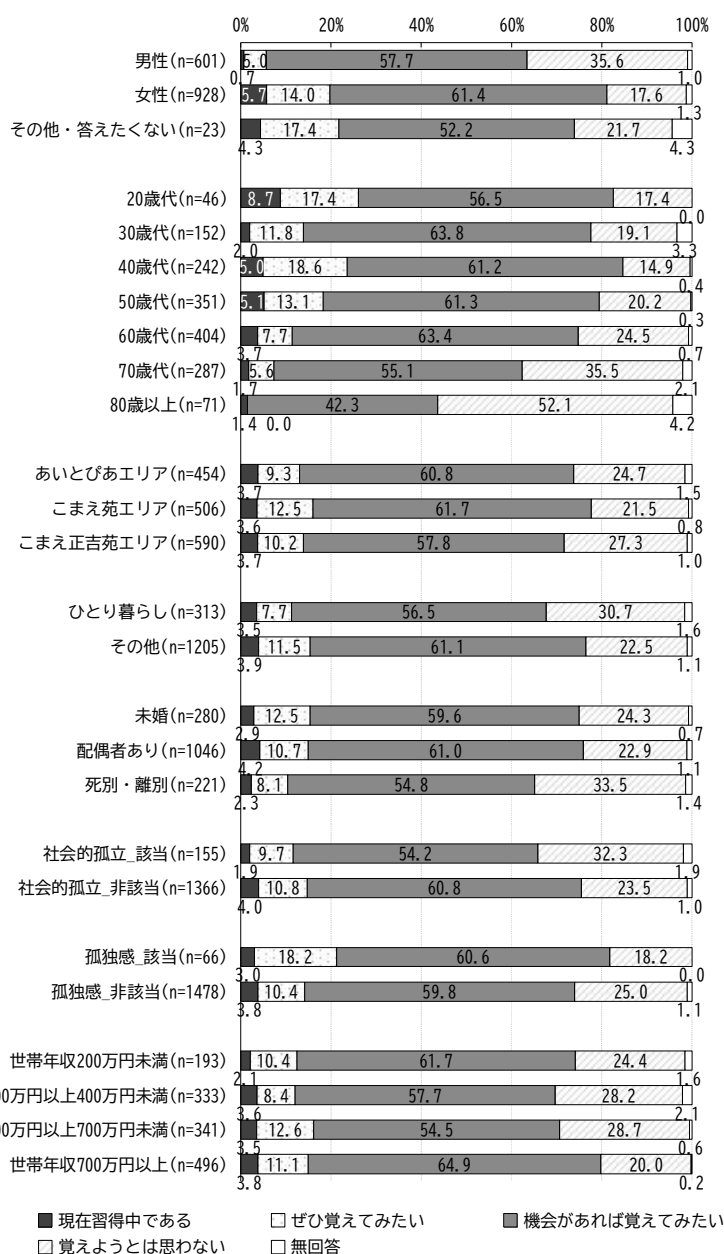
問 43 あなたは機会があれば手話を覚えたいと思いますか。

「機会があれば覚えてみたい」が 59.7%と最も多く、次いで「覚えようとは思わない」が 24.7%、「ぜひ覚えてみたい」が 10.6%、「現在習得中である」が 3.7%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、40 歳代以降で年齢が上がるにつれ「覚えようとは思わない」の割合が高くなっています。また、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の死別・離別、社会的孤立別の該当で「覚えようとは思わない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>



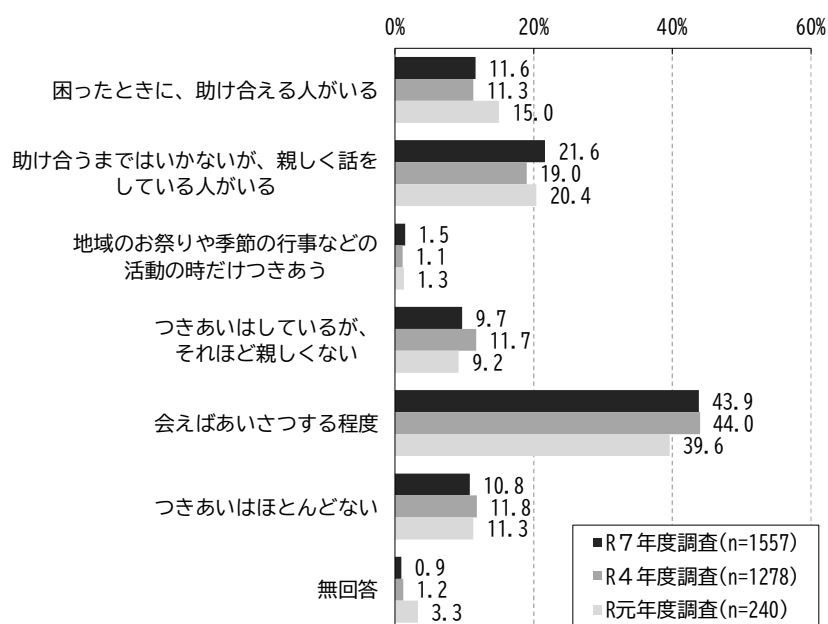
8 地域の支え合いについて

問 44 あなたは普段どの程度、ご近所づきあいをしていますか。

「会えばあいさつする程度」が 43.9%と最も多く、次いで「助け合うまではいかないが、親しく話をしている人がある」が 21.6%、「困ったときに、助け合える人がある」が 11.6%、「つきあいはほとんどない」が 10.8%、「つきあいはしているが、それほど親しくない」が 9.7%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 20 歳代、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「つきあいはほとんどない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

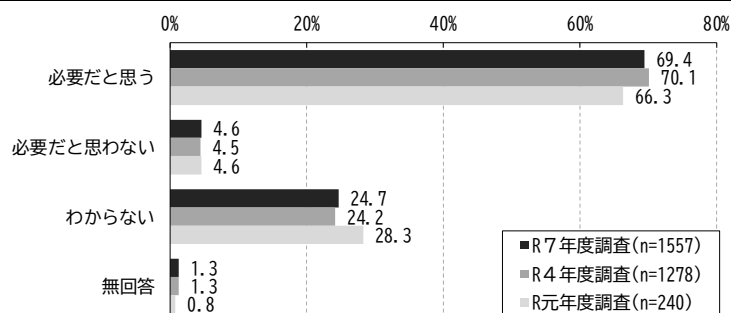
	困ったときに、助け合える人がいる	助け合うまではいらないが、親しく話をしてる人がいる	地域のお祭りや季節の行事などの活動の時だけつきあう	つきあいはあるが、それほど親しくない	会えばあいさつする程度	つきあいはほとんどない	無回答
男性(n=601)	9.0	19.3	2.5	9.8	47.4	11.0	1.0
女性(n=928)	13.5	23.6	0.9	9.4	41.4	10.7	0.6
その他・答えたくない(n=23)	8.7	4.3	0.0	17.4	56.5	8.7	4.3
20歳代(n=46)	6.5	6.5	0.0	6.5	50.0	30.4	0.0
30歳代(n=152)	5.9	15.8	2.0	7.9	47.4	18.4	2.6
40歳代(n=242)	13.6	18.2	0.8	9.1	45.5	12.4	0.4
50歳代(n=351)	11.1	19.4	1.1	8.8	47.6	11.7	0.3
60歳代(n=404)	10.6	21.5	2.0	10.4	46.5	8.4	0.5
70歳代(n=287)	14.3	30.3	1.7	11.1	36.2	4.5	1.7
80歳以上(n=71)	18.3	33.8	1.4	11.3	25.4	9.9	0.0
あいとびあエリア(n=454)	11.5	21.4	1.5	5.9	44.7	14.3	0.7
こまえ苑エリア(n=506)	10.7	20.9	1.4	11.5	44.7	10.1	0.8
こまえ正吉苑エリア(n=590)	12.7	22.7	1.5	11.2	42.5	8.6	0.7
ひとり暮らし(n=313)	8.0	19.8	1.3	8.0	36.7	25.2	1.0
その他(n=1205)	12.4	22.2	1.6	10.0	46.2	6.7	0.7
未婚(n=280)	5.0	13.6	0.7	7.1	46.8	26.1	0.7
配偶者あり(n=1046)	13.0	23.4	1.4	10.4	44.9	6.0	0.8
死別・離別(n=221)	14.0	24.0	2.7	10.0	35.3	13.6	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	2.6	12.9	1.3	8.4	42.6	29.7	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	12.8	22.7	1.5	9.8	44.0	8.6	0.6
孤独感 該当(n=66)	6.1	9.1	0.0	6.1	51.5	25.8	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	12.0	22.3	1.6	9.8	43.7	10.1	0.6
世帯年収200万円未満(n=193)	11.4	21.2	1.6	10.4	38.9	16.6	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	11.7	23.7	1.2	9.0	41.4	11.1	1.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	9.1	19.4	2.3	10.9	45.2	12.3	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	13.1	20.4	1.0	9.7	48.0	7.5	0.4

問 45 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が必要だと思いますか。

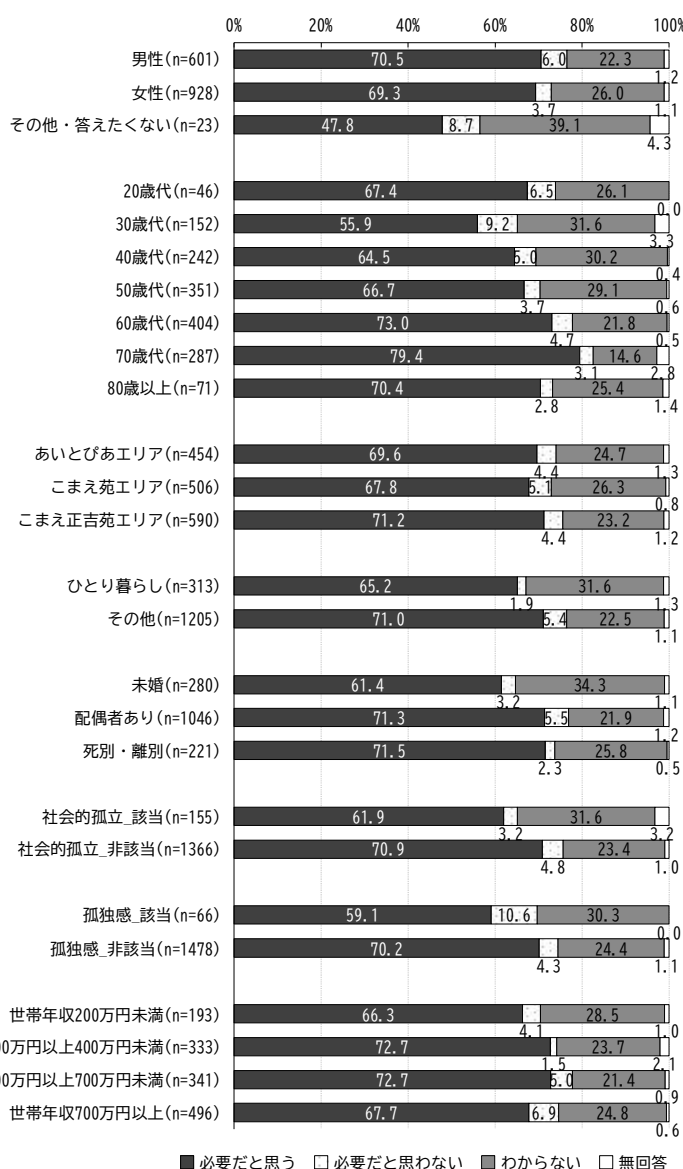
「必要だと思う」が69.4%と最も多く、次いで「わからない」が24.7%、「必要だと思わない」が4.6%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「必要だと思う」の割合が高くなる傾向がみられます。また、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「必要だと思う」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>



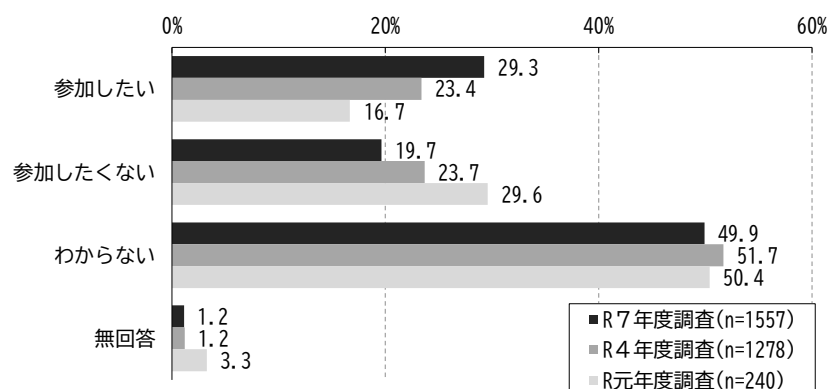
■ 必要だと思う □ 必要だと思わない ■ わからない □ 無回答

問 46 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動、地域住民の居場所作り、イベントの企画を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

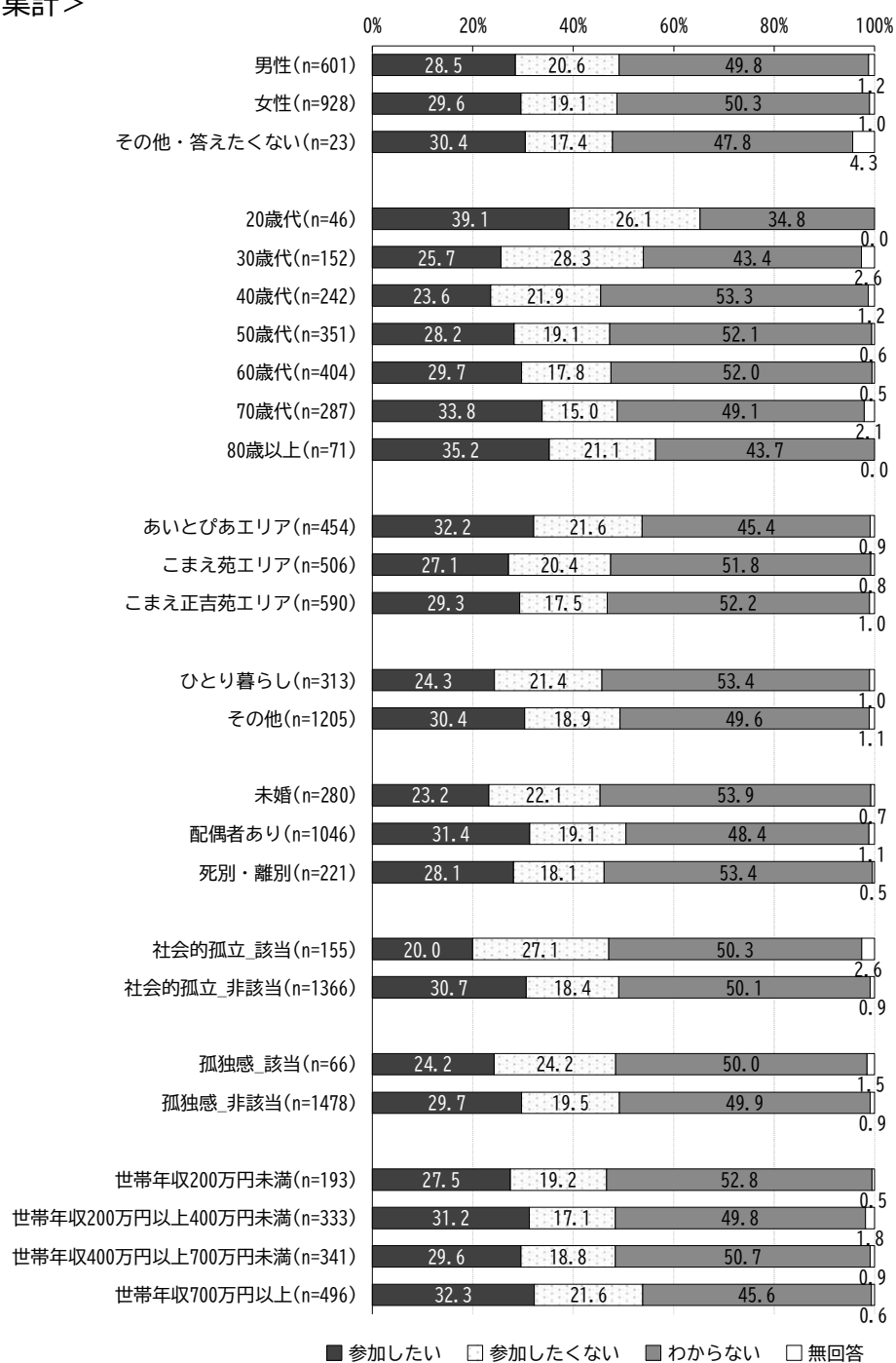
「わからない」が49.9%と最も多く、次いで「参加したい」が29.3%、「参加したくない」が19.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「参加したい」が5.9ポイント多く、「参加したくない」が4.0ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代で「参加したい」の割合が高く、40歳代以降は年齢が高くなるにつれ「参加したい」の割合が高くなっています。また、社会的孤立別の該当で「参加したい」の割合が低くなっています。



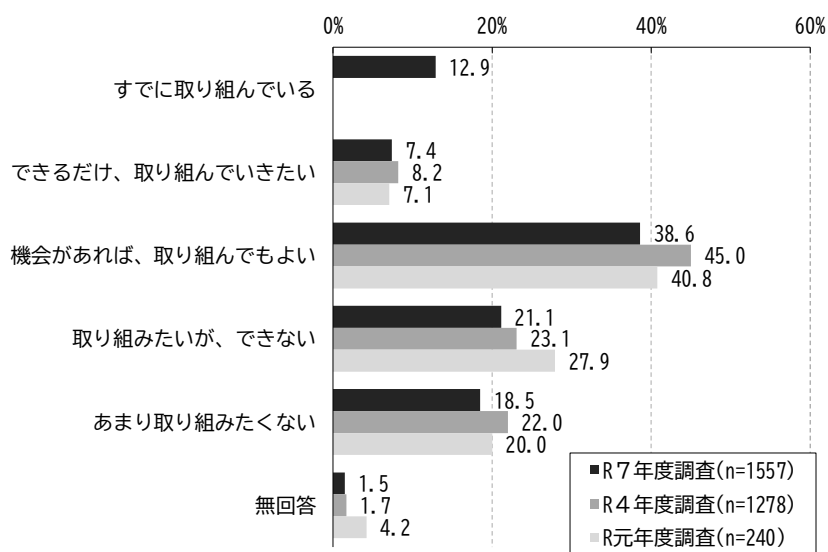
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>



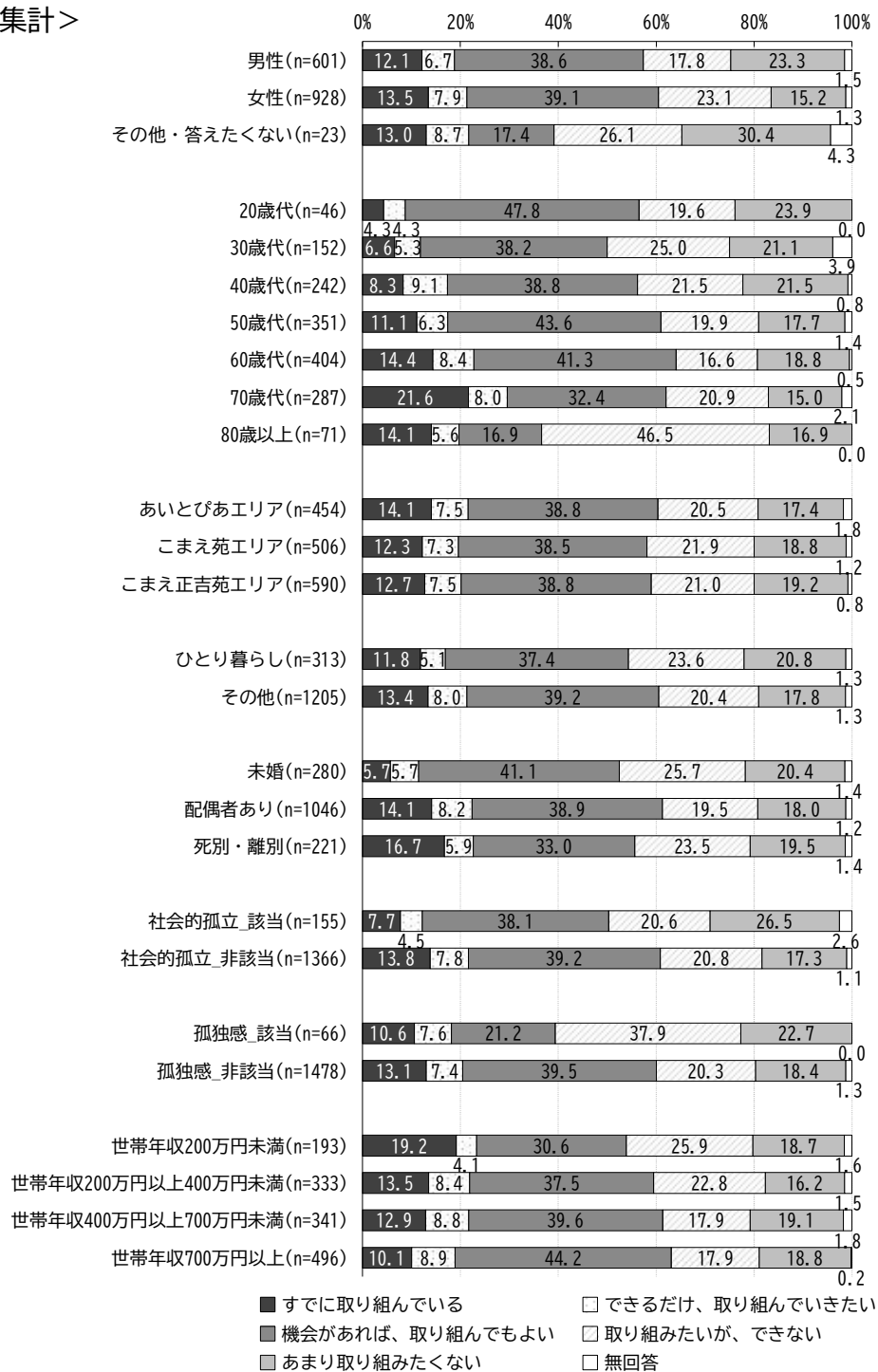
問 47 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。

「機会があれば、取り組んでもよい」が 38.6%と最も多く、次いで「取り組みたいが、できない」が 21.1%、「あまり取り組みたくない」が 18.5%、「すでに取り組んでいる」が 12.9%、「できるだけ、取り組んでいきたい」が 7.4%となっています。前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「機会があれば、取り組んでもよい」が 6.4 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「すでに取り組んでいる」の割合が高くなる傾向がみられますが、80 歳以上では「取り組みたいが、できない」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当で「すでに取り組んでいる」の割合が低く、孤独感別の該当で「取り組みたいが、できない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>



問 48 地域活動・ボランティア等で取り組みたいことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

■環境・美化活動など

- 交流を目的とした交流が苦手なので清掃や街路樹のせん定など黙々と手を動かす活動だったら参加したい。
- 神社、お寺の掃除の手伝い。
- 地域の清掃。
- 洋服のリメイクで、廃棄率を下げる。
- 公園等の清掃、整備。
- 犬の散歩を通じて知らない方と挨拶を交わす機会が増え、地域でのつながりが広がりました。犬の飼い主にはコミュニケーションしやすい方が多く、防犯面でも一定の効果があると感じています。こうした交流を通じて、飼い主マナーの周知や、地域課題への意識向上にもつながると思います。また、散歩の際にゴミ拾いも始めましたが、タバコや包装紙のポイ捨てがまだ多いことを残念に感じています。一方で、近隣の道路や土手のゴミが減ったことにはやりがいを感じています。ゴミ拾いをする人の姿やきれいな道路環境は、地域の美化意識向上にも繋がるのではないのでしょうか。
- 五本松周辺ではホームレスによる長期滞在や危険な自転車走行なども見られますが、環境整備を進めることで、多摩川利用者や市民が安心して使いやすい場所に改善できると感じています。市にも、より良い地域環境づくりに向けて積極的に取り組んでほしいと思います。
- 河川敷の清掃、農作業の手伝い。
- ゴミ拾いなど、気がついたときにさっとできて環境が整うこと。
- 多摩川土手道のゴミ拾い。
- 公共の場の清掃や児童通学の見守り。街の美化活動などにできる範囲で参加してみたい。
- 草花や植栽の手入れ、世話や軽荷物の運搬など。

■高齢者支援など

- 年寄りでも筋トレや水泳などの運動をしたい。他市ではシルバーパスなどで低料金で利用できる施設があり、医療費の削減にも繋がっていると聞いています。
- 高齢者の困りごとをできる範囲で手伝いたい。
- 健康増進、転倒予防など保健関係の活動に興味があります。
- 仕事を引退した後も有償ボランティアで多くの人が活動を継続して、生き生きと暮らす環境をつくりたい。
- 現役を引退されたシニアの健康に寄与できる活動。
- 自身や自身の家族を優先して、余裕があるならばなんでもやっていきたいが、こちらも人間なので、赤ちゃんより先に逃げようとするような高齢者を支援したいとは思えない。
- 西河原体育施設、特に天候に左右されず年間利用可能な25メートル室内プールの早期建設。
- 地域の高齢者に対し、孤立をなくし、生きがいの場を提供するため、月1回サロンを行っている。サロンはスタッフが考えた手工芸、軽い運動のほか、外部から、ボランティアの方を招き、マジック、押し花等を行っています。限られた予算で開催する内容等を考え

ていくのが大変です。

- お年寄りのサポート。
- 一人暮らしの高齢者の話し相手のボランティア。
- 母の介護があるのでできないが、ボランティア自体は今までしてきたので機会があればしたいが、私自身来月には後期高齢者になるのでできるものはないかも知れない。
- 単身高齢世帯のお手伝い等。話し相手など。
- 今の高齢者は、デジタル化に追いつけない人が多いと思いますので、そういった人を支援するためのボランティアや地域活動が必要かと思います。
- 単身者の見守り活動。
- ボランティア活動を熱心になさる方に頭が下がります。色々なことを広く浅く学んできたため、一つの活動にとどまらず、自身の体調のこともあり悩むことがあります。ですが、人のための活動は、いつかの自分のためにもなると考え、様々なことを知り、専門職との橋渡しができる存在も必要ではないかと思っています。憩いの場、認知症カフェ、体操教室、習い事など、どれも大切な活動であり、一つでも継続することで他者とのつながりが生まれると感じています。そのため不足している活動を勧める民間協力も必要ですが、市が形を整えないと、今は必要性を感じていない方の協力を得るのは難しい面もあります。手助けが必要になる前に行動する意識づくりや啓発も必要だと感じています。
- 高齢者向けIT教育。
- 一人暮らし高齢者への声かけ。

■子ども・子育て支援など

- 子ども食堂。
- 学童支援、高齢者支援などのサポート。
- 子ども食堂のお手伝い。
- 不登校の子ども支援。
- 子どもの登下校の見守り。
- 不登校の子どもや、孤独を感じている方たちのための居場所づくり。
- 学習指導。
- いじめや児童虐待の防止、子育ての援助や相談に関われたらいいと思います。
- 子どもに勉強を教えるなど。
- 老後は紛争地域の子どもたちへ、絵本を届けるなどの支援活動をやりたいと昔から思っている。
- 地域の子育て支援、公園清掃。
- 図書館や児童館などでの本の読み聞かせや朗読。地域や河川のゴミを回収するボランティア。地域の放送局のお手伝いなど。子ども食堂やカフェなどのお手伝い。
- 子ども食堂。
- 不登校、ひきこもりの人が集まる会を開催したい。
- 子育てで悩んでいる若いママさんの話を聞いたり、子どもに絵本の読み聞かせなどをするボランティア。
- 子どものスポーツ指導、アテンド。

■福祉・障がい者支援など

- キャラバンメイトの養成研修や若年性認知症の方へのサポート。
- 障害者施設の充実を望みます。
- 手話を生かしたい。
- 相談活動。
- 現在はなんとか働けているが、以前ひきこもりだった息子がおり、その経験を生かせたらいいと思ったことがあり、少し動いてみたが、この問題になると私自身がまだ生々しい感覚が大きすぎるのと、一口に引きこもりといっても症状原因がいろいろで、今はそのことでの活動は難しいと判断しています。
- 支援、援助が必要な近隣の人たちに対して、お互い経済的にも労力的にも負担のない形で、自分はどうか協力できるのか、知りたいと思う。
- 福祉の仕事をしていたので、地域活動には参加したいと思う。
- 20代、30代の時は地域ではないが、職場や障害者施設のボランティア活動に少し参加させていただく機会もありましたが、自分自身、家族、親族で助け合いが必要な年齢となりなかなか参加できなくなりました。身近で、短時間でも何かできることがあれば参加はしたいです。
- 聞くこと、話すことができない子どもたちに書道をボランティアで教えたいと思っています。
- 福祉の内容や手続きを知らずに困っている人への援助。
- 現在は、自身が在宅介護しているので、難しいが、時間ができたら、在宅介護のお手伝いをしたいと思っている。
- 近所同士の支え合い、外国人家族のサポート等できることあればぜひお手伝いしたい。
- 子どもが大きくなったら前職の経験を活かして障がい児者支援のボランティアをしたい。
- 外出支援。
- 自分の得意分野での手助け。キャリアカウンセリング。
- 傾聴ボランティア。
- 介護。
- セラピードッグ、ペットとの避難所、ペットとの共生、農園、掃除、傾聴。
- 野良猫さんを保護して里親さんにつないでほしい。
- 保護猫活動。

■地域交流・居場所づくりなど

- まずは、居住地（集合住宅）での、ささやかな集まりをして、どれ位の住民がいるか把握したい。
- ご近所とのコミュニケーションは大事です。お互いに助け合って生活していくことで毎日の生活の質が高まります。
- 住民同士の絆が深まるような親睦活動に力を入れたいと思います。
- 世代を超えた居場所づくりをぜひ実現したいと思います。
- 空き家などを利用して地域の居場所ができたらいい。
- 町会活動。
- 狛江でお店をやっているひとたちのイベント(コーヒールームなど)には積極的に客としてお金を落としたり宣伝したい。

- 世代交流できる取り組み。
- 地域誌、ミニコミ誌、会報・広報誌などの制作（取材、執筆、編集）。
- いまは仕事が忙しく余裕がないが、地域のつながりは大切だと思っている。ここ数年、狛江駅などでイベントが増えているように感じるがいいと思う。いろいろなことを試してみ、気軽に参加したくなる機会が増えれば自然とつながりもできるかもしれないと思う。
- スポーツや趣味などを通じた地域の活性化をサポートしたい。
- 場づくり、機会づくり。
- 社会教育での活動を中学から大学の頃まで行っていたので、とても関心があります。パラスポーツである「ボッチャ」に出会い、ハマっているスポーツ。老若男女楽しくできるので、地域活性のため、月一活動として、取り組みたいと思っている。
- 子ども、子育て中の親、お年寄り、誰でも寂しくなったら立ち寄って、お茶を飲みながらおしゃべりできるようなスペースをマンション内につくりたい。
- 子どもを中心とした居場所に、大人も参加できる取り組み。
- 今やっているボランティアを広めて参加する人を増やしたいです。
- ご近所の知り合いを増やし、地域の安心安全を図る。
- 近隣住民との助け合い。
- 狛江市の歴史の編さん事業に参加したい。

■防災・地域安全など

- 商店街自警団。
- 消防団員として活動。
- 土のう作りは協力したい。
- 防災対策。
- 防災訓練など。
- 防災に関する講演。
- 子どもが学齢児童になったら消防訓練などに参加したい。
- 災害ボランティアには何度も出かけました。都合がついたときだけ。今後もしばらくはその程度かなと思います。

■個人スキルの活用など

- 自分の職業が活かせる活動があったら、狛江の人たちの役に立ちたい。
- 子どもや高齢者の方に英会話を教えたい。
- 音楽教育に携わっているので、音楽活動を通じてできる機会があればやってみたいです。
- スマホやパソコンの使い方の相談にのる。

■参加条件・参加障壁など

- すごい簡単にハードルが低いものであれば参加してみたい。
- 家にいて重病人の介護があるので、なかなか参加できないと思う。安定したらできることがあれば、参加したいと思う。
- 年齢や家族構成問わず、単発で気軽に参加できるようなものがあれば参加したいと思う。
- 何をやるにしても車イスではしたくても何もできない。

- 朝が弱いので午後から活動できるボランティアがあればいい。
- 自分のことがやっとなので支援はしたいが多分できないと思う。
- 家族の世話でほかはできない。
- 時間が合う活動、体力的に無理のない活動。
- 現役世代や若者は、平日に働いていたり通学しているので、地域活動に参加しましょう、と言われても難しい。
- ボランティア活動は、未経験だとハードルが高い気がする。
- 地域活動をしているのかわからないから。
- 仮に定年して取り組むことができる時間があっても、納税していない外国人がいるならば何もしたくないし不公平さを感じる。
- 物価高の影響もあり、生活のために働く時間を確保する必要がある一方、可能な範囲で地域との関わりを大切にしたいと考えている。子どもたちと一緒に、狛江市内でのゴミ拾いや住民との交流など、無理のない形で地域活動を行っています。私は会社員として働きながら、都営狛江営業所団地に関わる引っ越し相談や作業支援を無償で手伝っています。その中で、高齢者が悪質業者との契約トラブルに気づけず困っている現状を多く見てきました。
- 消防団にも関心はありますが、長期の任期や家庭・仕事との両立に負担を感じています。今後の地域活性化には、一部の人に負担を集中させるのではなく、市民一人ひとりが無理なく参加できる「緩やかな協力体制」が重要だと考えます。資格取得や見守り活動などに対して、報酬や評価制度を設けることで参加しやすくなるのではないのでしょうか。また、首都直下地震などの災害時には行政だけでは限界があり、市民同士の支え合いが不可欠です。立場を問わず参加できる柔軟な仕組みと、協力に対する適切な支援や評価が必要だと感じています。
- 取り組みたいと思っても、個人の出費が多少必要なので経済的に無理です。
- 仕事の合間に参加したい。
- 地域活動やボランティア等には興味があっても、昔と比べて人との関わり方が難しくなっているのが現状だと思っています。引っ越して来た当初は、住民と仲良くしたいと思っていましたが、そうではない人も多く、難しいと思っていました。色々な考え方があるので、何が正解かはわかりませんが、ますます高齢者社会になっていることを行政側として強く配信していってもらえれば、孤立化問題等や地域活動も円滑になるように思えます。
- ボランティア活動は、行っています。しかし、地域活動となると高齢者が多い地域なので、五歳、十歳若いだけで、体力的にキツイ役割分担を任されたりすることが多分にあります。地域活動の変革システムが必要だと思われます。
- フルタイムで働いています。地域に滞在する時間が少ない現状です。マイルドにつながるこのできるものを。
- ボランティア活動でどんな取り組みがあるのか、まず知りたいと思います。
- どこに相談すれば参加できるのかわからない。
- 就業や特性などがあるため、なんでもというわけにはいかないが、自分に合うものがあれば地域活動に参加したいと考えています。活動目的や成果、頻度や規模などがわかりやすく幅広い参加につながるようなweb窓口があると、市役所や団体窓口に尋ねる前に自分で調べられるため参加のハードルが下がると思います。どのような層にアピールしたいかにもよりますが、案内を駅や病院、遅い時間までやっているスーパー・コンビニなどにポ

スターや電子掲示で告知などすると、子どものいる保護者や専業主婦層以外も目にする機会も増えると思います。

- 他人と何かしようとすれば、本来の目的のためではなく個々の意見や意識の違いを調整することのためにエネルギーを使ってしまい、本来の活動へのモチベーションが下がる。まずは自分個人の手の回る範囲で小さく物事を始めることをしたいと思う。
- 自分の現状のみを考えてきておりました。この街に長くお世話になっているので、やはりこのアンケートに書かれたような、ボランティアや活動は必要なのかと思うが、もう少し模索をして、自分は何ができるのかから考えていくことが必要と思いました。
- どんな活動があるのか知りたい。

■制度・行政への意見など

- マンションによるのですが、個人情報保護の理由で、住人の方の高齢者1人暮らしの人が自分のほかにいるのかも教えてもらえないです。管理会社か、管理人さんによるのかわかりません。防災訓練もないです。懸念しています。
- 一つのボランティアを引き受けると、芋づる式にあれやこれやと頼まれとても大変です。あまりボランティアに頼らず、行政がしっかりと行き届いたサービスができるようにしてほしい。
- すべてを無償のボランティアでまかなうことには限界があると考えます。一方で、有事の際に避難やその判断に支援を必要とする方々を、一定の対価を伴う形で支援する人材を地域で確保することは可能ではないでしょうか。無償でラジオなどの物資を配布しても、受け取った方が自力で行動や判断ができなければ、十分な支援にはつながりません。また、「無償だから受け取る」という状況が生まれ、結果として税金の有効活用にならないことも懸念されます。有事の際、自由に動ける行政職員の数には限りがあります。そのため、地域で支え合う仕組みが理想ですが、完全なボランティアでは支援を受ける側も遠慮してしまい、利用しづらい面もあると感じます。支援内容や範囲を明確に定めた上で、研修を受けた人材が、支援を必要とする方を有償で支える仕組みを構築することが望ましいのではないのでしょうか。一度で終わるラジオの無償配布よりも、恒久的なつながりや取り組みとなり意味のある仕組みになるかと思います。行政だからこそできる取り組みを、ぜひご検討いただきたいと思います。
- 現在、民生委員・町会役員・避難所協議会役員などを兼務しているため行政機関の横の連携が必須です。
- 集合住宅で問題行動をする住民に関しての相談窓口があるといいと思います。
- ボランティアは無料なのに同じようなことを有料で、高齢者事業団に申請すると有料で人が配置されているのは統一性がなく、不公平感がある。ボランティアも古い項目は見直してみたらいかがでしょうか。
- 居住者健康管理体制づくり、安心連絡網、災害発生時救難システム、金銭相談などが身近に感じられないので環境管理などが望ましい。
- ボランティア活動も昔からの体制をそのまま引き継いでいるようですが、現代はインターネットやパソコンなどの発達している分野を利用して、ひと昔まえより効率化できる事柄も多く、一度すべてのボランティア活動について見直す時期にきているのではと感じます。狛江市のボランティアもすべて洗い出して、必要なものと次のステージに切り替えるものとを洗い出す時期にきているように感じます。ボランティア活動だから、無料で

手伝ってくれるから、そんな理由で昔のままの体制を続けているのは、今の時代に逆行しているように感じます。高齢者事業団にお願いできるような事柄は、有料でもよいのでそちらにお願いしても、よいのではないのでしょうか。

- 気軽にボランティア活動ができるとよいと思います。そのために、必要としている方の情報をもっと発信し、やれる方は参加することができるようにする体制ができるといいと思います。社会福祉協議会の活動に期待しています。また、小学生への情報提供が大事だと思います。子ども食堂、老人食堂、ボランティア活動等の福祉活動は、当たり前のことと認識するための啓蒙活動は、小学生の頃の学びが重要だと思いますので、昼休みにこまラジを流すような取り組みをして、自然と認識するような環境があるとよいと思います。こまラジが、災害時、貧困時等、様々な情報発信していることを、粕江市に住む人であれば当たり前で認識できれば、課題は解消していくと思います。

狛江市の福祉に関する調査 集計結果報告書

令和8年●月発行

発 行 狛江市

編 集 狛江市福祉保健部 福祉政策課
狛江市和泉本町一丁目1番5号

電 話 03 (3430) 1111

成年後見制度利用促進基本計画の改定（案）

施策 No.	施策	
1-3	判断能力に不安がある方の自己決定権を尊重した意思決定支援を推進します。	
視点		重点取組
①本人の自己決定権の尊重 ③一人ひとりに寄り添う支援		・支援・検討会議における必要な権利擁護支援の検討を通じた多様な主体への意思決定支援の推進 <u>及び定期的な状況報告による成年後見制度の終了への対応</u> ・権利擁護支援・意思決定支援に関する専門職アドバイザーの活用を検討 ・市内権利擁護業務担当者の勉強会等による定期的な意思決定支援に関する研修の実施

【見直し理由】

・現在、国会で可決された改正社会福祉法や改正民法の内容を重点取組へ反映させるもの

1. ③ 頼れる身寄りがない高齢者等・判断能力が不十分な者を対象とする第二種社会福祉事業の新設

現状・課題

- 単身世帯等の増加が進む中で、頼れる身寄りがない高齢者等にとって、これまで家族・親族等が担ってきたと考えられる**日常生活支援や入院・入所手続、死後事務などへの対応**が生活上の課題として顕在化している。
いわゆる「高齢者等終身サポート事業」はこうしたニーズへの対応策の一つであるが、一定程度の費用が必要となることもあるため、**資力が十分でない者も利用できる事業**が求められている。
- 成年後見制度について、現在、利用の必要がなくなったときに制度利用を終了することを可能とする見直しが進められている。成年後見制度が見直された後においても、判断能力が不十分な者が尊厳のある本人らしい生活を継続できるよう、**地域における成年後見制度以外の権利擁護支援策を総合的に充実**させていく必要がある。

見直し内容

- 頼れる身寄りがない高齢者等や判断能力が不十分な者に対し、日常生活支援・円滑な入院等の手続支援・死後事務の支援を、**利用者のうち一定割合以上に無料又は低額の料金で提供する事業について、第二種社会福祉事業に位置付ける**（福祉サービス・保健医療サービス等利用援助事業）。

福祉サービス利用援助事業		法改正後	
対象者 事業内容 利用料	判断能力が不十分な者	福祉サービス・保健医療サービス等利用援助事業	対象者 事業内容 利用料
	日常生活支援 ・福祉サービスの利用援助 ・日常的金銭管理サービス ・書類等の預かりサービス		頼れる身寄りがない高齢者等 + 判断能力が不十分な者
	無料又は低額		日常生活支援（福祉サービス利用援助事業同様） 地域での生活を営むのに不可欠な支援を行うことが目的 + 入院入所等手続支援 入退院・入退所等の手続が円滑に進められるよう支援を行うことが目的 例：入退院等の手続支援、緊急連絡先の提供、費用の支払代行 又は 死後事務支援 利用者が亡くなられた後、死後の事務が円滑に進められるよう、事前に準備しておくことが目的 例：葬儀・納骨・家財処分の契約手続支援、行政官庁への届出
社会情勢等の変化等		福祉サービス・保健医療サービス等利用援助事業の拡充・発展	
単身世帯等の増加			
成年後見制度の見直しの動き			
生活上の課題の例			
緊急連絡先がなく、入院・入所等の手続ができない			
医療費の支払等の手続ができない			
葬儀・納骨等の死後の手続をする人がいない			
空き家や残置物の処分ができない			
地域住民が生活支援員として意思決定支援をしながら尊厳のある本人らしい生活の安定を図る互助の仕組みとして機能			

- 頼れる身寄りがない高齢者等が地域で安心して自立した生活を継続するための支援策の充実
- 判断能力が不十分な者の地域生活を支えるための総合的な権利擁護支援策の充実

1. ③ 頼れる身寄りがない高齢者等への相談支援機能等の強化 1. ④ 成年後見制度等の適切な利用の支援

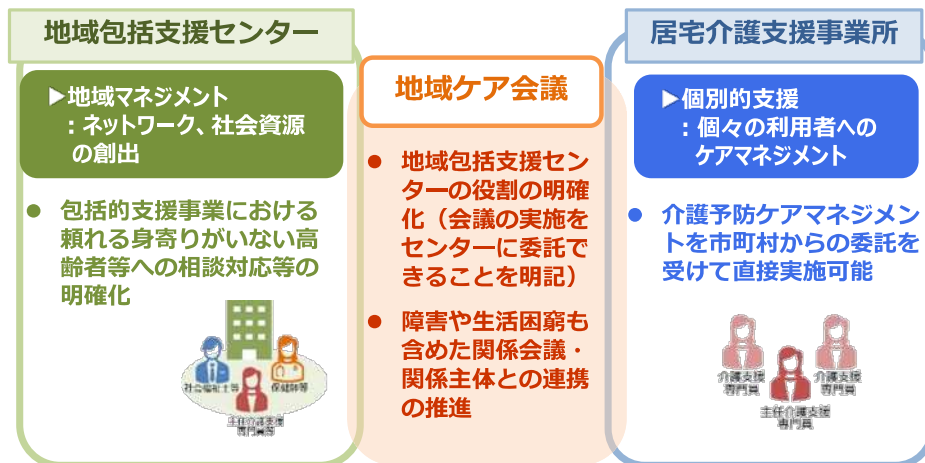
現状・課題

- 福祉の各領域（介護・障害・生活困窮）における既存の支援体制の枠組みにおいて、頼れる身寄りがない者からの相談が寄せられた場合に対応はしているものの、積極的な体制整備が行われていない現状があり、現在、居宅介護支援事業所においてやむを得ず実施せざるを得ない法定外業務（いわゆるシャドウワーク）に係る生活ニーズについても、地域全体として対応していく必要がある。
- 成年後見制度が必要なくなったときに利用を終了することが可能な制度へと見直されることを踏まえ、判断能力が不十分な者が、成年後見制度や地域における権利擁護事業を適切に利用できるよう、権利擁護に関わる地域の関係機関・民間団体等の連携協力体制を構築する必要がある。

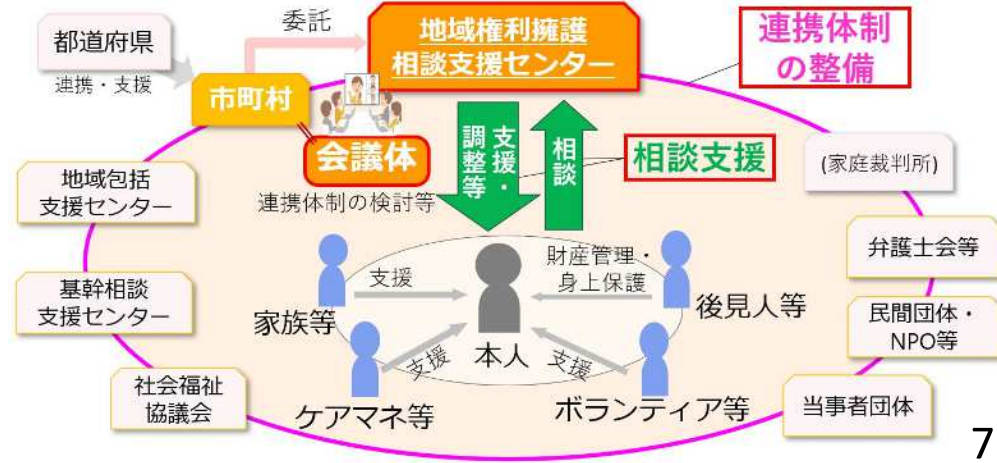
見直し内容

- <頼れる身寄りがない高齢者等の支援体制の整備>
- 地域における頼れる身寄りがない高齢者等の相談支援体制の整備及び地域資源の活用・開発を推進する観点から、
 - ・ 頼れる身寄りがない高齢者等からの相談対応について、介護保険制度の包括的支援事業（総合相談支援事業）の相談対象として明確化等するとともに、各市町村で地域課題として議論し実効的な課題解決を行うため、圏域ごとの体制づくりを行う観点から、地域ケア会議の実施を地域包括支援センターに委託できることを明記し、障害や生活困窮等の他分野も含めた関係会議・関係主体との連携を推進する。
 - ※ あわせて、地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の協働・役割分担をさらに進めるため、介護予防・日常生活支援総合事業に係る第一号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）について、居宅介護支援事業所も市町村から委託を受けて直接実施することを可能とする。
 - ・ 頼れる身寄りがない高齢者等からの相談対応について、生活困窮者自立相談支援事業や障害者相談支援事業の対象として明確化等するとともに、生活困窮者の見守りも含めた居住の支援を行う地域居住支援事業の対象となることを明確化する。
- <判断能力が不十分な者の支援体制の整備>
- 判断能力が不十分な者が成年後見制度や地域における権利擁護事業を適切に利用できるよう支援するため、権利擁護に携わる支援関係者や本人等に対する相談支援及び地域の関係機関・民間団体の連携体制の整備に関する事務を市町村の努力義務とするとともに、地域における権利擁護制度の適切な利用の支援の中核的な役割を担う機関として、これらの事務を行うことを目的とする地域権利擁護相談支援センターやこれらの事務の効果的な実施のために必要な情報の交換や、地域における連携体制の整備に関する検討等を行う会議体を設置できるようにする（センター・会議には秘密保持義務。）。

「介護分野での支援体制のイメージ」



「判断能力が不十分な者の支援体制のイメージ」



令和8年度権利擁護小委員会兼粕江市権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会 全体工程表

資料4

回数	開催日時	開催方法	開催時間	開催場所	内容
第1回	令和8年 5月22日（金）	ハイブリッド方式	午後6時30分～ 午後8時30分	粕江市役所 特別会議室	【権利擁護小委員会】 ・権利擁護小委員会の所掌・会議の公開等について確認する。 ・地域共生社会推進基本計画実施計画の地域共生社会推進会議における令和7年度評価結果に対する評価について審議する。 【権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会】 ・粕江市単身高齢者等支援事業について報告する。
第2回	令和8年 6月23日（火）	ハイブリッド方式	午後6時30分～ 午後8時30分	粕江市防災 センター 4階会議室	【権利擁護小委員会】 ・粕江市第1次地域共生社会推進基本計画 実施計画による進捗状況評価令和7年度報告書（案）を確定させる。 ・市民意識調査報告書（案）～クロス集計結果～について報告する。 ・成年後見制度利用促進基本計画の内容について審議する。 【権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会】 ・中核機関の委託内容（案）について審議をする。
第3回	令和8年 10月6日（火）	ハイブリッド方式	午後6時30分～ 午後8時30分	粕江市防災 センター 3階会議室	【権利擁護小委員会】 ・新委員長及び新副委員長の選任する。 ・粕江市第1次地域共生社会推進基本計画 実施計画 進捗状況評価令和7年度報告書の作成について報告する。 ・令和8年度実施計画について報告する。 ・成年後見制度利用促進基本計画（中間答申案）について審議する。 【権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会】 ・中核機関の委託内容（案）について確定する。
第4回	令和9年 2月3日（水）	ハイブリッド方式	午後6時30分～ 午後8時30分	粕江市防災 センター 4階会議室	【権利擁護小委員会】 ・調整中 【権利擁護支援地域連携ネットワーク協議会】 ・調整中

地域権利擁護相談支援センター（中核機関）を委託するためのロードマップ（案）

1 狛江市の権利擁護支援事業

権利擁護支援事業とは、認知症などにより判断能力が十分ではない方々が、住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるよう、福祉サービスの利用手続き、日常的な金銭管理、大切な書類の保管などを支援し、本人の権利や財産を守るための事業です。

狛江市においては、市民後見人の養成から活動支援、および法人後見・法人監督に至る部分を多摩南部成年後見センターが担い、日常的な金銭管理や福祉サービスの利用支援、後見制度等の相談支援などを狛江市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）が担うことで、相互に連携しながら効果的な支援体制を構築しています。

2 今後の展望

今後の権利擁護支援は、単身世帯の増加や成年後見制度の見直しを見据え、制度の利用可否に関わらず地域全体で本人らしい生活を支える総合的な体制へと移行する必要があります。現在、国会ではこれらに関する「民法等の一部を改正する法律」及び「社会福祉法等の一部を改正する法律」が可決されました

まず成年後見制度は従来の「後見」、「保佐」、「補助」の3類型から「補助」へ一元化され、本人の意思尊重と意思決定支援の努力義務化、定期的な状況報告による制度終了の促進など、自己決定権を必要以上に制限しない柔軟な仕組みへと変わる見込みです。これらに伴い、後見制度だけに頼らない地域の重層的な権利擁護支援策を充実させることが不可欠となります。

実施体制においては、市町村では中核的な役割を担う地域権利擁護相談支援センター（中核機関）の設置や、関係機関・民間団体からなる検討会議の組織化が可能となります。これらには守秘義務が課され、多機関が緊密に連携したチーム支援の構築や、市民後見人の養成を通じた地域づくりがより一層強化されていくことが期待されます。

これらを加味すると、本人や関係者等からの権利擁護支援や成年後見制度に関する相談を受け必要に応じて専門的助言等を確保しつつ、権利擁護支援の内容の検討や支援を適切に実施するためのコーディネートを行う地域権利擁護相談支援センター（中核機関）の役割が以前よりも重要になってきます。また、終わりのある成年後見制度へ移行することで、地域福祉権利擁護事業との相互支援体制が必要なり、さらには、単身高齢者等支援事業からの切れ目のない支援体制が益々大事となります。

補助人等の定期的なモニタリングや、終わりのある成年後見制度を含めた検討会議の実施を見据えると、地域福祉権利擁護事業の実施主体である社協が、現在の委託事業に加え、地域権利擁護相談支援センター（中核機関）の機能を持つことが合理的です。

また、今後も市民後見人の養成から活動支援、および法人後見・法人監督に至る部分については、専門的な知見及び広域で行う事により市民後見人の活躍の選択肢を狛江市

のみでなく構成する5市で考えることができることから、多摩南部成年後見センターが担い、狛江市、社協、多摩南部成年後見センターの3者が強固に連携することにより、成年後見制度の利用可否に関わらず地域全体で本人らしい生活を支える総合的な体制を構築することが必要です。

3 社協の権利擁護支援事業の体制

(1) 社協が地域権利擁護相談支援センターとして担う機能

以下の各機能を社協が地域権利擁護相談支援センターとして担うものとします。

①総合相談窓口機能（相談受付の一本化）

市民や親族、地域の支援者等からの権利擁護に関する相談を一元的に受け付けます。「どの事業の対象者であるか」を初めから振り分けるのではなく、まずは相談を受け止め、チームで支援を組み立てる入り口とします。これは、相談者から見た現在の「あんしん狛江」という相談窓口のあり方を変えるものではなく、相談を受ける側である社協の運営上の変更となります。地域の中で一定程度の実績と関係性のある「あんしん狛江」としての強みを生かしつつ、制度改正等へ対応しうる相談体制を整備します。

②支援検討機能

支援検討機能を、各事業を束ねる中核機関の中心に位置づけます。あんしん狛江内での支援方針の判断のほか、多職種による支援会議において情報を共有し、本人の意思を中心に支援方針を検討・決定します。

単身高齢者等支援事業の定期訪問や、地域福祉権利擁護事業及び成年後見あんしん生活事業におけるモニタリングで把握した変化も、すべてこの支援検討機能に集約されます。

③調整・バックアップ機能（事業・専門機関の連携）

本人の状態が変化した際には、成年後見あんしん生活事業、さらに、市民後見人や法人後見・法人監督を担う多摩南部成年後見センターへと、切れ目なくつなぎます。

また、成年後見制度のモニタリングを行うことで本人の意思及び「支援チーム」の機能を確かめるとともに、制度の利用が終了する場合にもスムーズに地域の支援につながることでできる循環をつくります。

④直接支援機能（福祉サービス利用援助・日常的金銭管理等）

地域福祉権利擁護事業・福祉サービス総合支援事業（地域福祉権利擁護事業対象拡大）・単身高齢者等支援事業による、福祉サービス利用援助や日常的金銭管理、生活状況の見守りを、本人の状況に応じて連続的に提供します。これらは対象要件や契約の根拠こそ異なりますが、提供する支援の内容は共通しており、本人の判断能力や親族の状況に応じて、同様の支援を届けるものです。

（２）地域権利擁護相談支援センターの社協の実施体制

上記の機能を地域権利擁護相談支援センターが担うため、令和９年度に社協の正規職員を２名増員し以下の体制で実施します。

①総合相談窓口機能

対象者の間口を広くとっている単身高齢者等支援事業の「相談・コーディネート事業」を権利擁護相談として拡大する形で運用します。相談受付は正規職員全員がそれぞれの主担当業務のほかに兼務で担います。係内において相談の振り分けを行い、各事業へつなぐほか必要に応じ支援検討機能へとつなぎます。

②③支援検討・調整機能

成年後見あんしん生活事業と支援検討機能を担う職員は成年後見制度の利用支援、受任調整、後見方針立案、モニタリング、支援検討会議の運営を主担当業務とします。総合相談を受けつつ、横断的な調整に注力することで、本人が必要とする支援に適切なタイミングでつながるよう支援します。

④直接支援機能

本人の意思を確かめつつ、本人にふさわしい事業にて契約できるよう、地域福祉権利擁護事業・福祉サービス総合支援事業・単身高齢者等支援事業の継続支援ケースを、兼務で担います。職員が事業区分にとらわれずケースを担当できるようにすることで、本人が利用する事業が変わった場合にも、支援担当者を都度変更することなく継続的な支援が可能になります。

４ 地域権利擁護相談支援センター（中核機関）の設置時期等

令和９年度予算成立後に速やかに職員の採用を社協で行うため、令和９年４月から令和９年９月までは準備期間とし、令和９年１０月１日から地域権利擁護相談支援センター（中核機関）を設置します。

また、単身高齢者等支援事業については、利用者アンケートをもとに、より本人が利用しやすい制度設計を模索するとともに、国が提唱している利用者のうち一定割合以上に無料又は低額の料金で提供することを含めて、今後出てくる指針等を注視しながら、事業を実施していきます。